

第 6 回淑徳大学学生生活

実態調査報告書



2014年3月

淑 徳 大 学

刊 行 に あ た っ て

本学では、1993 年第 1 回学生生活実態調査の実施をスタートに、以後 4 年に一度の実施を今日まで 20 年にわたり継続してきました。第 1 回以来今回に至るまでそのねらいは、今回の報告書にもある通り、「本学における自己点検・評価の一環として、淑徳大学に学ぶ学生が、日頃本学の教育等に対してどのように考え、どのような学生生活を送っているか等を把握し、今後の淑徳大学のあり方を考える上での基礎データを収集すること」にあります。今回の実態調査は、前回 2009 年の第 5 回の実態調査に続いて、通算で 6 回目となり、ここに第 6 回の報告書を刊行する運びとなりました。

今回の調査対象となった学生は、大学全体の学部・学科の再編の過程にある 3 キャンパス 6 学部 13 学科に在籍する学生であり、前回までと比べると対象学生の所属学部・学科も、今回新たにコミュニティ政策学部（コミュニティ政策学科）、経営学部（経営学科、観光経営学科）、教育学部（こども教育学科）、看護栄養学部（栄養学科）が加わっています。従って今回の調査は、これらの新たに調査対象となった学部・学科の学生の生活実態に触れる初めての機会であり、その結果は新たに再編された学部・学科がそこに所属する学生にどのように受け止められているのかを知る重要なデータであるといえます。

私たち教職員は、この実態調査を通して初めて大学全体としての、即ち淑徳大学の学生の生活の全体像を理解すると同時に、学生の生活状況、大学生活の状況、学生生活の悩み、学生生活への満足度、大学の教育環境への満足度、大学への評価（要望・意見を含む）等についての具体的で、かつ重要なデータを得ることができました。私たち教職員の皆さんには、日頃の教育研究活動、教学運営、教育環境の管理運営等の業務において、この報告書をいわばハンドブックとして手元に置き、その業務への取り組みや改善に役立たせていただければと思います。大学として、この実態調査が学生の皆さんにとって今後、学生の生活のより一層の豊かさにつながるよう、諸方面の改善・改革に向けた対応策の検討、学生サービスのさらなる向上等に努めてまいる所存です。

最後に、今回の実態調査の実施にあたり、ご協力いただきました学生の皆さんに心より厚く御礼申し上げます。また、第 6 回学生生活実態調査実行委員会各位の皆さんには、報告書の作成にあたり、それぞれ各章（調査の大項目）の最後に、結果についての評価とまとめを記載することにも見られるよう、読みやすく、実効性のある報告書に成るよう工夫されるなど、そのご努力とご苦勞に感謝いたします。

学長 足立 叡

目 次

I. 調査の概要

(1) 調査の目的	1
(2) 調査対象	1
(3) 調査の方法及び実施時期	1
(4) 有効回収率	2

II. 調査結果

第1章 回答者の属性 F1 ~ F6	3
(1) 基本属性：性別・学年・所属学部・学科	3
(2) 受験した入試の種類	4
(3) 淑徳大学を選んだ理由	6
(4) 志望の状況	9
第2章 生活状況	10
(1) 現在の住まい F7	10
(2) 通学時間 F8	10
(3) 貸与奨学金の受給状況 F9	11
(4) アルバイト Q3	13
(5) 日常生活の習慣や傾向 Q7	20
第3章 大学生活の状況	28
(1) 授業への取り組みや態度 Q6	28
(2) 学生団体や組織への所属 Q2	35
(3) 友人関係及び教職員との関係 Q8	38
(4) 学生のマナー Q9	40
第4章 学生生活の悩み	44
(1) 学生生活の悩み Q4	44
(2) ハラスメント相談窓口 Q5	48

第5章 学生生活への満足度	50
(1) 大学生活での実現状況 Q1	50
(2) 大学生活で身についたこと Q10	54
(3) 学生生活全体への自己評価 Q11	64
第6章 大学の教育環境 Q12	69
(1) 授業・教員に関する満足度 1) ～ 8)	69
(2) 教室の備品・設備に関する満足度 9) ～ 12)	74
(3) 事務対応に関する満足度 13) ～ 15)	76
(4) 図書館(室)・パソコン室に関する満足度 16) ～ 21)	78
(5) 食堂・購買等に関する満足度 22) ～ 23)	81
(6) その他の設備・学生サービスへの満足度 24) ～ 32)	83
第7章 全体的な評価 Q13 ～ Q15	90
(1) 淑徳大学への評価	90
(2) 淑徳大学の良い点、勧めたい点(自由回答から)	92
(3) 淑徳大学への要望、意見(自由回答から)	92
Ⅲ. 「第6回淑徳大学学生生活実態調査」調査票	93

I. 調査の概要

I. 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、本学における自己点検・評価の一環として、淑徳大学に学ぶ学生が、日頃本学の教育等に対してどのように考え、どのような学生生活を送っているか等を把握し、今後の淑徳大学のあり方を考える上での基礎データを収集することを目的とする。

(2) 調査対象

平成 25 年 10 月 31 日現在で、総合福祉学部、コミュニティ政策学部、国際コミュニケーション学部、経営学部、教育学部、看護栄養学部¹に在学する、休学者を除く全学生を対象とした。(表 I-1-1)

表 I-1-1 在学学生数(平成25年10月1日現在)

	総合福祉学部					コミュニティ政策学部	国際コミュニケーション学部			
	社会福祉学科	教育福祉学科	実践心理学科	人間社会学科	学部計	コミュニティ政策学科/学部計	人間環境学科	経営コミュニケーション学科	文化コミュニケーション学科	学部計
1年次生	241	173	112	—	526	115	—	—	117	117
2年次生	236	171	113	—	520	119	123	—	84	207
3年次生	240	173	105	—	518	134	102	102	94	298
4年次以上	317	—	177	4	498	97	115	109	118	342
計	1034	517	507	4	2062	465	340	211	413	964

	経営学部			教育学部	看護栄養学部			大学計
	経営学科	観光経営学科	学部計	こども教育学科/学部計	看護学科	栄養学科	学部計	
1年次生	79	69	148	112	107	83	190	1208
2年次生	68	32	100	—	108	69	177	1123
3年次生	—	—	—	—	108	—	108	1058
4年次以上	—	—	—	—	98	—	98	1035
計	147	101	248	112	421	152	573	4424

なお、総合福祉学部の人間社会学科は、コミュニティ政策学部コミュニティ政策学科の開設に伴い平成 22 年 4 月に募集停止したため、在学学生は 4 年次生以上である。また、国際コミュニケーション学部人間環境学科は、平成 25 年 4 月に募集停止になったため、在学学生は 2 年次生以上であり、同学部経営コミュニケーション学科は平成 24 年 4 月に募集停止となったため、在学学生は 3 年次生以上である。一方、平成 24 年 4 月に新たに開設された経営学部の在学学生は 2 年次生までである。また、教育学部は平成 25 年 4 月に新たに開設されたため、在学学生は 1 年次生のみである。看護栄養学部の栄養学科も平成 24 年 4 月に開設されたため、在学学生は 2 年次生までである。

(3) 調査の方法及び実施時期

調査は、自記式の質問紙を用いたアンケート調査により実施した。調査票の配布は、平成 25 年 9 月下旬から 10 月 31 日(一部は 11 月上旬)にかけて、各学部必修の授業時間等を活用して、実施した。

調査票の回収は、封筒に密封した後、教員への手渡ししか、各キャンパス備え付けの「アンケート回収

ボックス」への投函という方法によって行った。回収の締め切りは6学部とも平成25年10月31日（一部は11月上旬）までとした。

（4）有効回収率

今回の有効回答者数は、総合福祉学部 1,442 人、コミュニティ政策学部 373 人、国際コミュニケーション学部 702 人、経営学部 200 人、教育学部 103 人、看護栄養学部 374 人の計 3,194 人であった。回収率は、総合福祉学部 69.9%、コミュニティ政策学部 80.2%、国際コミュニケーション学部 72.8%、経営学部 80.6%、教育学部 92.0%、看護栄養学部 65.3%であった。（表 I-2-1）

表 I-2-1 有効回収率

	総合福祉学部					コミュニティ政策学部	国際コミュニケーション学部			
	社会福祉学科	教育福祉学科	実践心理学科	人間社会学科	学部計	コミュニティ政策学科/学部計	人間環境学科	経営コミュニケーション学科	文化コミュニケーション学科	学部計
1 年次生	88.0%	81.5%	82.1%	—	85.2%	80.9%	—	—	57.3%	59.0%
2 年次生	77.1%	64.3%	90.3%	—	75.8%	78.2%	79.7%	—	79.8%	81.6%
3 年次生	47.9%	59.0%	42.9%	—	50.8%	82.1%	75.5%	79.4%	80.9%	80.9%
4 年次以上	67.5%	—	63.8%	50.0%	66.7%	76.3%	58.3%	58.7%	71.2%	63.7%
※計	70.0%	68.5%	69.4%	50.0%	69.9%	80.2%	71.2%	69.2%	71.7%	72.8%

	経営学部			教育学部	看護栄養学部			大学計
	経営学科	観光経営学科	学部計	こども教育学科/学部計	看護学科	栄養学科	学部計	
1 年次生	65.8%	81.2%	73.6%	92.0%	63.6%	73.5%	67.9%	78.7%
2 年次生	77.9%	93.8%	89.0%	—	72.2%	52.2%	64.4%	76.5%
3 年次生	—	—	—	—	69.4%	—	69.4%	65.1%
4 年次以上	—	—	—	—	55.1%	—	57.1%	65.7%
※計	72.8%	85.1%	80.6%	92.0%	65.3%	63.8%	65.3%	72.2%

※一部無回答分も含む

学年別にみると、総合福祉学部では1年次生 85.2%、2年次生 75.8%、3年次生 50.8%、4年次生以上 66.7%、コミュニティ政策学部では1年次生 80.9%、2年次生 78.2%、3年次生 82.1%、4年次生以上 76.3%、国際コミュニケーション学部では1年次生 59.0%、2年次生 81.6%、3年次生 80.9%、4年次生以上 63.7%、経営学部では、1年次生 73.6%、2年次生 89.0%、教育学部では1年次生 92.0%、看護栄養学部では1年次生 67.9%、2年次生 64.4%、3年次生 69.4%、4年次生以上 57.1%となっている。

前回のアンケート（平成21年実施）実施において、総合福祉学部では学年間の回収率の差が大きく、1年次生 71.8%、2年次生 39.6%、3年次生 47.3%、4年次生以上 41.5%、総合福祉学部全体 49.3%であり、回収率が最も高い1年次生と最も低い2年次生とを比較すると20ポイント以上の開きがあった。特に2年次生の回収率が低かったことは、調査票の配布方法の際に、前学年を過不足なくカバーする科目の担当者が専任教員とは限らなかったため、調査の実施に対する周知が十分に徹底されなかったところが大きかったものと考え、今回のアンケートにおいてはその点を改善し配布及び回収を行った。その結果、今回のアンケート実施において、総合福祉学部全体の回収率は69.9%と前回の49.3%よりも20ポイント近く回収率が上がった。

Ⅱ. 調 査 結 果

Ⅱ. 調査結果

第1章 回答者の属性

(1) 基本属性：性別・学年・所属学部・学科

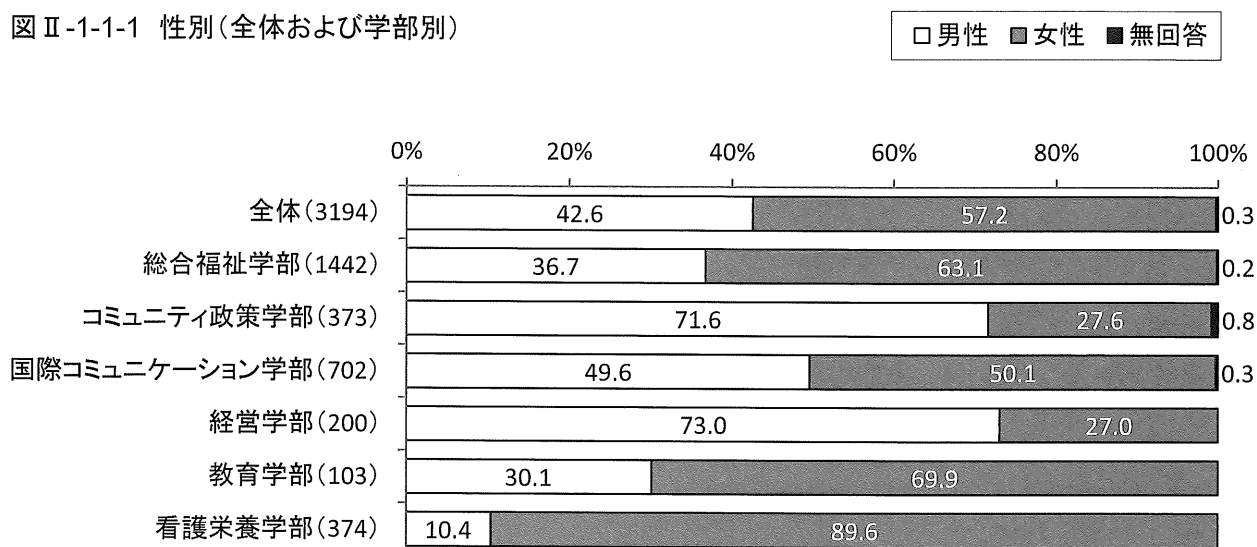
女子学生がやや多い傾向強まる

1) 性別

回答者 3,194 人の性別に関する内訳は、男性が 1,360 人 (42.6%)、女性が 1,826 人 (57.2%) であり、女性が 15 ポイント近く多かった。無回答は 8 人 (0.3%) である。

学部別にみると、看護栄養学部と教育学部、総合福祉学部で女子学生の比率が高く、反対に経営学部とコミュニティ政策学部では男子学生の比率が高くなっている。国際コミュニケーション学部は男女がちょうど半々である。(図Ⅱ-1-1-1)

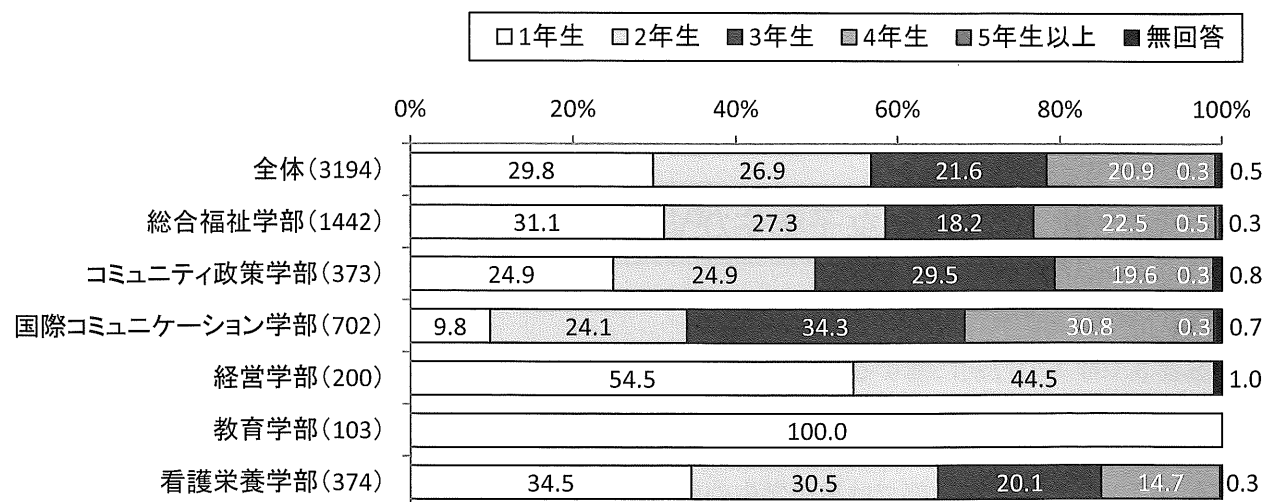
図Ⅱ-1-1-1 性別(全体および学部別)



2) 学年

回答者 3,194 名の学年別内訳は、1 年生が 951 人 (29.8%)、2 年生が 859 人 (26.9%)、3 年生が 689 人 (21.6%)、4 年生が 669 人 (20.9%)、5 年生以上が 11 人 (0.3%)、無回答が 15 人 (0.5%) である。大学全体という観点で見れば、今回の調査は一部の学年に偏ることなく、1 年生から 4 年生までの学生の回答を得られたといえる。ただし、学部別にみると、当然のことながら、学部設立 1 年目の教育学部では 1 年生のみ、2 年目の経営学部では 1～2 年生のみが回答者となっているなど、学部の状況によりその分布は異なっている。(図Ⅱ-1-1-2)

図Ⅱ-1-1-2 学年(全体および学年別)



3) 学部

回答者 3,194 人が所属する学部の内訳は、総合福祉学部 1,442 人 (45.1%)、コミュニティ政策学部 373 人 (11.7%)、国際コミュニケーション学部 702 人 (22.0%)、経営学部 200 人 (6.3%)、教育学部 103 人 (3.2%)、看護栄養学部 374 人 (11.7%) である。

4) 学科

回答者 3,194 人が所属する学科の内訳は、以下のとおりである。社会福祉学科 724 人 (22.7%)、教育福祉学科 354 人 (11.1%)、実践心理学科 352 人 (11.0%)、人間社会学科 2 人 (0.1%)。コミュニティ政策学部 373 人 (11.7%)、人間環境学科 242 人 (7.6%)、経営コミュニケーション学科 146 人 (4.6%)、文化コミュニケーション学科 296 人 (9.3%)、経営学科 107 人 (3.4%)、観光経営学科 86 人 (2.7%)、こども教育学科 103 人 (3.2%)、看護学科 275 人 (8.6%)、栄養学科 97 人 (3.0%)、無回答 37 人 (1.2%) である。

本報告書の「調査の概要」で言及しているように、上記 13 学科のうち、平成 22 年度に人間社会学科、平成 24 年度に経営コミュニケーション学科、平成 25 年度に人間環境学科、平成 26 年に文化コミュニケーション学科が入学者の募集を停止している。人間社会学科生が 2 名と少数であるのは、そうした理由による。

(2) 受験した入試の種類

AO入試と推薦入試が4分の3占め、増加傾向

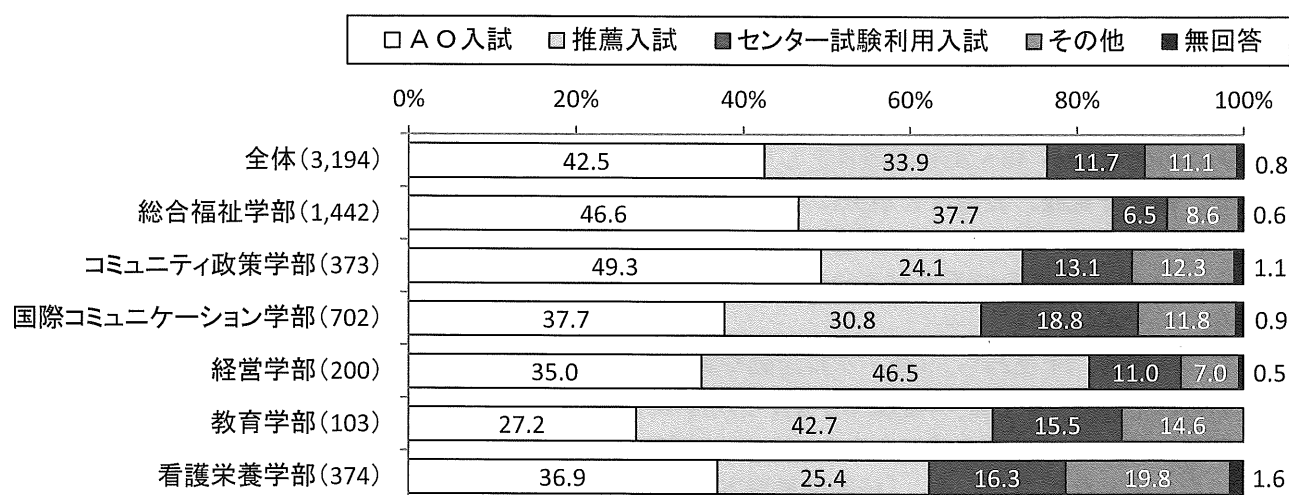
受験した入試の種類について、本調査では選択肢に「AO入試」「推薦入試」「センター試験利用入試」「その他」の四つを用意した。全体 (3,194 人) のなかで、「AO入試」と回答した者は 1,357 人 (42.5%) と最も多く、次に「推薦入試」1,082 人 (33.9%) が多い。この二つの入試の種類で、全体の 75%以上を占めている。「センター試験利用入試」と回答した者は 374 人 (11.7%)、「その他」と回答した者は 356

人(11.1%)であった。「その他」を選んだ者が全体の1割に達した理由の一つは、選択肢に「一般入試」という入試種類を用意しなかったためと考えられる。以上のほかに、無回答の者が25人(0.8%)いた。

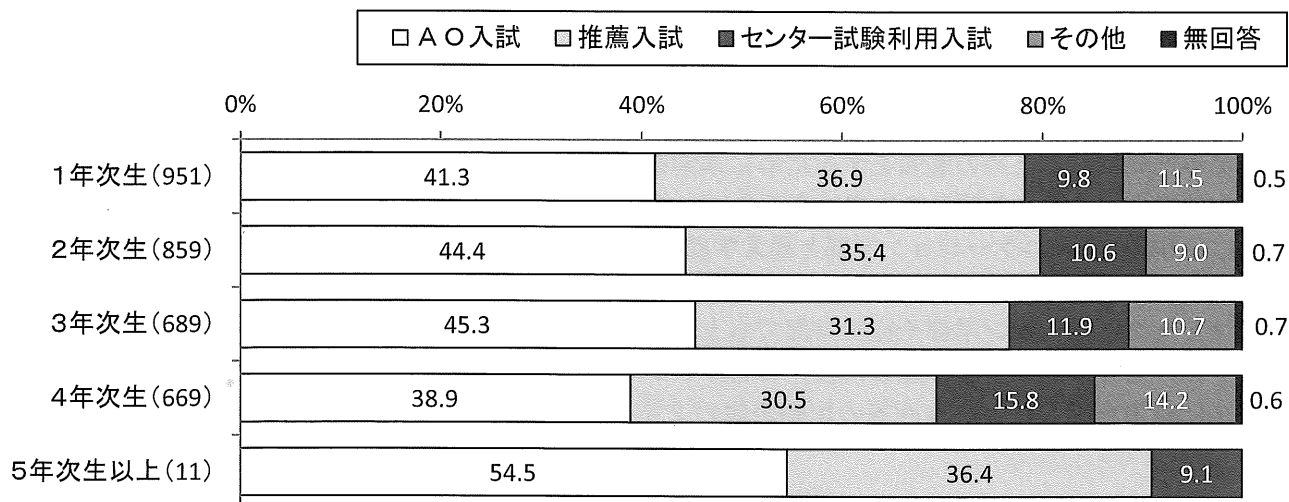
学部別にみると、下図が示すように、千葉第1キャンパスにあるコミュニティ政策学部や総合福祉学部において「ＡＯ入試」を受験したと回答した者の比率が高い一方で、埼玉キャンパスにある経営学部や教育学部においては「推薦入試」を受験したと回答した者の比率が相対的に高くなっている。(図Ⅱ-1-2-1)

学年別では、ＡＯ入試は3年生が45.3%と最も多く、その後若干の減少傾向がみられた。一方、推薦入試は学年が下がるごとに徐々に増加している。この2つの入試を合わせると1、2年生では8割弱を占めている。(図Ⅱ-1-2-2)

図Ⅱ-1-2-1 受験した入試の種類(全体および学部別)



図Ⅱ-1-2-2 受験した入試の種類(学年別)



(3) 淑徳大学を選んだ理由

本学を選んだ理由は専門的な勉強をしたいが6割

淑徳大学を選んだ理由について 20 項目を用意し、複数回答方式で回答を得た。

大学全体での回答傾向を見てみると、「自分が所属する学科・コースの専門的な勉強をしたかったから」59.4%が最多で、以下、多い順に並べると「免許や資格を取得できると思ったから」51.2%、「将来つきたい仕事に必要な勉強がしたかったから」47.0%、「自宅から通学できるから」35.6%、「オープンキャンパスに参加し、印象が良かったから」23.3%などという項目が続く。高等教育機関である以上、専門知識や高度な職業人になるためのスキルの獲得が大学選択理由の上位に挙がることは当然のことといえるかもしれないが、それらに続く項目に「自宅から通学できる」という立地条件と「オープンキャンパスの印象の良さ」が挙げられている。とりわけ、オープンキャンパスでの体験が本学を選んだ理由の上位に位置している点は注目に値するだろう。

選択された比率が 10～20%の項目としては、「自分の学力に合っていたから」19.2%、「キャンパスの雰囲気、環境や施設、設備などが気に入ったから」18.6%「高校や予備校の先生にすすめられたから」17.3%、「自分の勉強したい科目が揃っているから」14.1%、「実践的・実学的な教育方法に魅力を感じたから」12.9%、「自分の所属する学科・コース以外の科目も広く勉強できると思ったから」11.9%などがある。

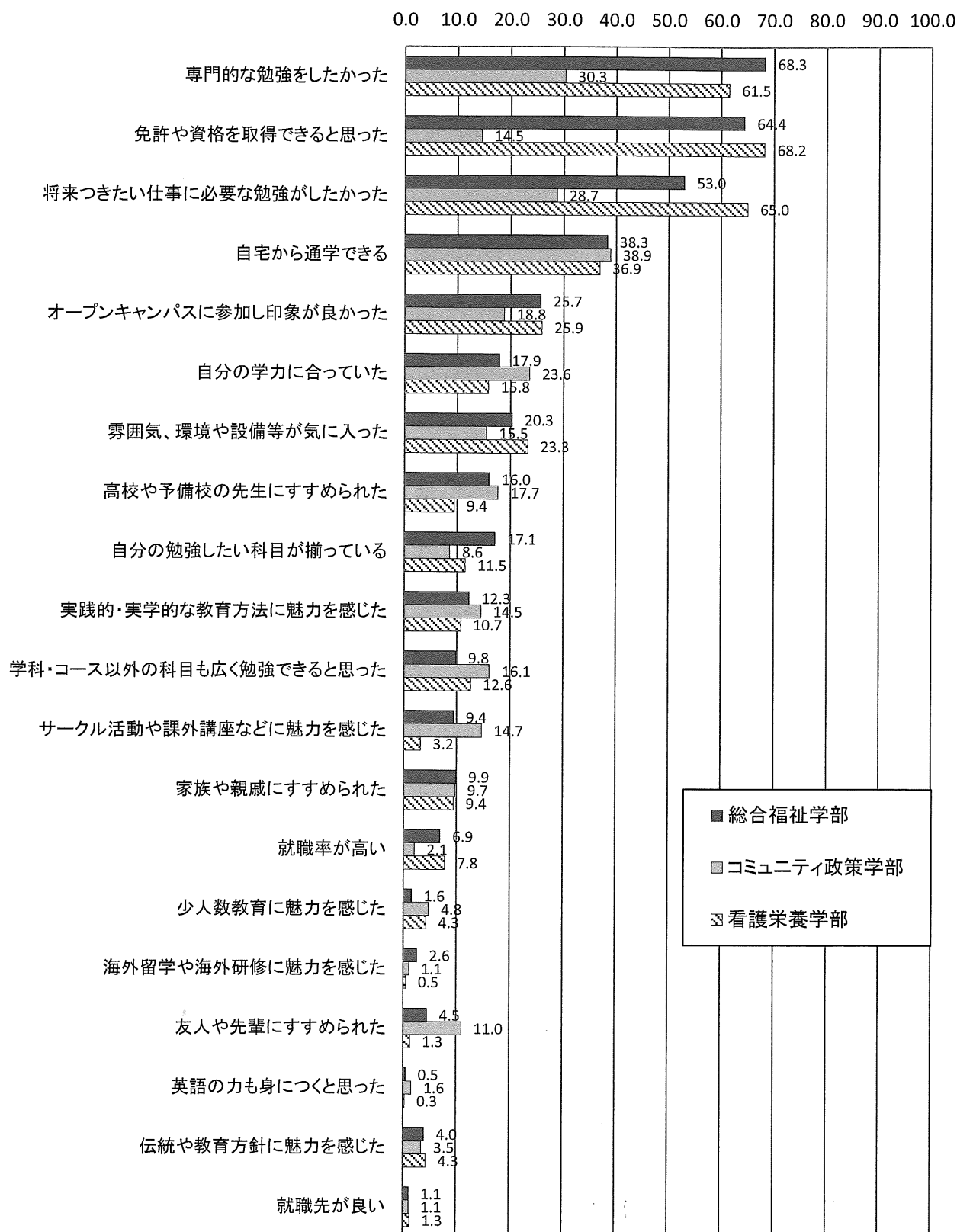
残りの 9 項目、すなわち、「サークル活動や課外講座などに魅力を感じたから」9.1%、「家族や親戚にすすめられたから」8.6%、「就職率が高いから」8.3%、「少人数教育に魅力を感じたから」7.6%、「海外留学や海外研修に魅力を感じたから」5.9%、「友人や先輩にすすめられたから」5.7%、「英語の力も身につくと思ったから」4.0%、「伝統や教育方針に魅力を感じたから」3.4%、「就職先が良いから」1.4%といった項目は、いずれも選択された比率が 10%未満であった。

では、淑徳大学を選んだ理由について、学部間に違いがあるだろうか。6 学部をキャンパスごとの 2 グループに分けて比較した結果を図示した。なお、図中の 20 項目は、大学全体の分布をみた場合に多い順に並べてある。

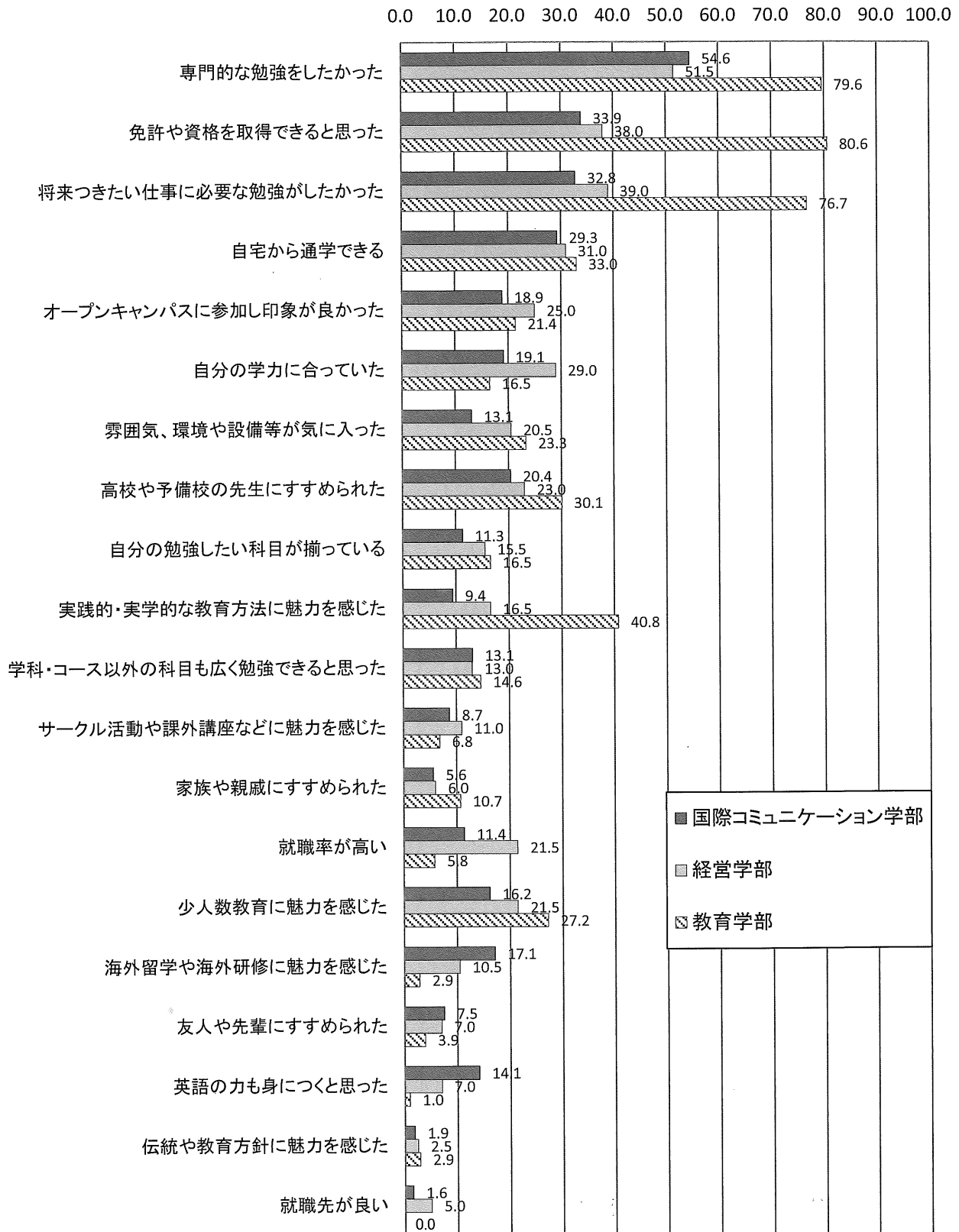
まず、総合福祉学部とコミュニティ政策学部、看護栄養学部の 3 学部について回答の傾向をみてみると、総合福祉学部と看護栄養学部については、両学部とも 6～7 割の学生がそれぞれ目指す将来の仕事、とくに専門職になるための勉強をするために本学を選んだと回答している。しかし、コミュニティ政策学部生の場合、そうした項目の比率は高くない。(図Ⅱ-1-3-1)

次に、国際コミュニケーション学部と経営学部、教育学部の 3 学部について回答の傾向をみてみよう。免許資格の取得や専門的な勉強、将来の仕事を見据えた学びをするために本学を選んだという回答は、国際コミュニケーション学部や経営学部でも上位項目ではあるものの、図が示すように、そうした回答はとりわけ教育学部の学生に顕著に多いことがわかる。また、教育学部生の場合、実践的・実学的な教育方法に魅力を感じたという回答の比率が他の 2 学部のそれと比べると明らかに高くなっている。(図Ⅱ-1-3-2)

図Ⅱ-1-3-1 淑徳大学を選んだ理由(複数回答 %)
千葉第1・第2キャンパス



図Ⅱ-1-3-2 淑徳大学を選んだ理由(複数回答 %)
埼玉キャンパス



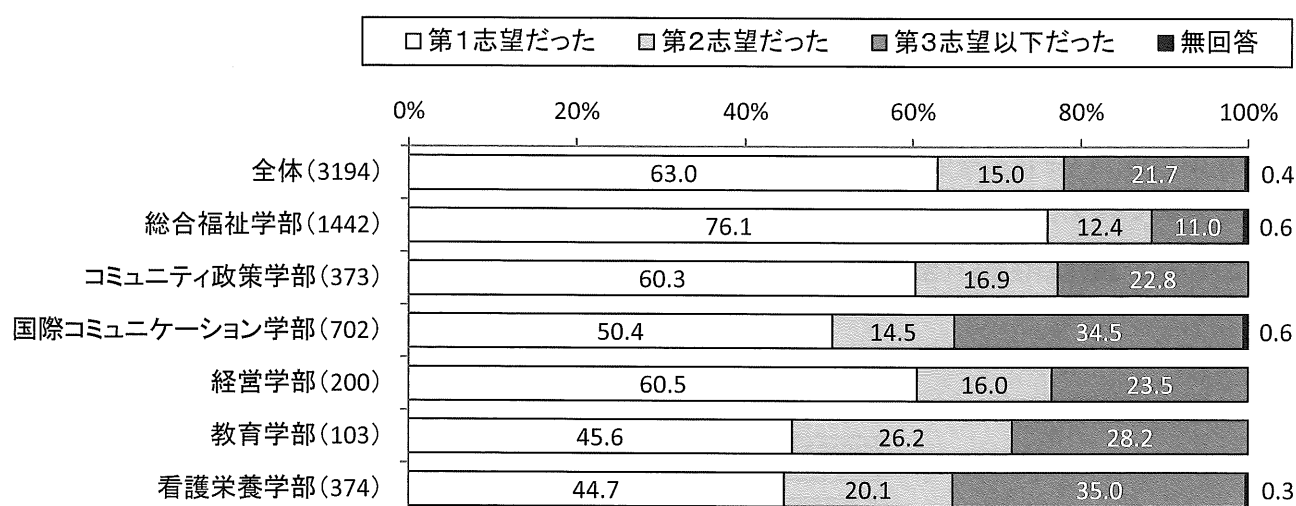
(4) 志望の状況

本学が第1志望は63%

本学への入学が学生にとって希望どおりであったのかどうかを知るために、志望の状況をたずねたところ、全体では本学が「第1志望だった」者が2,011人(63.0%)で最も多く、「第2志望だった」者は478人(15.0%)、「第3志望以下だった」者は692人(21.7%)であった。このほかに、無回答が13人(0.4%)いた。

学部別に見てみると、「第1志望だった」者の比率が最も高い学部は総合福祉学部76.1%であり、経営学部60.5%、コミュニティ政策学部60.3%、国際コミュニケーション学部50.4%とつづく。教育学部と看護栄養学部の場合、「第1志望だった」者の比率は50%を下回っている。(図Ⅱ-1-4-1)

Ⅱ-1-4-1 志望の状況(全体および学部別)



第1章 回答者の属性のまとめ

回答者の性別の内訳は、前回調査(2010年)で男性44.0%、女性56.0%であったのに対し、今回の調査では男性42.6%、女性57.2%と、女子学生がやや多い傾向が強まっている。女子学生の比率の高い教育学部の新設および看護栄養学部の学生数が増えたことが影響していると思われる。

入試の種類では、前回調査でAO入試と推薦入試が増えていることが指摘されていたが、今回は学年別に見ると、AO入試は3年生が最も多く、その後若干の減少傾向がみられ、一方、推薦入試は学年が下がるごとに徐々に増加している。この2つの入試を合わせると1、2年生では8割近くまで達しており、依然として増加傾向がみてとれる。本学が第1志望だった者は、前回が59.5%であったのに対し、今回は63.0%で増加したが、教育学部と看護栄養学部では半数を下回った。

本学を選んだ理由からは、将来の仕事や資格に結びつく専門的な知識、技術を身につけたいという専門志向の高さがうかがわれ、特に教育学部の学生にその傾向が強かった。このような学習意欲をさらに高めることのできる教育環境を提供するべく努力が必要であろう。

第2章 生活状況

(1) 現在の住まい

家族と同居が8割超える

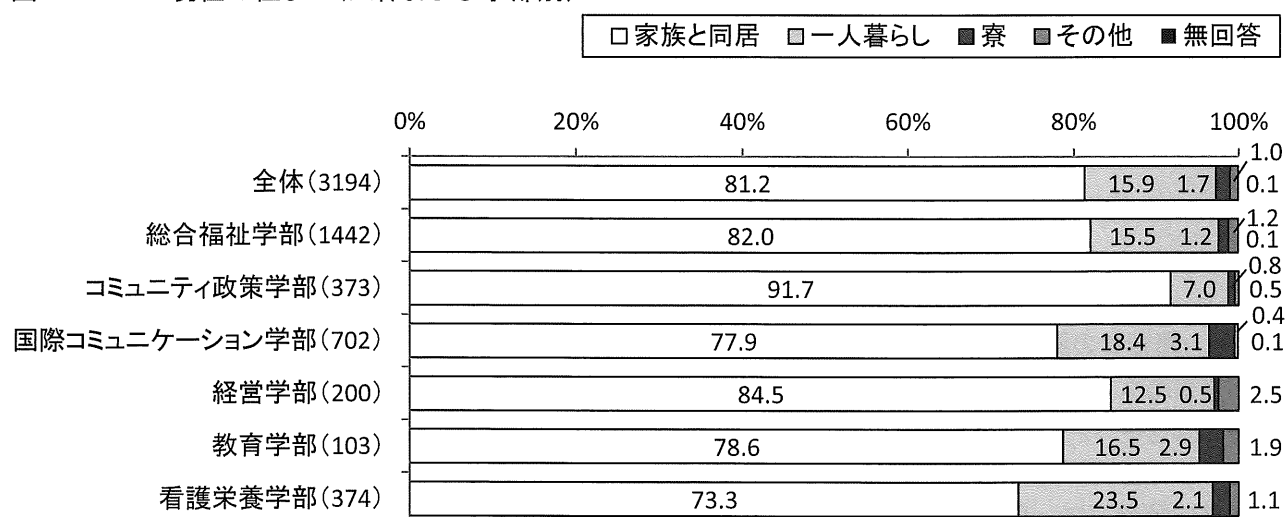
現在の住まいは、大学全体では、「家族と同居」2,595 人 (81.2%)、「一人暮らし」509 人 (15.9%)、「寮」55 人 (1.7%)、「その他」33 人 (1.0%) の順となっていた。

これを学部別にみると、現在の住まいが「家族と同居」は、総合福祉学部 1,182 人 (82.0%)、コミュニティ政策学部 342 人 (91.7%)、看護栄養学部 274 人 (73.3%)、国際コミュニケーション学部 547 人 (77.9%)、経営学部 169 人 (84.5%)、教育学部 81 人 (78.6%) であり、その割合が一番高いコミュニティ政策学部では、9 割以上であり一番低い看護栄養学部でも 7 割以上の学生が「家族と同居」であり、学部に係わらず大半を占めていた。(図Ⅱ-2-1-1)

性別では、「家族と同居」は、男子 1,167 人 (85.8%)、女子 1,421 人 (77.8%) と男子の方が多かった。

学年別では、いずれの学部についてみてもどの学年も「家族と同居」の割合が大半を占めており、おおよそ 8 割であった。各学部間での差異はほとんどみられない。

図Ⅱ-2-1-1 現在の住まい(全体および学部別)



(2) 通学時間

通学時間は1時間30分未満が4分の3占める

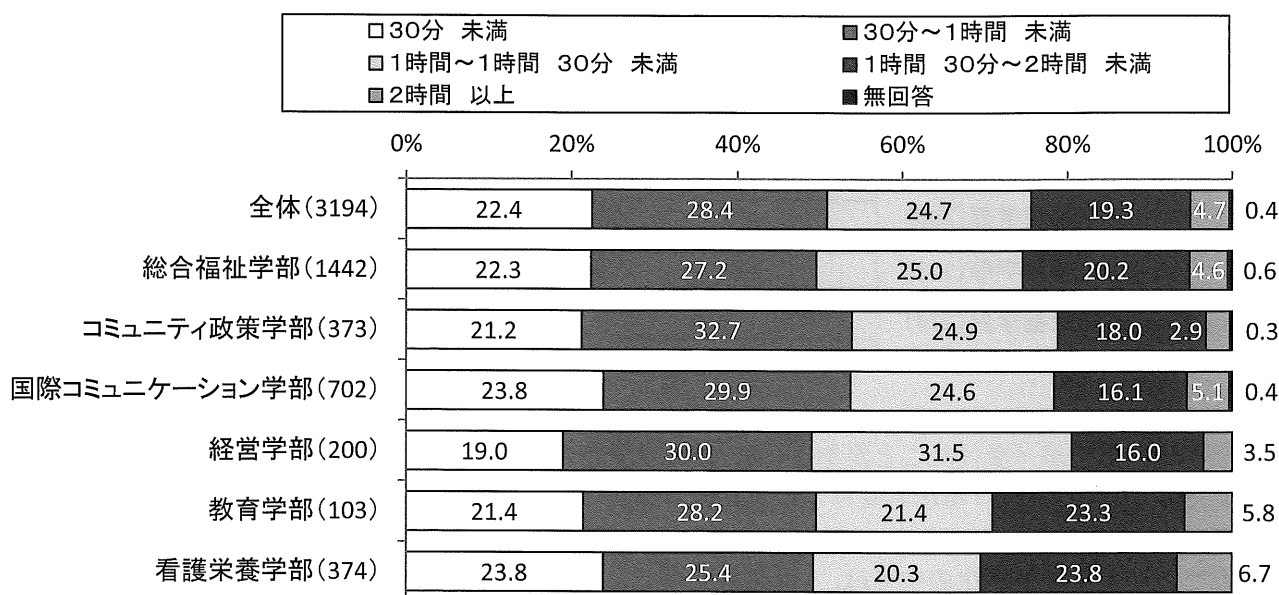
通学時間は、大学全体では「30 分～1 時間未満」28.4%で最も多く、続いて「1 時間～1 時間 30 分未満」24.7%、「30 分未満」22.4%、「1 時間 30 分～2 時間未満」19.3%、「2 時間以上」4.7%であった。

学部別では、「30 分～1 時間未満」の比率が最も高いのは、コミュニティ政策学部で 32.7%、ついで経営学部 30.0%であった。また、「30 分未満」の通学時間の学生は、どの学部も 20%程度存在した。(図Ⅱ-2-2-1)

性別では、男子が、「30分～1時間未満」28.4%、「1時間～1時間30分未満」27.4%、「30分未満」21.0%の順であった。女子では、「30分～1時間未満」28.5%、「30分未満」23.4%、「1時間～1時間30分未満」22.7%の順であった。

学年では、どの学年も1時間30分未満での通学時間が、7割以上と大半を占めていた。

図Ⅱ-2-2-1 通学時間(片道)(全体および学部別)



(3) 貸与奨学金の受給状況

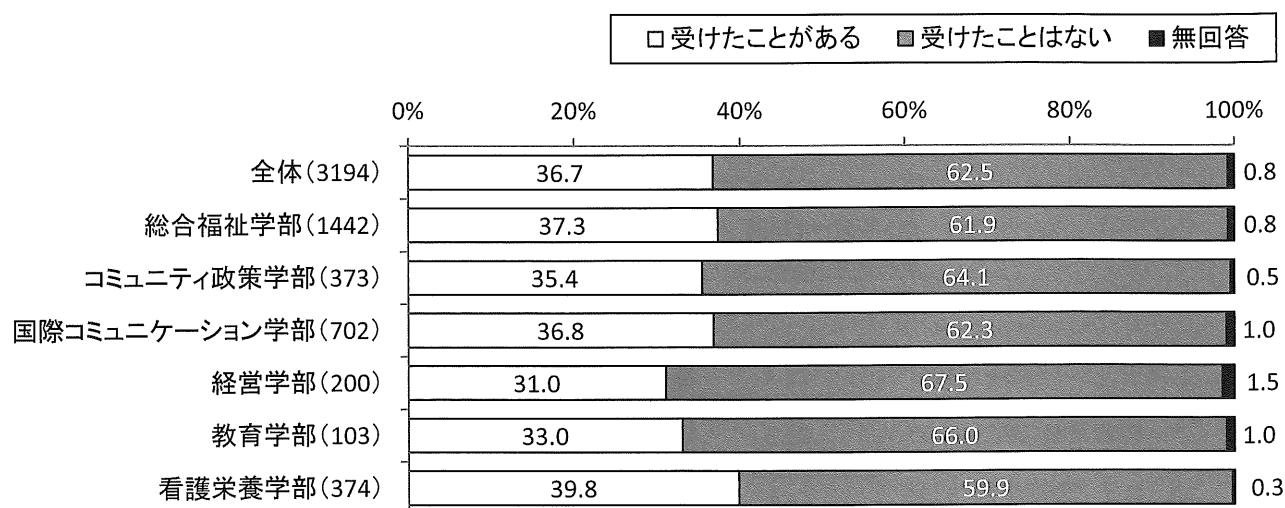
貸与奨学金は37%が受給

大学入学後の貸与奨学金受取りの有無については、大学全体では、「受けたことがある」1,173人(36.7%)、「受けたことがない」1,995人(62.5%)であった。

また、「受けたことがある」学生で現在も貸与奨学金を受け取っているかについては、「受けている」1,096人(93.4%)、「今は、受けていない」73人(6.2%)と受けたことがある学生の9割以上の学生は、引き続き受けている結果であった。

学部別では、「受けたことがある」の比率が高いのは、看護栄養学部149人(39.8%)であり、ついで国際コミュニケーション学部は、258人(36.8%)と高かった。また、「受けたことがある」学生で「現在も受けている」学生の比率が最も高い学部は、教育学部33人(97.1%)であり、ついでコミュニティ政策学部127人(96.2%)が高い比率であった。(図Ⅱ-2-3-1)

図Ⅱ-2-3-1 大学入学後の貸与奨学金受給状況(全体および学部別)



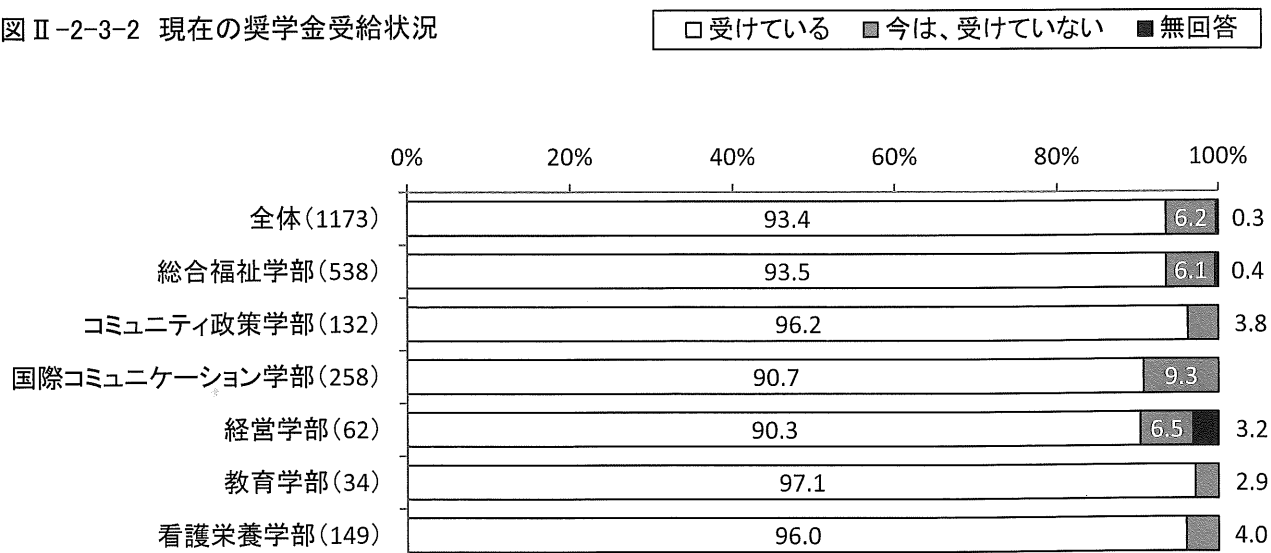
性別では、男子が「受けたことがある」37.1%、「受けたことがない」61.9%であった。受けたことがある男子学生の中では、「現在も受けている」92.7%、「今は、受けていない」6.7%であった。

女子では、「受けたことがある」36.5%、「受けたことがない」62.9%であった。

受けたことがある女子学生の中では、「現在も受けている」94.0%、「今は、受けていない」5.9%であった。

学年別では、「受けたことがある」学年の比率が高いのは、4年次41.6%であり、次に2年次37.0%となっている。また、「現在も受けている」学年の比率が最も高い学年は、1年次98.1%である。ついで2年次、3年次、4年次と続き、下位学年ほど継続して貸与奨学金支給を受けている割合が高い。(図Ⅱ-2-3-2)

図Ⅱ-2-3-2 現在の奨学金受給状況



(4) アルバイト

73%がアルバイト実施

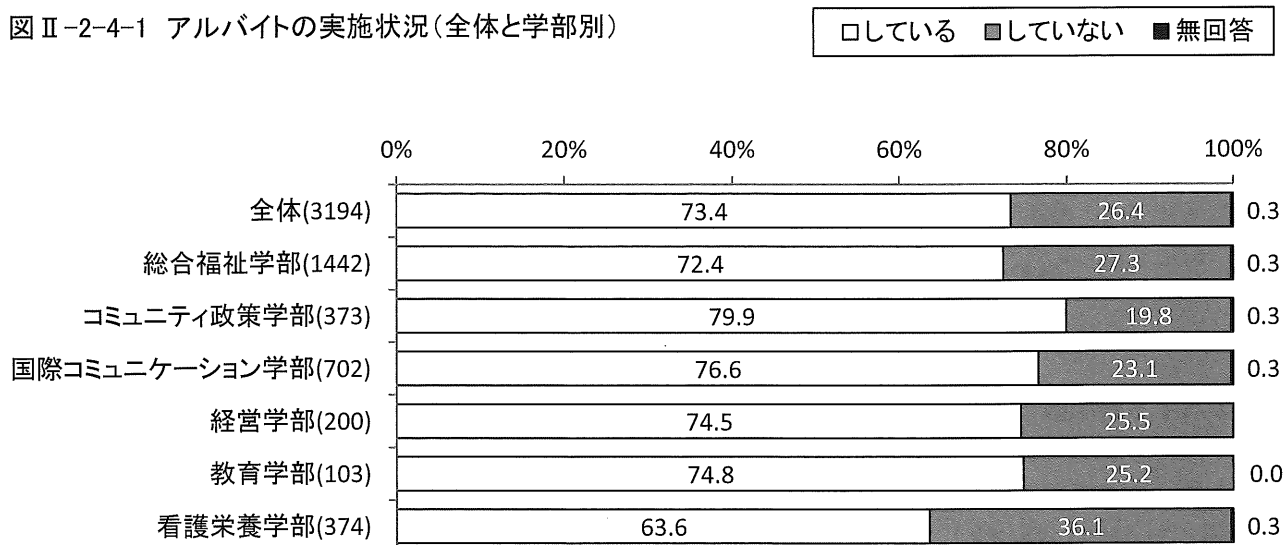
1) アルバイトの実施状況

アルバイトの実施状況について大学全体でみると、アルバイトをしている学生は 2,344 人(73.4%)であった。学部別にみると総合福祉学部が 1,044 人(72.4%)、コミュニティ政策学部が 298 人(79.9%)、国際コミュニケーション学部が 538 人(76.6%)、経営学部が 149 人(74.5%)、教育学部が 77 人(74.8%)、看護栄養学部が 238 人(63.6%)であり、看護栄養学部でやや低い傾向がみられた。(図Ⅱ-2-4-1)

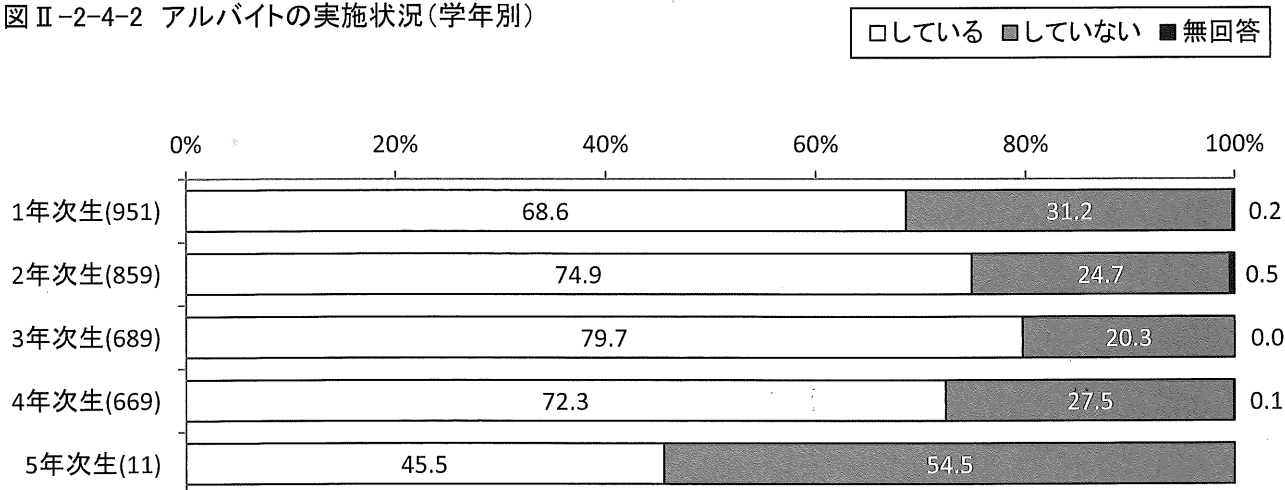
学年別に傾向を見ると、1 年次生は 68.6%、2 年次生は 74.9%、3 年次生は 79.7%、4 年次生は 72.3%であり、学年が上がるにつれてアルバイトをする学生が緩やかに増え、3 年次生が最も多く、4 年次生はやや少なかった。(図Ⅱ-2-4-2)

学科別に見ると、経営コミュニケーション学科が 89.7%と最も多く、看護学科が 62.5%と最も少なかった。(図Ⅱ-2-4-3)

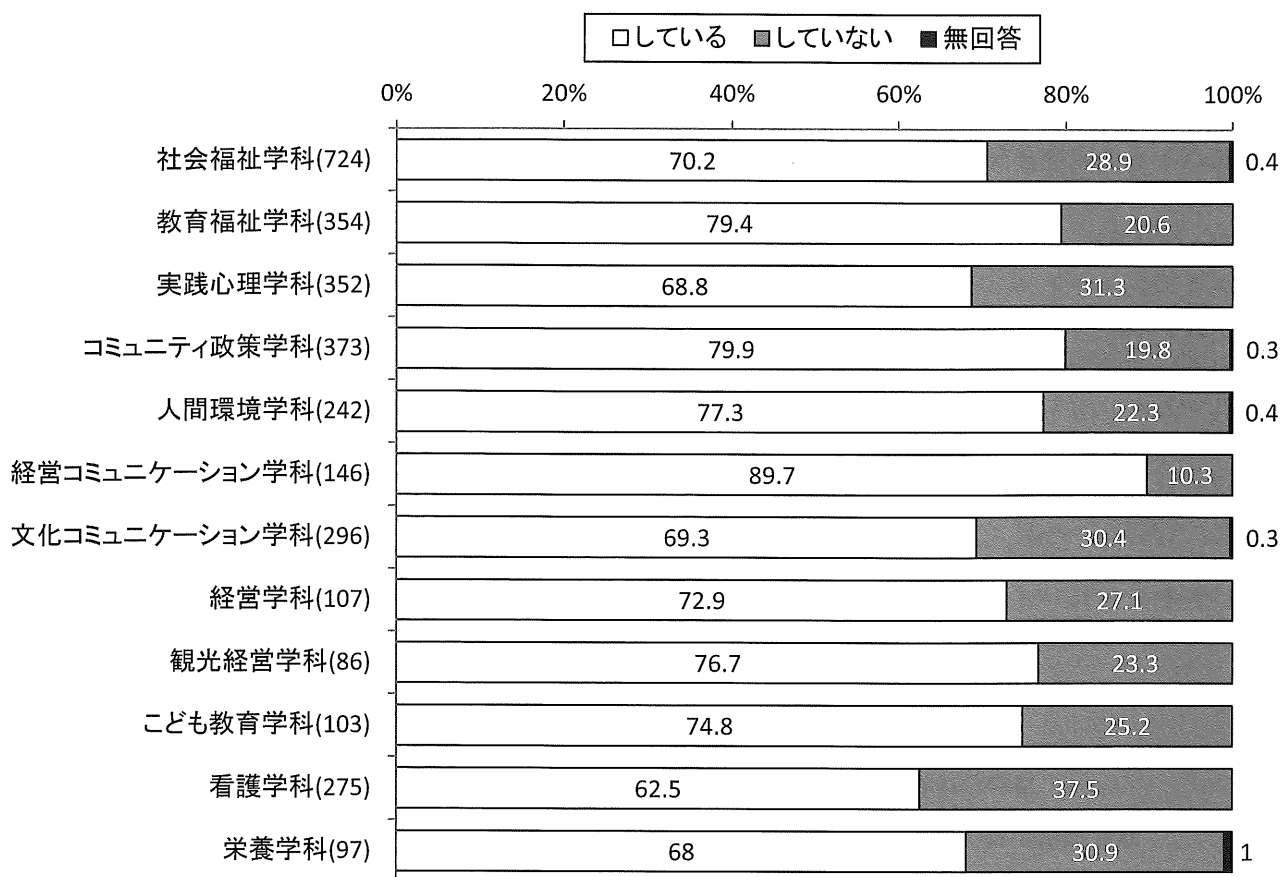
図Ⅱ-2-4-1 アルバイトの実施状況(全体と学部別)



図Ⅱ-2-4-2 アルバイトの実施状況(学年別)



図Ⅱ-2-4-3 アルバイトの実施状況(学科別)



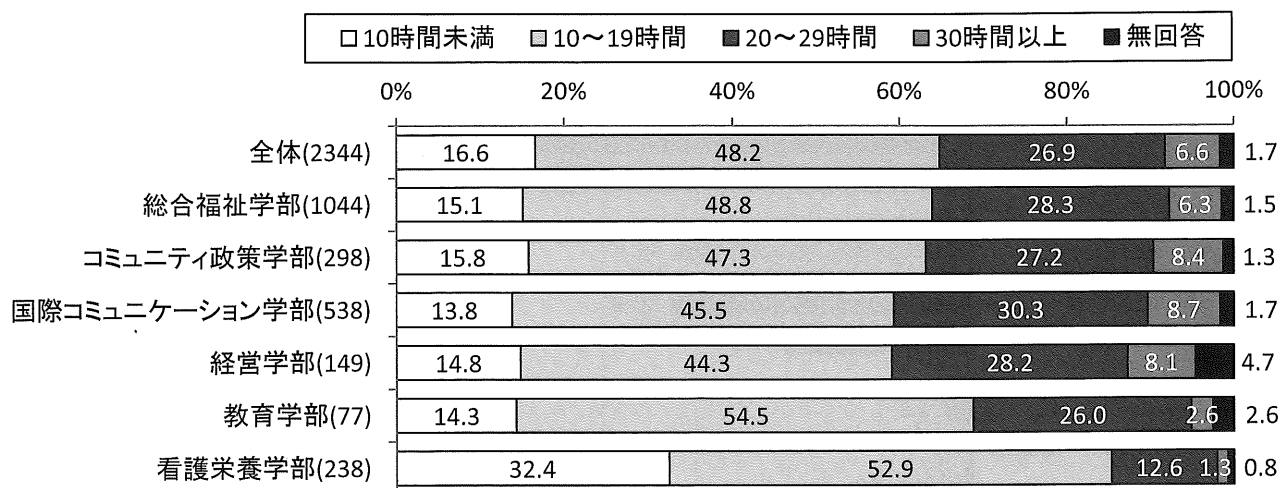
2) アルバイト時間数

アルバイトをしていると回答した学生に授業期間での週あたりの平均アルバイト時間についてたずねたところ、全体では「10 時間～19 時間」という学生が 1,129 人(48.2%)で最も多く、次いで「20 時間～29 時間」が 631 人(26.9%)、「10 時間未満」が 389 人(16.6%)、「30 時間以上」が 155 人(6.6%)、無回答が 40 人(1.7%)であった。

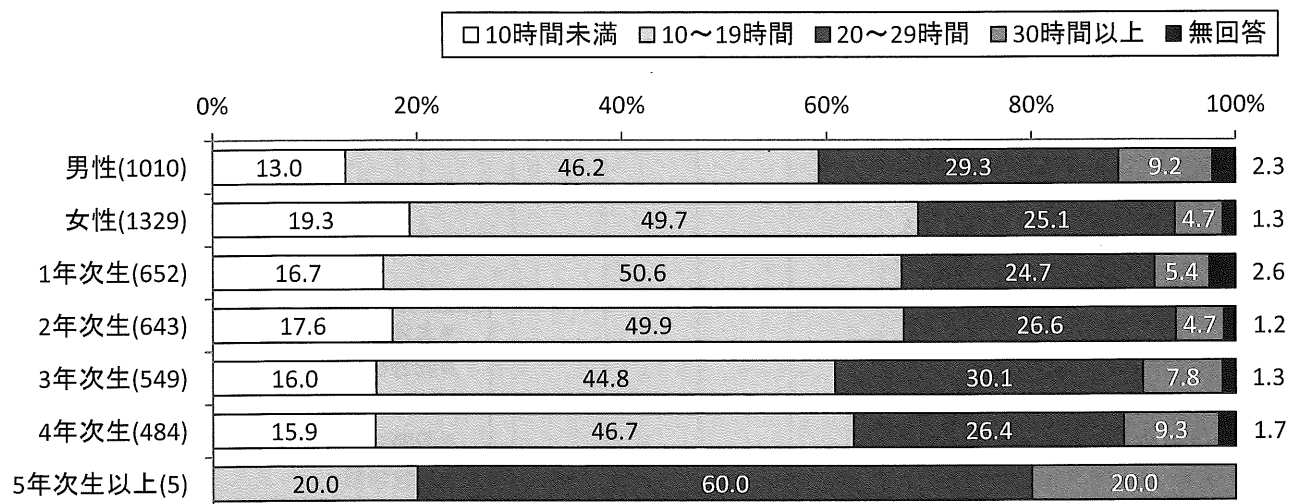
学部別に見てみると、国際コミュニケーション学部の学生にアルバイト時間がやや長く、20 時間以上アルバイトをしている学生が 4 割近くおり、一方、看護栄養学部の学生に短い傾向がみられた。(図Ⅱ-2-4-4)

男女別では男子学生に、また学年別では 3 年次生と 4 年次生にやや長い傾向がみられた。(図Ⅱ-2-4-5)

図Ⅱ-2-4-4 アルバイト時間数(全体と学部別)



図Ⅱ-2-4-5 アルバイト時間数(男女別と学年別)



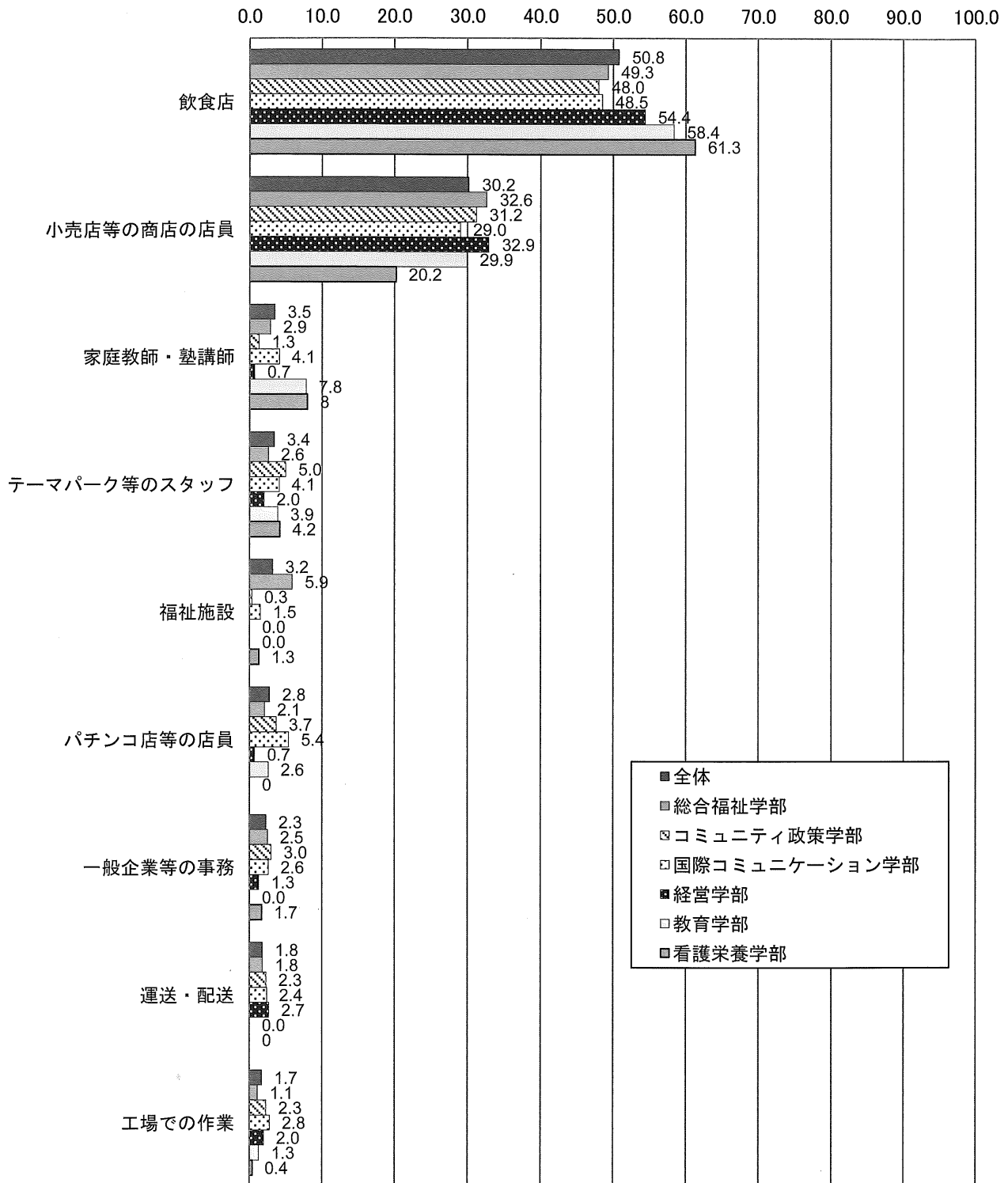
3) アルバイトの業種

アルバイトをしていると回答した学生に業種を13項目用意し、複数回答方式で回答を得た。

全体では「飲食店」1,191人(50.8%)、「小売店等の店員」709人(30.2%)で、この2業種が圧倒的に多かった。他には「家庭教師・塾講師」82人(3.5%)、「テーマパーク等のスタッフ」80人(3.4%)、「福祉施設」74人(3.2%)と続いていた。

学部別では総合福祉学部で「福祉施設」5.9%と多いのが目立ち、学年が進むにつれ増えていた。また、教育学部と看護栄養学部で「飲食店」と「家庭教師・塾講師」が多い傾向がみられた。1%以上の学生が実施していた主な業種を多いものから順に示す。(図Ⅱ-2-4-6)

図Ⅱ-2-4-6 アルバイトの主な業種(複数回答 %)



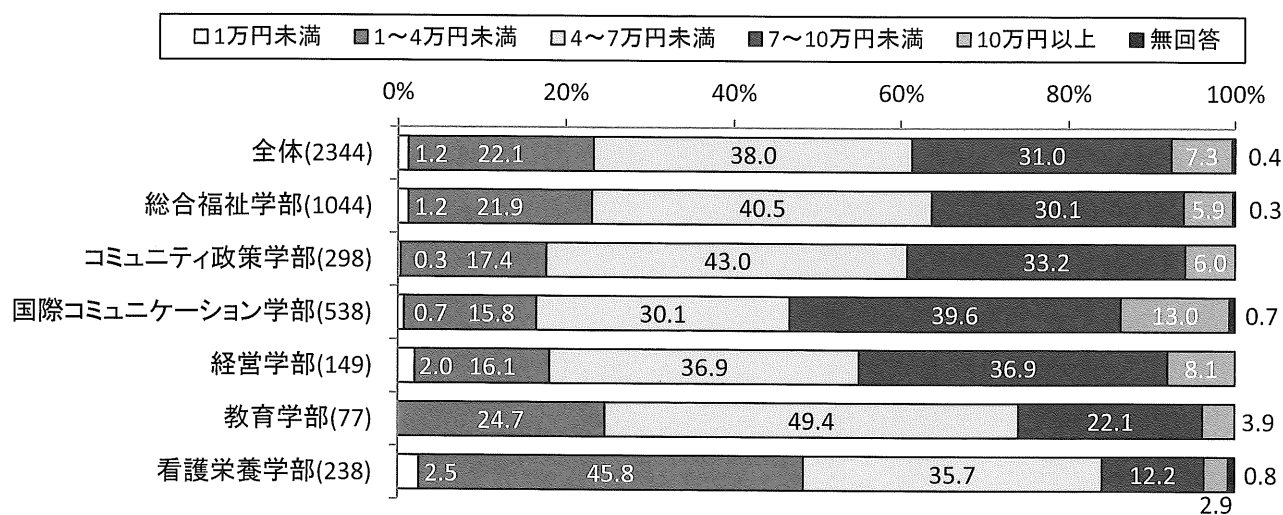
4) アルバイト収入

アルバイトで得ている月収は、全体では「4～7万円未満」が891人(38.0%)で最も多く、次に「7～10万円未満」が727人(31.0%)、「1～4万円未満」が518人(22.1%)と続いていた。

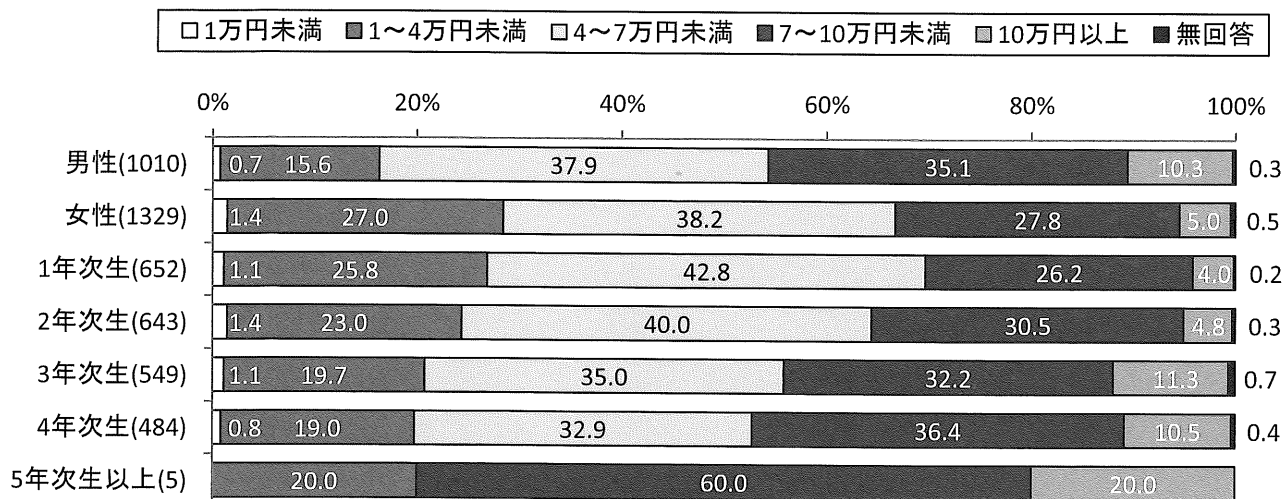
学部別では、国際コミュニケーション学部は「7～10万円未満」39.6%と最も多く、アルバイト収入が高い傾向があり、看護栄養学部は「4～7万円未満」45.8%と最も多く、アルバイト収入が低い傾向がみられた。(図Ⅱ-2-4-7)

男女別では男子学生の方がやや収入が高い傾向があり、学年別では学年が進むにつれて収入の高い学生の割合が増加していた。(図Ⅱ-2-4-8)

図Ⅱ-2-4-7 アルバイト月収(全体と学部別)



図Ⅱ-2-4-8 アルバイト月収(男女別と学年別)



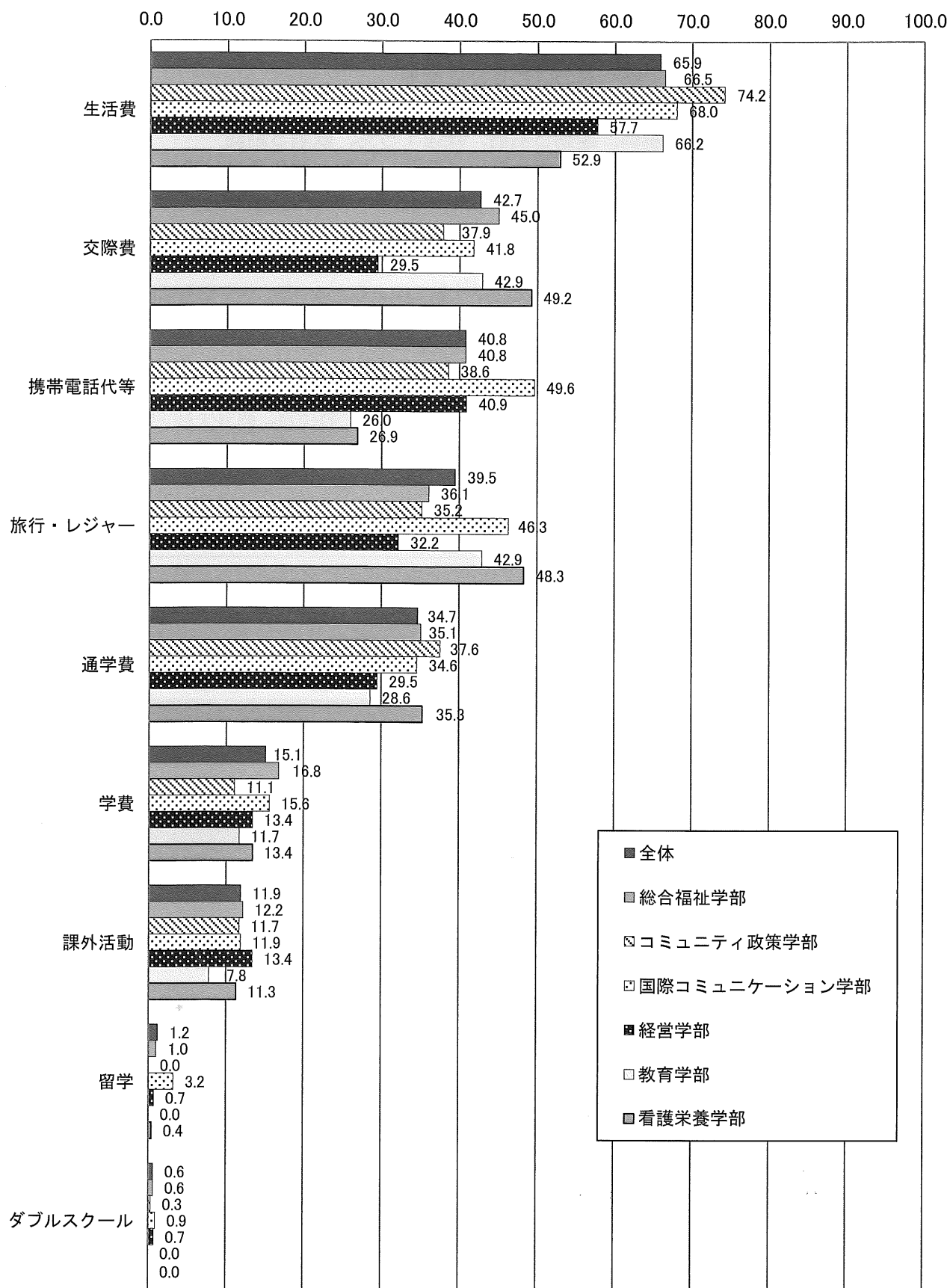
5) アルバイト代の使途

アルバイト代の主な使途について9項目用意し、複数回答方式で回答を得た。

全体では多いものから順に見てみると、「生活費」65.9%、「交際費」42.7%、「携帯電話・インターネット代」40.8%、「旅行・レジャー」39.5%、「通学費」34.7%と続き、その次に「学費」15.1%であった。その他の自由記載欄には、「趣味」「娯楽」「貯金」が多かった。

学部別に見ると、コミュニティ政策学部では「生活費」74.2%と多く、国際コミュニケーション学部では「携帯電話・インターネット代」49.6%と多く、看護栄養学部では「旅行・レジャー」48.3%と多いのが目立った。男女別では、男子学生に「生活費」71.9%と多く、女子学生に「交際費」50.0%、「旅行・レジャー」46.6%と多い傾向がみられた。学年別では学年が進むにつれて「交際費」、「携帯電話・インターネット代」、「旅行・レジャー」にアルバイト代を使う学生の割合が増えていた。(図Ⅱ-2-4-9)

図Ⅱ-2-4-9 アルバイト代の使途（複数回答 %）



(5) 日常生活の習慣や傾向

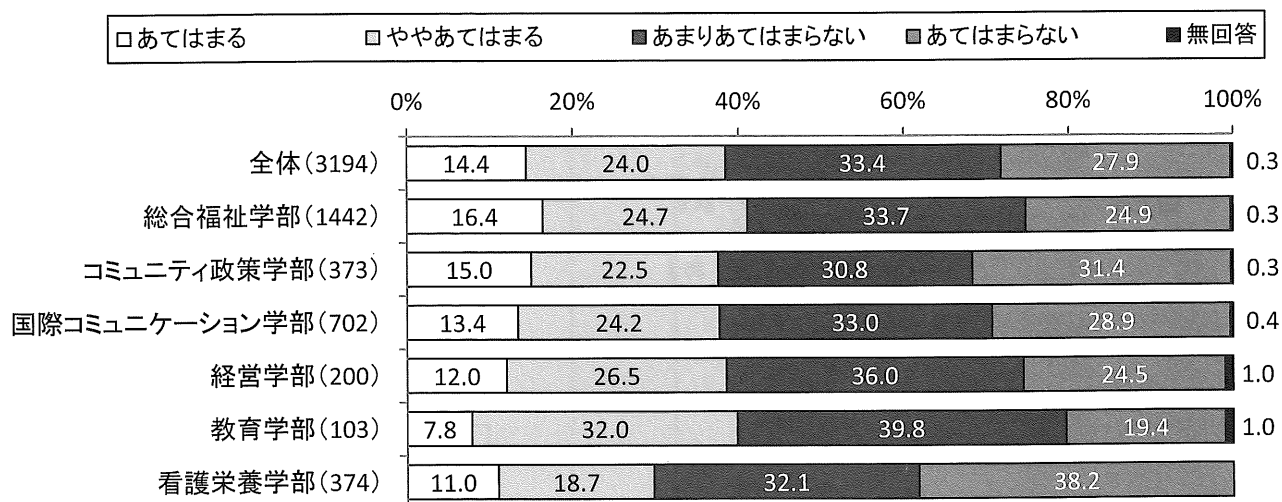
- ・読書、新聞、図書館、本で調べものはわずかに減少
- ・ネットで調べものはわずかに増加
- ・SNSの利用7割、ゲーム5割弱
- ・朝食7割弱、運動5割弱、喫煙15%、飲酒3割弱
- ・食欲なし4割弱、眠れない4割強、面倒と感じる3分の2

1) 読書

「よく読書をする」という設問の回答結果をみると、「あてはまる」14.4%、「ややあてはまる」24.0%、「あまりあてはまらない」33.4%、「あてはまらない」27.9% となっている。4割弱の学生が読書をする習慣があると回答した。

「あてはまる」と「ややあてはまる」を統合して学部別にみると、総合福祉学部 41.1%、コミュニティ政策学部 37.5%、国際コミュニケーション学部 37.6%、経営学部 38.5%、教育学部 39.8%、看護栄養学部 29.7%であった。（図Ⅱ-2-5-1）

図Ⅱ-2-5-1 よく読書をする

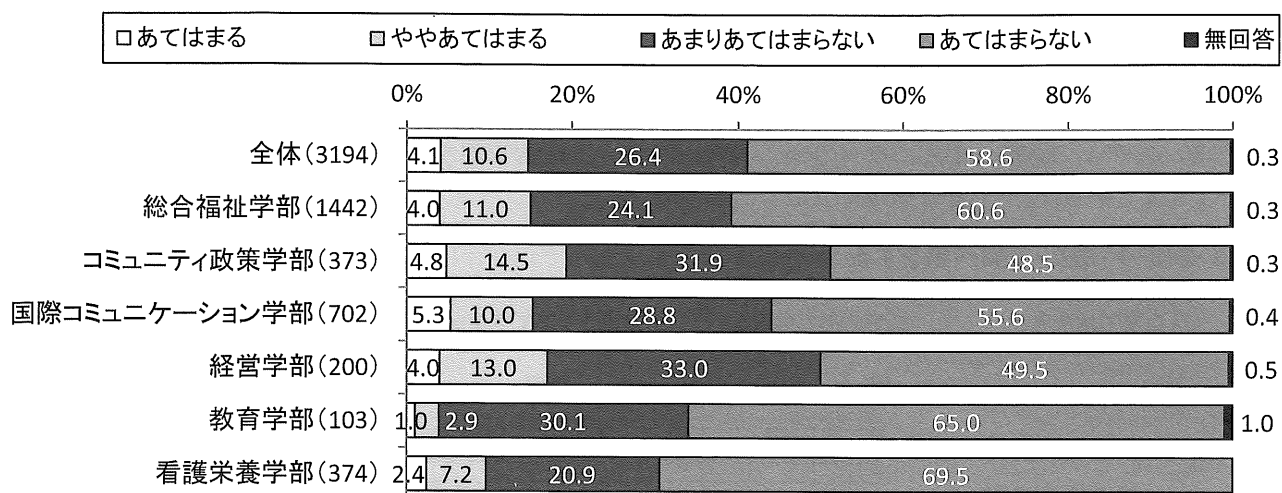


2) 新聞

「新聞を毎日読む」という設問の回答結果をみると、「あてはまる」4.1%、「ややあてはまる」10.6%、「あまりあてはまらない」26.4%、「あてはまらない」58.6% となっている。1割半の学生が新聞を読む習慣があると回答した。

「あてはまる」と「ややあてはまる」を統合して学部別にみると、総合福祉学部 15.0%、コミュニティ政策学部 19.3%、国際コミュニケーション学部 15.3%、経営学部 17.0%、教育学部 3.9%、看護栄養学部 9.6%であった。（図Ⅱ-2-5-2）

図Ⅱ-2-5-2 新聞を毎日読む

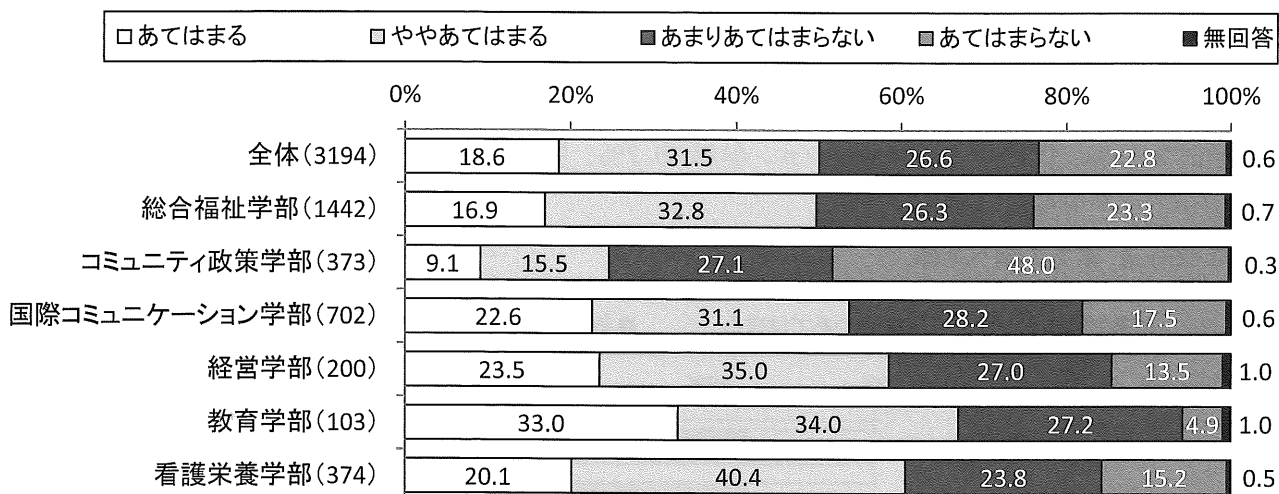


3) 図書館の利用

「図書館を利用する」という設問の回答結果をみると、「あてはまる」18.6%、「ややあてはまる」31.5%、「あまりあてはまらない」26.6%、「あてはまらない」22.8% となっている。5割の学生が図書館を利用する習慣があると回答した。

「あてはまる」と「ややあてはまる」を統合して学部別にみると、総合福祉学部 49.7%、コミュニティ政策学部 24.6%、国際コミュニケーション学部 53.7%、経営学部 58.5%、教育学部 67.0%、看護栄養学部 60.5%であった。(図-2-5-3)

図Ⅱ-2-5-3 図書館を利用する

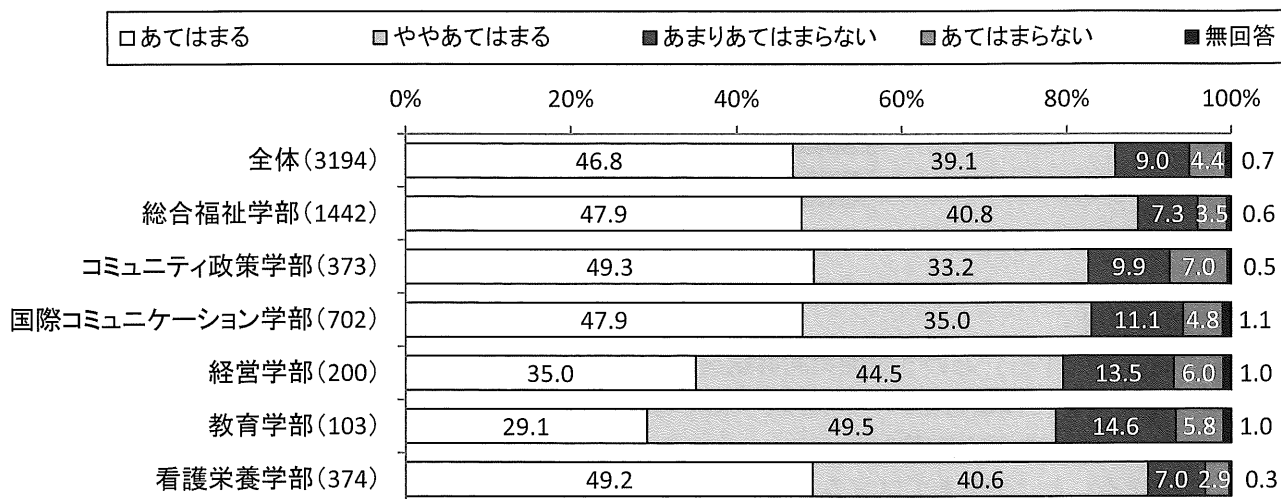


4) インターネットでの調べもの

「ネットで調べものをする」という設問の回答結果をみると、「あてはまる」46.8%、「ややあてはまる」39.1%、「あまりあてはまらない」9.0%、「あてはまらない」4.4% となっている。8割半の学生がネットで調べものをする習慣があると回答した。

「あてはまる」と「ややあてはまる」を統合して学部別にみると、総合福祉学部 88.7%、コミュニティ政策学部 82.5%、国際コミュニケーション学部 82.9%、経営学部 79.5%、教育学部 78.6%、看護栄養学部 89.8%であった。（図Ⅱ-2-5-4）

図Ⅱ-2-5-4 ネットで調べ物をする

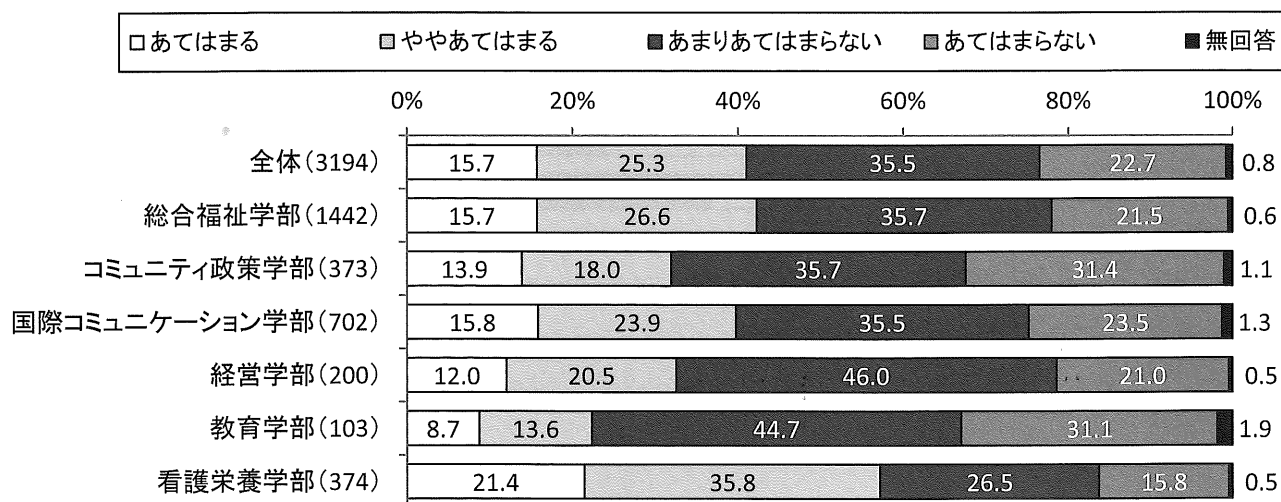


5) 本での調べもの

「本で調べものをする」という設問の回答結果をみると、「あてはまる」15.7%、「ややあてはまる」25.3%、「あまりあてはまらない」35.5%、「あてはまらない」22.7% となっている。4割の学生が本で調べものをする習慣があると回答した。

「あてはまる」と「ややあてはまる」を統合して学部別にみると、総合福祉学部 42.3%、コミュニティ政策学部 31.9%、国際コミュニケーション学部 39.7%、経営学部 32.5%、教育学部 22.3%、看護栄養学部 57.2%であった。（図Ⅱ-2-5-5）

図Ⅱ-2-5-5 本での調べもの

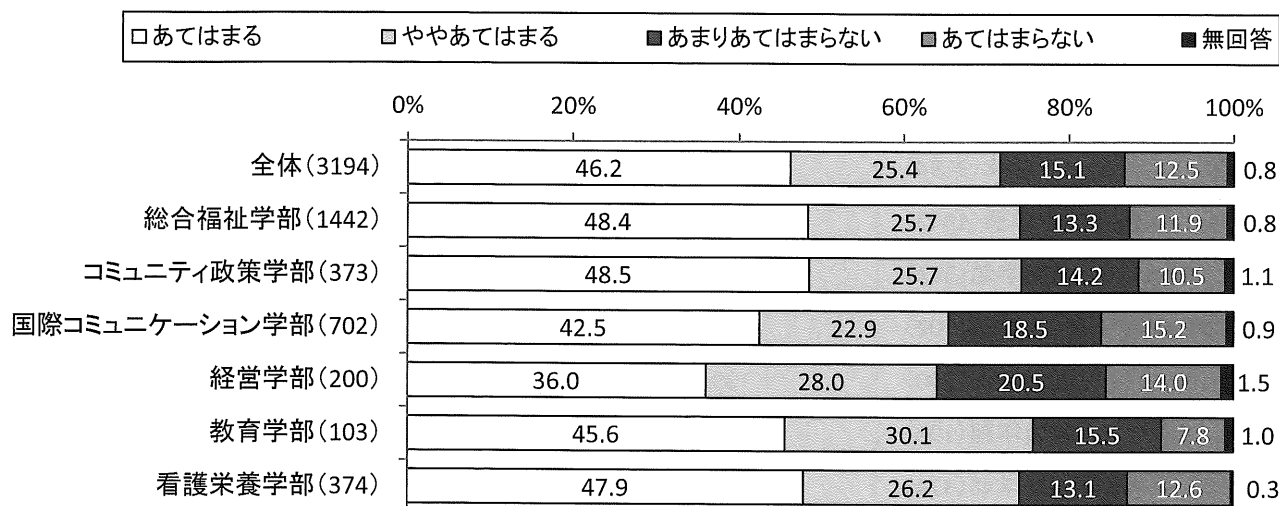


6) SNSの利用

「よくSNSを利用する」という設問の回答結果をみると、「あてはまる」46.2%、「ややあてはまる」25.4%、「あまりあてはまらない」15.1%、「あてはまらない」12.5%となっている。7割の学生がSNSを利用する習慣があると回答した。

「あてはまる」と「ややあてはまる」を統合して学部別にみると、総合福祉学部 74.1%、コミュニティ政策学部 74.2%、国際コミュニケーション学部 65.4%、経営学部 64.0%、教育学部 75.7%、看護栄養学部 74.1%であった。（図Ⅱ-2-5-6）

図Ⅱ-2-5-6 よくSNSを利用する

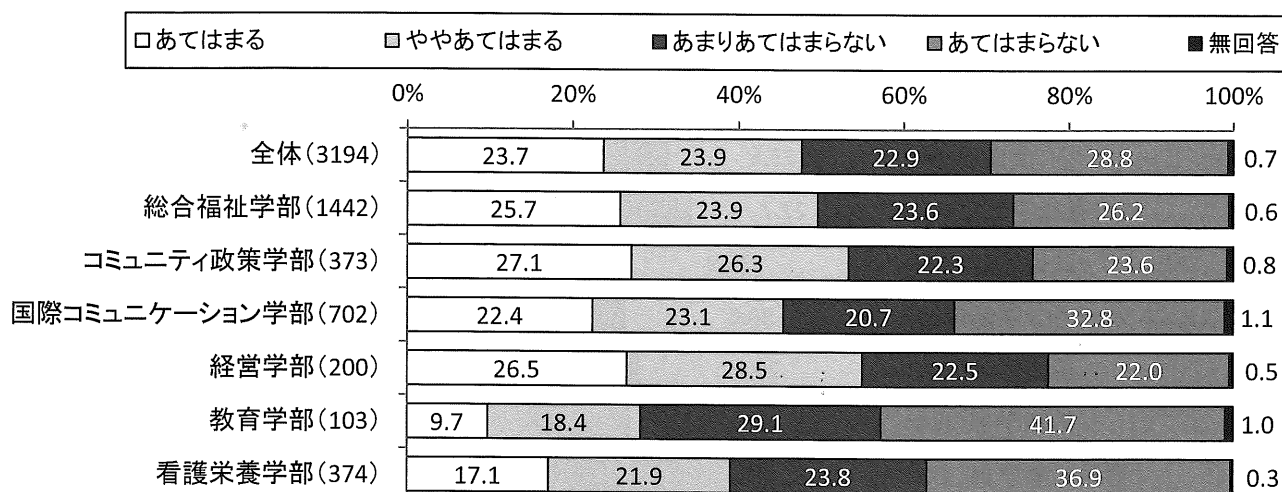


7) ゲーム

「よくゲームをする」という設問の回答結果をみると、「あてはまる」23.7%、「ややあてはまる」23.9%、「あまりあてはまらない」22.9%、「あてはまらない」28.8%となっている。5割弱の学生がゲームをする習慣があると回答した。

「あてはまる」と「ややあてはまる」を統合して学部別にみると、総合福祉学部 49.6%、コミュニティ政策学部 53.4%、国際コミュニケーション学部 45.5%、経営学部 55.0%、教育学部 28.1%、看護栄養学部 39.0%であった。（図Ⅱ-2-5-7）

図Ⅱ-2-5-7 よくゲームをする

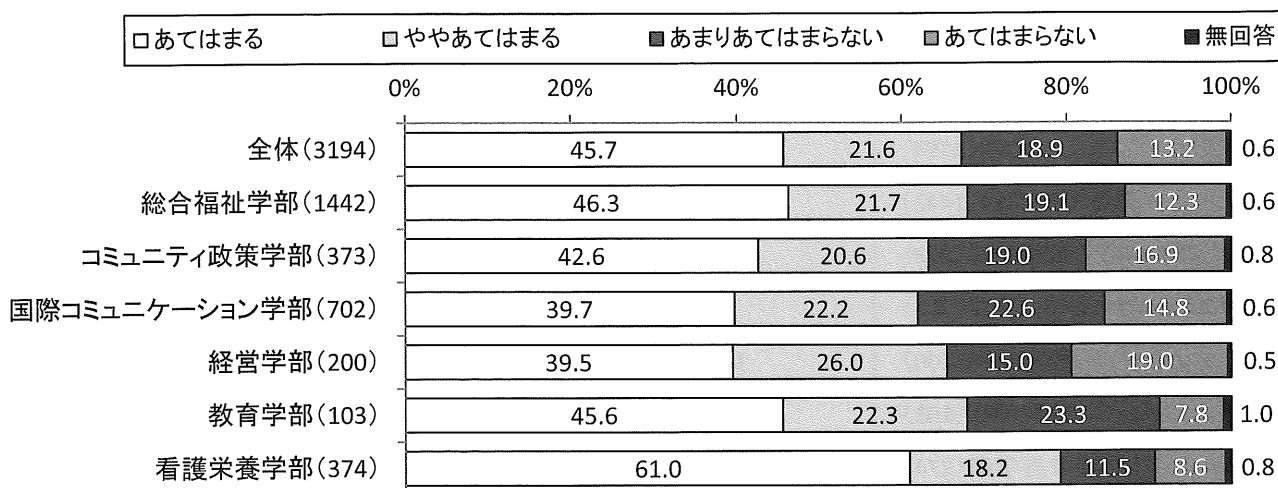


8) 朝食

「朝食を毎日食べている」という設問の回答結果をみると、「あてはまる」45.7%、「ややあてはまる」21.6%、「あまりあてはまらない」18.9%、「あてはまらない」13.2% となっている。朝食を食べる習慣がある学生は7割弱、朝食を食べる習慣がない学生は3割強であった。

「あてはまる」と「ややあてはまる」を統合して学部別にみると、総合福祉学部 68.0%、コミュニティ政策学部 63.2%、国際コミュニケーション学部 61.9%、経営学部 65.5%、教育学部 67.9%、看護栄養学部 79.2%であった。（図Ⅱ-2-5-8）

図Ⅱ-2-5-8 朝食を毎日食べている

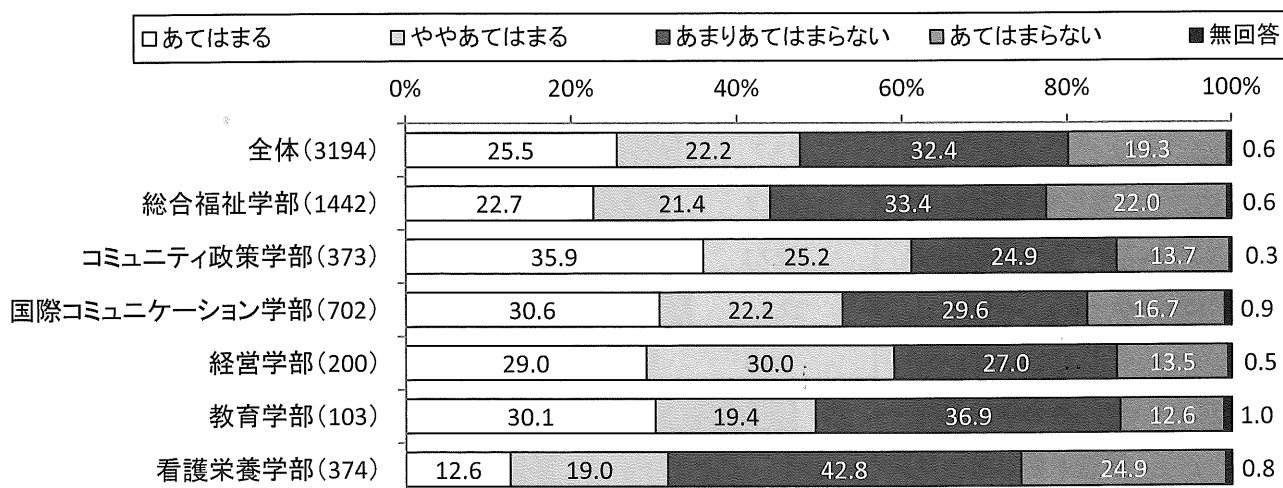


9) 運動

「定期的に運動している」という設問の回答結果をみると、「あてはまる」25.5%、「ややあてはまる」22.2%、「あまりあてはまらない」32.4%、「あてはまらない」19.3% となっている。定期的に運動をする習慣がある学生は5割弱、定期的に運動をする習慣がない学生は5割強であった。

「あてはまる」と「ややあてはまる」を統合して学部別にみると、総合福祉学部 44.1%、コミュニティ政策学部 61.1%、国際コミュニケーション学部 52.8%、経営学部 59.0%、教育学部 49.5%、看護栄養学部 31.6%であった。（図Ⅱ-2-5-9）

図Ⅱ-2-5-9 定期的に運動している

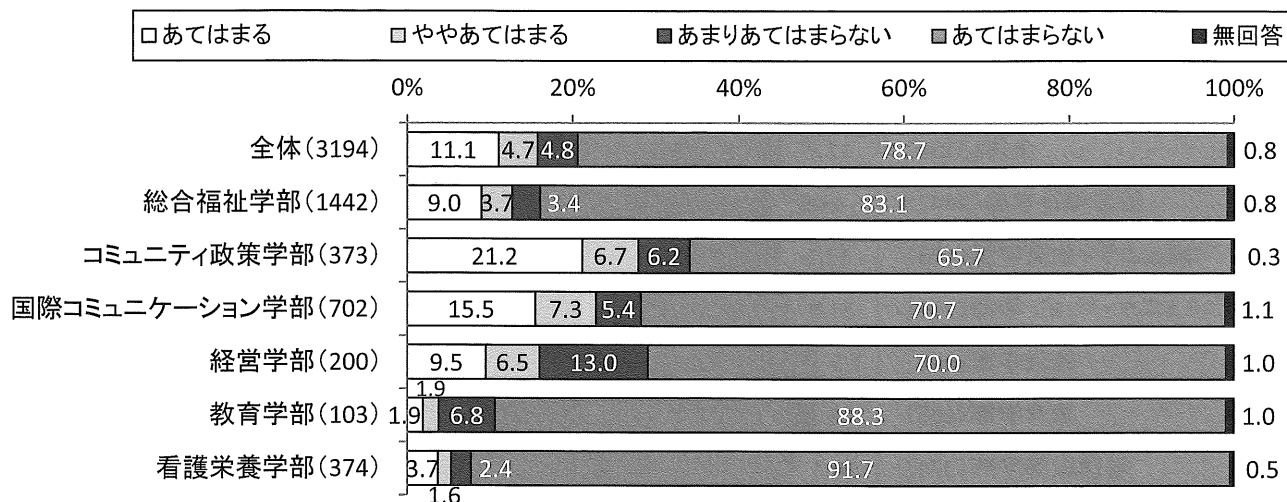


10) 喫煙

「喫煙の習慣がある」という設問の回答結果をみると、「あてはまる」11.1%、「ややあてはまる」4.7%、「あまりあてはまらない」4.8%、「あてはまらない」78.7% となっている。1割半の学生が喫煙の習慣があると回答した。

「あてはまる」と「ややあてはまる」を統合して学部別にみると、総合福祉学部 12.7%、コミュニティ政策学部 27.9%、国際コミュニケーション学部 22.8%、経営学部 16.0%、教育学部 3.8%、看護栄養学部 5.3%であった。（図Ⅱ-2-5-10）

図Ⅱ-2-5-10 喫煙の習慣がある

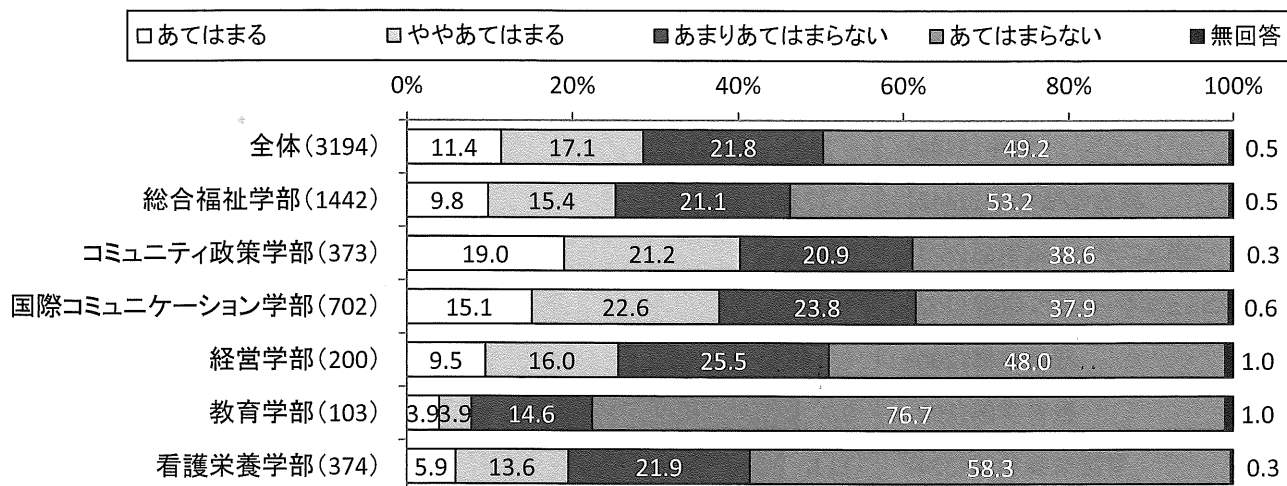


11) 飲酒

「飲酒の習慣がある」という設問の回答結果をみると、「あてはまる」11.4%、「ややあてはまる」17.1%、「あまりあてはまらない」21.8%、「あてはまらない」49.2% となっている。3割弱の学生が飲酒の習慣があると回答した。

「あてはまる」と「ややあてはまる」を統合して学部別にみると、総合福祉学部 25.2%、コミュニティ政策学部 40.2%、国際コミュニケーション学部 37.7%、経営学部 25.5%、教育学部 7.8%、看護栄養学部 19.5%であった。（図Ⅱ-2-5-11）

図Ⅱ-2-5-11 飲酒の習慣がある

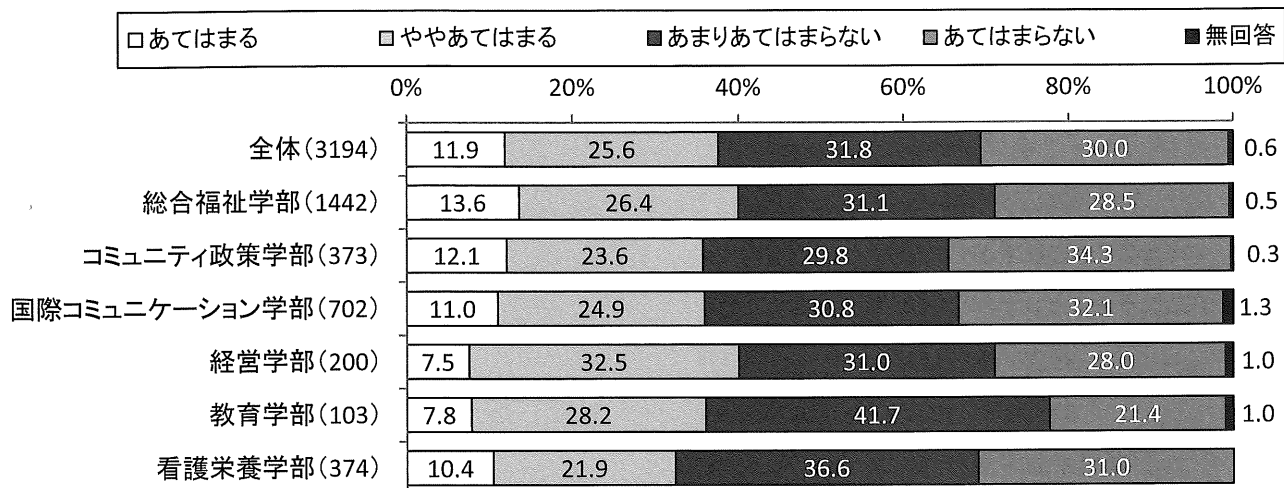


12) 食欲

「食欲がないことがある」という設問の回答結果をみると、「あてはまる」11.9%、「ややあてはまる」25.6%、「あまりあてはまらない」31.8%、「あてはまらない」30.0% となっている。4割弱の学生が食欲がないことがあると回答した。

「あてはまる」と「ややあてはまる」を統合して学部別にみると、総合福祉学部 40.0%、コミュニティ政策学部 35.7%、国際コミュニケーション学部 35.9%、経営学部 40.0%、教育学部 36.0%、看護栄養学部 32.3%であった。（図Ⅱ-2-5-12）

図Ⅱ-2-5-12 食欲がないことがある

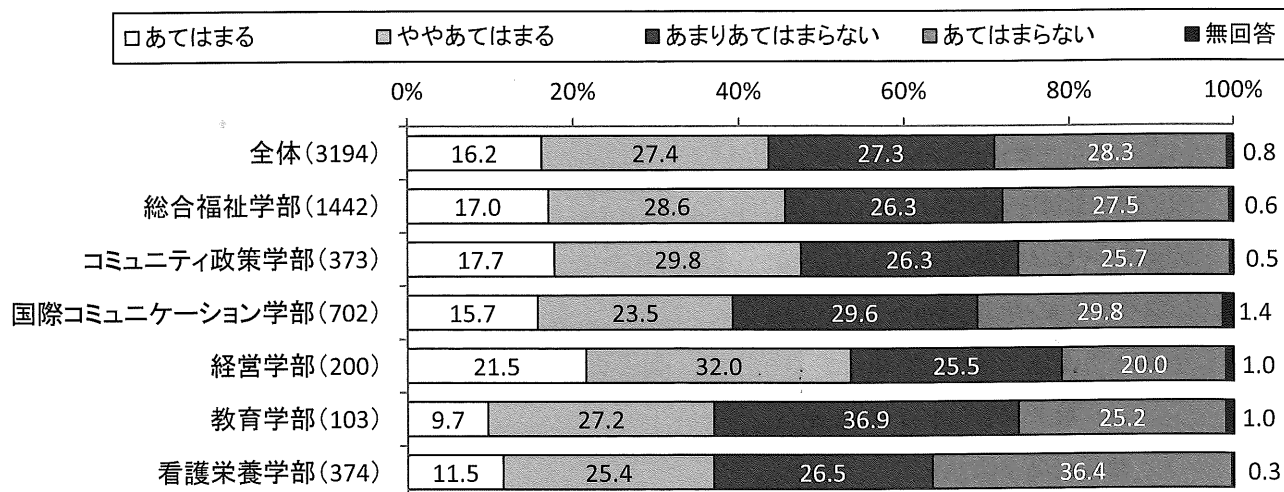


13) 眠れない

「眠れないことがある」という設問の回答結果をみると、「あてはまる」16.2%、「ややあてはまる」27.4%、「あまりあてはまらない」27.3%、「あてはまらない」28.3% となっている。4割強の学生が眠れないことがあると回答した。

「あてはまる」と「ややあてはまる」を統合して学部別にみると、総合福祉学部 45.6%、コミュニティ政策学部 47.5%、国際コミュニケーション学部 39.5%、経営学部 53.5%、教育学部 36.9%、看護栄養学部 36.9%であった。（図Ⅱ-2-5-13）

図Ⅱ-2-5-13 眠れないことがある

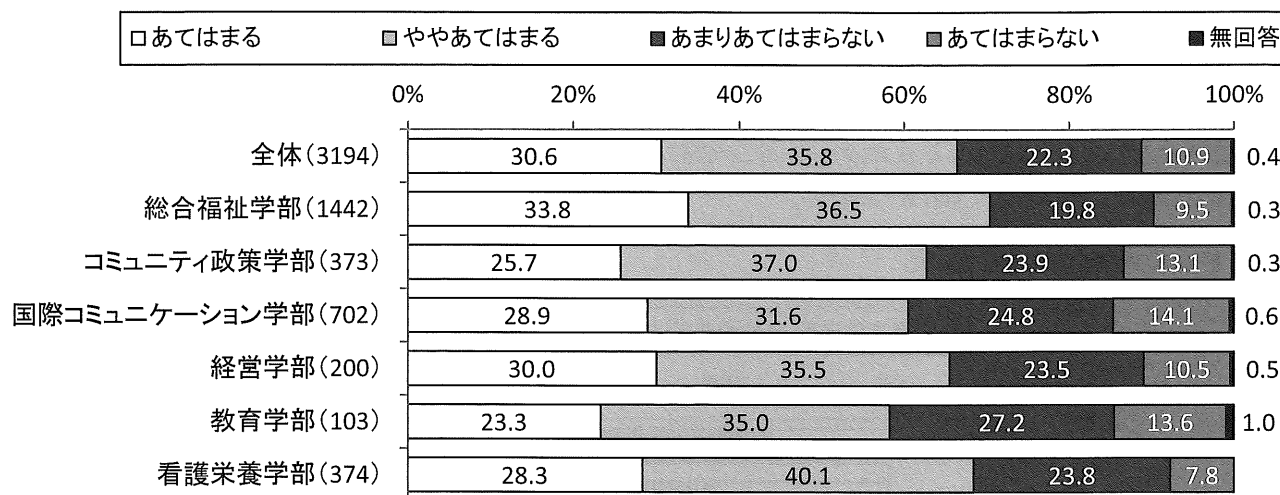


14) 何をするのも面倒だと感じる

「何をするのも面倒だと感じることもある」という設問の回答結果をみると、「あてはまる」30.6%、「ややあてはまる」35.8%、「あまりあてはまらない」22.3%、「あてはまらない」10.9% となっている。6割半の学生が何をするのも面倒だと感じることもあると回答した。

「あてはまる」と「ややあてはまる」を統合して学部別にみると、総合福祉学部 70.3%、コミュニティ政策学部 62.7%、国際コミュニケーション学部 60.5%、経営学部 65.5%、教育学部 58.3%、看護栄養学部 68.4%であった。（図Ⅱ-2-5-14）

図Ⅱ-2-5-14 何をするのも面倒だと感じることもある



第2章 生活状況のまとめ

学生の住まいは全体で8割強が家族と同居しており、コミュニティ政策学部が91.7%と特に多い。一人暮らしは全体で16%であった。また、通学時間は1時間半未満の者が4分の3を占めていることから、関東近県の自宅から通学している学生が多いことがわかる。この傾向は前回の調査結果より強まっているように思われる。

経済的な状況を見ると、貸与奨学金は37%の学生が受けており、アルバイトは73%が実施している。コミュニティ政策学部は自宅生が多いけれどもアルバイト実施者が最も多かった。看護栄養学部は貸与奨学金の受給者が多いけれどもアルバイトの実施者は少ないという特徴があった。アルバイト時間は男子学生に長く、収入も高い傾向があり、業種は全体として飲食店と小売店等の店員をしている学生が多く、アルバイト代は主に生活費に充てられていた。

生活習慣では全体として、読書、新聞、図書館の利用、本での調べものが僅かに減少し、その一方、インターネットでの調べものが僅かであるが増加している。SNSの利用者も7割を占めており、インターネットによる情報収集やコミュニケーション等が浸透してきていることがわかる。また、朝食を摂らない者が3割強、定期的な運動をしていない者が5割強おり、食欲がないことがある者、眠れないことがある者がおよそ4割、何をするのも面倒だと感じることもある者が3分の2も占めることがわかった。こうした点から考えると、生活習慣の自己管理について理解を深めるような教育や支援が必要であるとともに、精神的な健康が何らかの原因によって脅かされている学生の存在に注意し、支援体制を充実させていくことも重要であろう。

第3章 大学生活の状況

(1) 授業への取り組みや態度

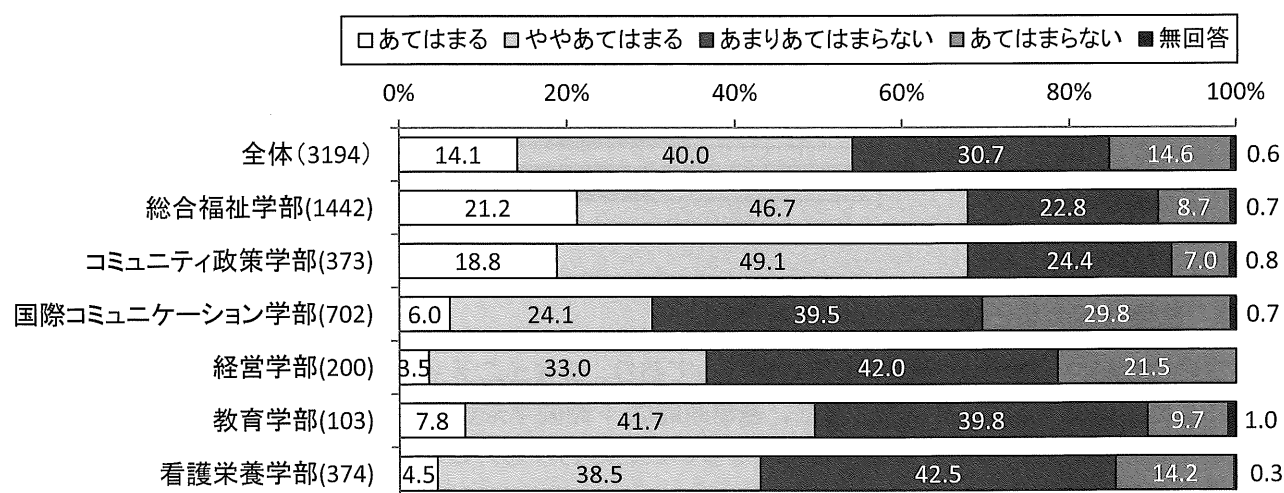
事前、事後学習の実施は55%を超え、授業に取り組む姿勢は改善傾向

1) 事前学習

「事前学習をしている」という設問の回答結果は、「あてはまる」14.1%、「ややあてはまる」40.0%、「あまりあてはまらない」30.7%、「あてはまらない」14.6% となっている。4割半の学生が、事前学習はしていないと回答した。

「あてはまる」と「ややあてはまる」を統合して学部別にみると、総合福祉学部、コミュニティ政策学部は共に 67.9%、国際コミュニケーション学部 30.1%、経営学部 36.5%、教育学部 49.5%、看護栄養学部 43.0%であった。(図Ⅱ-3-1-1)

図Ⅱ3-1-1 事前学習をしている

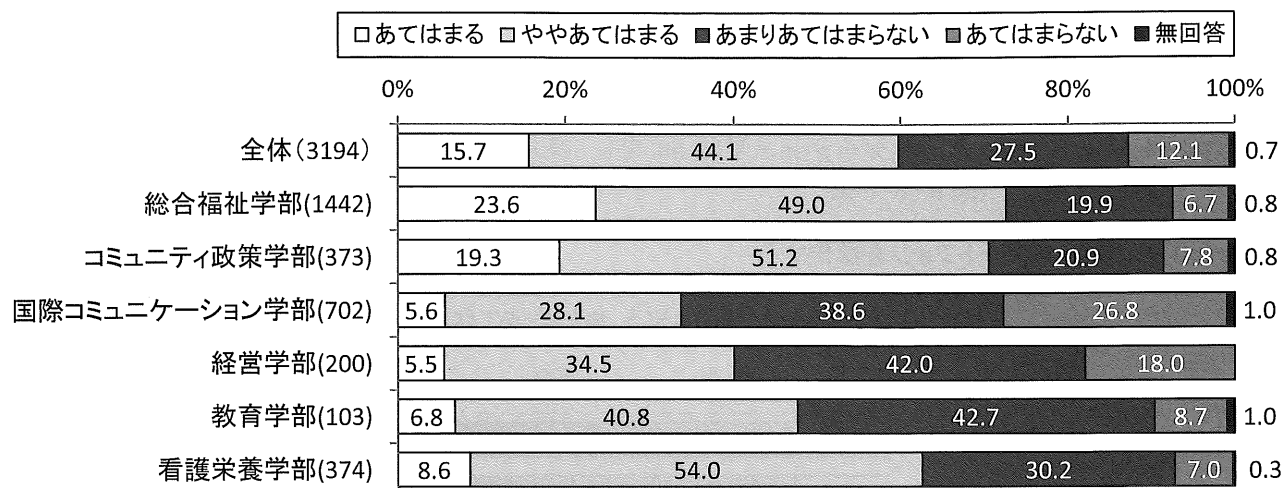


2) 事後学習

「事後学習をしている」という設問の回答結果は、「あてはまる」15.7%、「ややあてはまる」44.1%、「あまりあてはまらない」27.5%、「あてはまらない」12.1% となっている。4割弱の学生が、事後学習はしていないと回答した。

「あてはまる」と「ややあてはまる」を統合して学部別にみると、総合福祉学部 72.6%、コミュニティ政策学部 70.5%、国際コミュニケーション学部 33.7%、経営学部 40.0%、教育学部 47.6%、看護栄養学部 62.6%であった。(図Ⅱ-3-1-2)

図Ⅱ-3-1-2 事後学習をしている

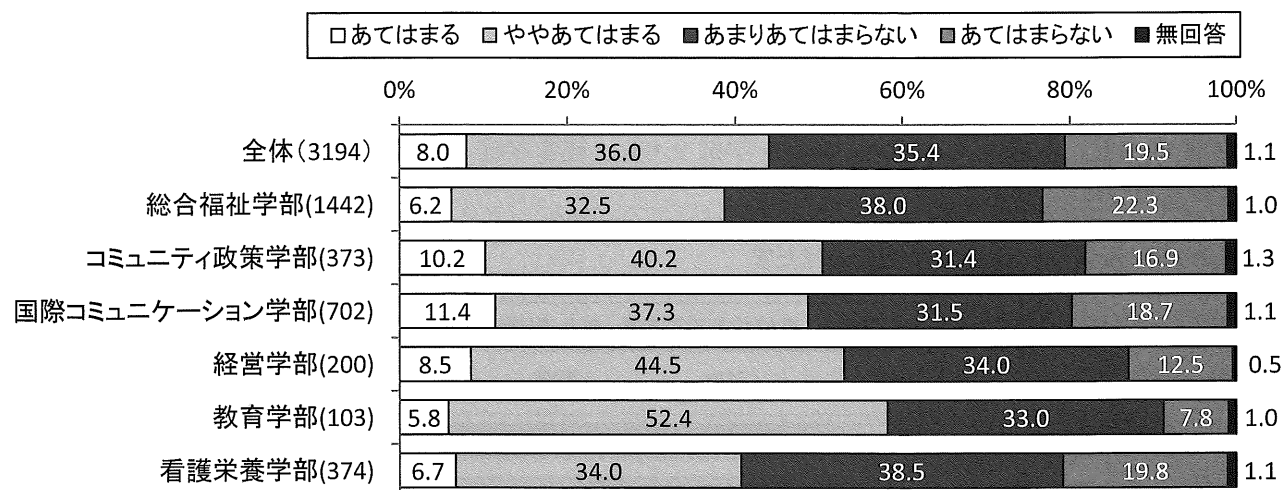


3) 授業中の私語

「授業中に私語をする」という設問の回答結果は、「あてはまる」8.0%、「ややあてはまる」36.0%、「あまりあてはまらない」35.4%、「あてはまらない」19.5% となっている。4割半の学生が、私語をしてしまうと回答した。

「あてはまる」と「ややあてはまる」を統合して学部別にみると、総合福祉学部 38.7%、コミュニティ政策学部 50.4%、国際コミュニケーション学部 48.7%、経営学部 53.0%、教育学部 58.2%、看護栄養学部 40.7%であった。（図Ⅱ-3-1-3）

図Ⅱ-3-1-3 授業中に私語をする

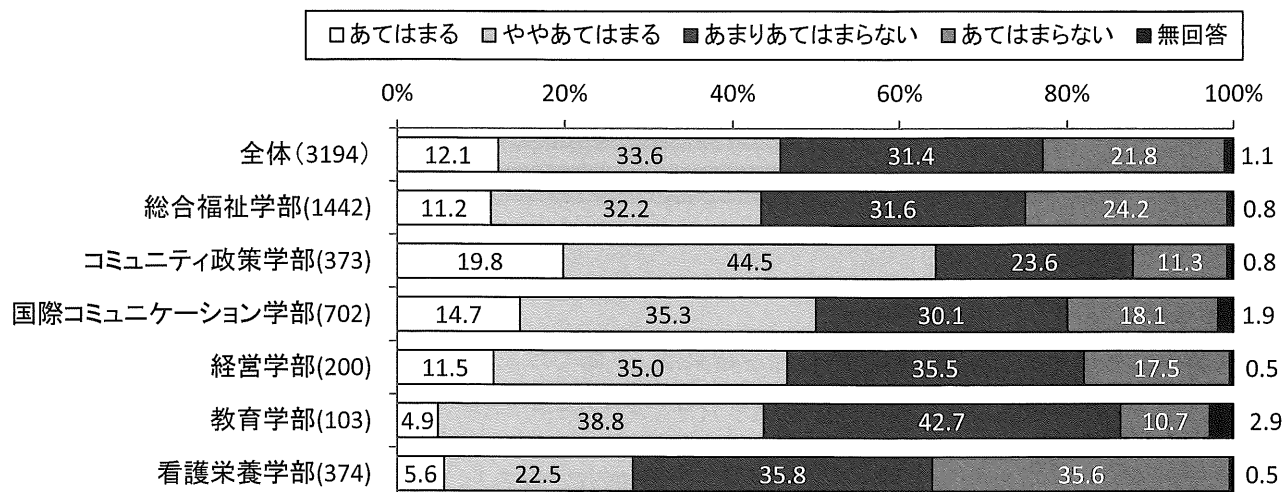


4) 授業中の携帯電話・スマートフォンの操作

「授業中に携帯電話・スマートフォンを操作する」という設問の回答結果は、「あてはまる」12.1%、「ややあてはまる」33.6%、「あまりあてはまらない」31.4%、「あてはまらない」21.8% となっている。4割半の学生が、授業中に携帯電話・スマートフォンを操作することがあると回答した。

「あてはまる」と「ややあてはまる」を統合して学部別にみると、総合福祉学部 43.4%、コミュニティ政策学部 64.3%、国際コミュニケーション学部 50.0%、経営学部 46.5%、教育学部 43.7%、看護栄養学部 28.1%であった。（図Ⅱ-3-1-4）

図Ⅱ-3-1-4 電話・スマートフォンを操作する

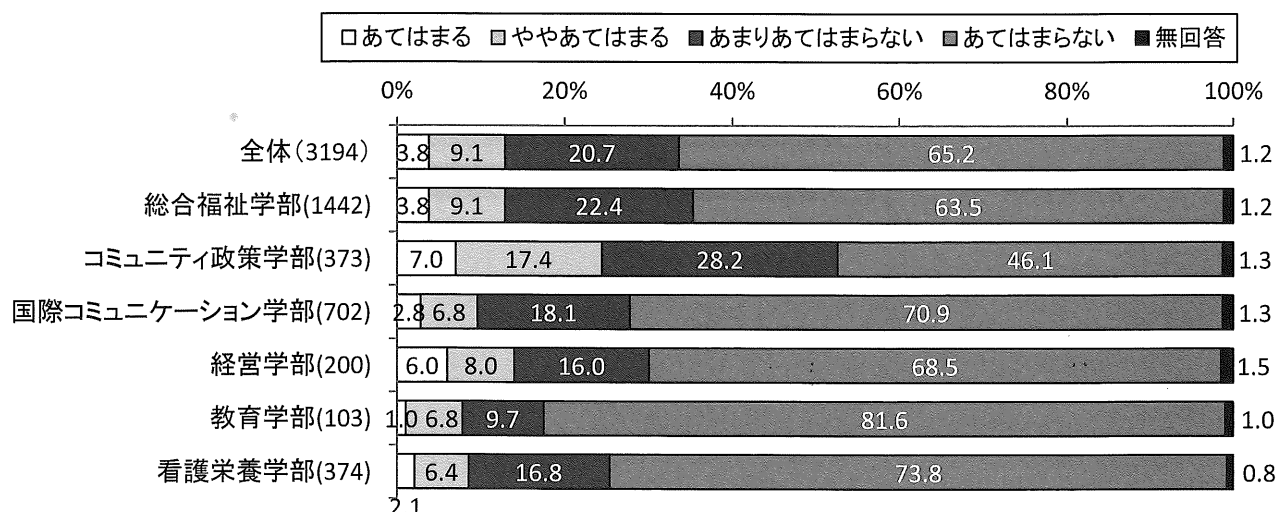


5) 授業中の教室ぬけだし

「授業中に無断で教室をぬけだす」という設問の回答結果は、「あてはまる」3.8%、「ややあてはまる」9.1%、「あまりあてはまらない」20.7%、「あてはまらない」65.2% となっている。1割強の学生が、授業中に無断で教室をぬけだすことがあると回答した。

「あてはまる」と「ややあてはまる」を統合して学部別にみると、総合福祉学部 12.9%、コミュニティ政策学部 24.4%、国際コミュニケーション学部 9.6%、経営学部 14.0%、教育学部 7.8%、看護栄養学部 8.5%であった。（図Ⅱ-3-1-5）

図Ⅱ-3-1-5 授業中に無断で教室をぬけだす

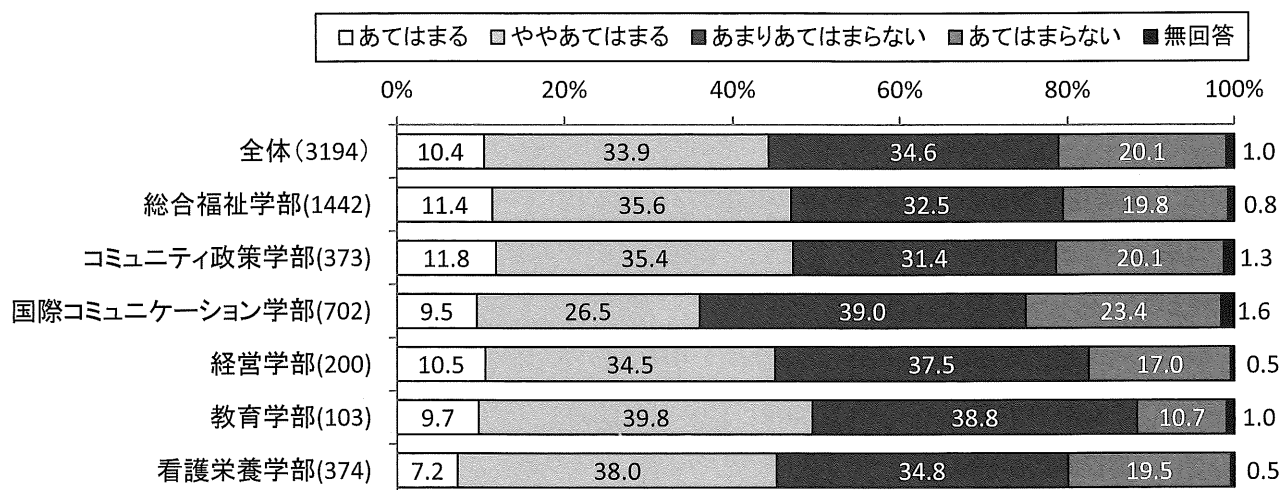


6) 授業中の居眠り

「授業中によく居眠りをする」という設問の回答結果をみると、「あてはまる」10.4%、「ややあてはまる」33.9%、「あまりあてはまらない」34.6%、「あてはまらない」20.1% となっている。4割半の学生が、授業中によく居眠りをする可能性があるとして回答した。

「あてはまる」と「ややあてはまる」を統合して学部別にみると、総合福祉学部 47.0%、コミュニティ政策学部 47.2%、国際コミュニケーション学部 36.0%、経営学部 45.0%、教育学部 49.5%、看護栄養学部 45.2%であった。（図Ⅱ-3-1-6）

図Ⅱ-3-1-6 授業中によく居眠りをする

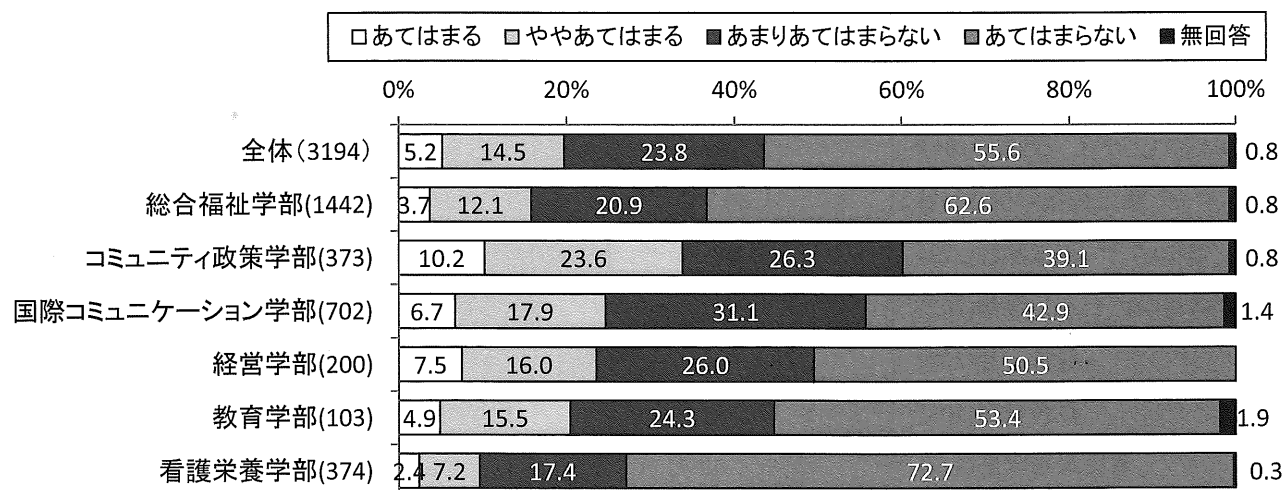


7) 授業への遅刻

「授業によく遅刻する」という設問の回答結果をみると、「あてはまる」5.2%、「ややあてはまる」14.5%、「あまりあてはまらない」23.8%、「あてはまらない」55.6% となっている。2割の学生が、よく遅刻をするとして回答した。

「あてはまる」と「ややあてはまる」を統合して学部別にみると、総合福祉学部 15.8%、コミュニティ政策学部 33.8%、国際コミュニケーション学部 24.6%、経営学部 23.5%、教育学部 20.4%、看護栄養学部 9.6%であった。（図Ⅱ-3-1-7）

図Ⅱ-3-1-7 授業によく遅刻する

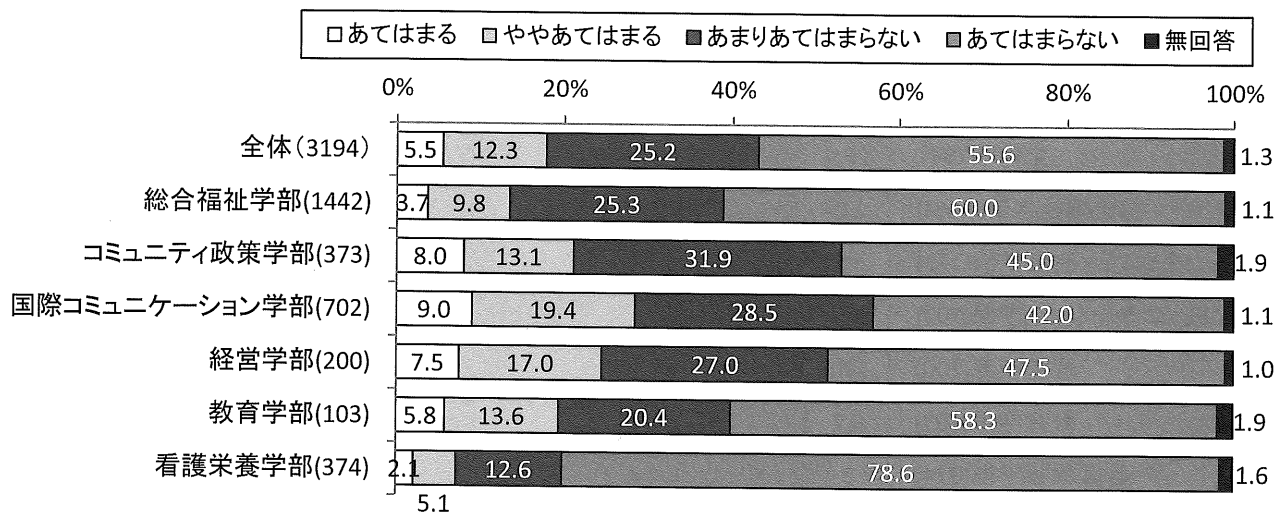


8) 授業の欠席

「授業によく欠席する」という設問の回答結果をみると、「あてはまる」5.5%、「ややあてはまる」12.3%、「あまりあてはまらない」25.2%、「あてはまらない」55.6% となっている。2割弱の学生が、よく欠席すると回答した。

「あてはまる」と「ややあてはまる」を統合して学部別にみると、総合福祉学部 13.5%、コミュニティ政策学部 21.1%、国際コミュニケーション学部 28.4%、経営学部 24.5%、教育学部 19.4%、看護栄養学部 7.2%であった。（図Ⅱ-3-1-8）

図Ⅱ-3-1-8 授業によく欠席する

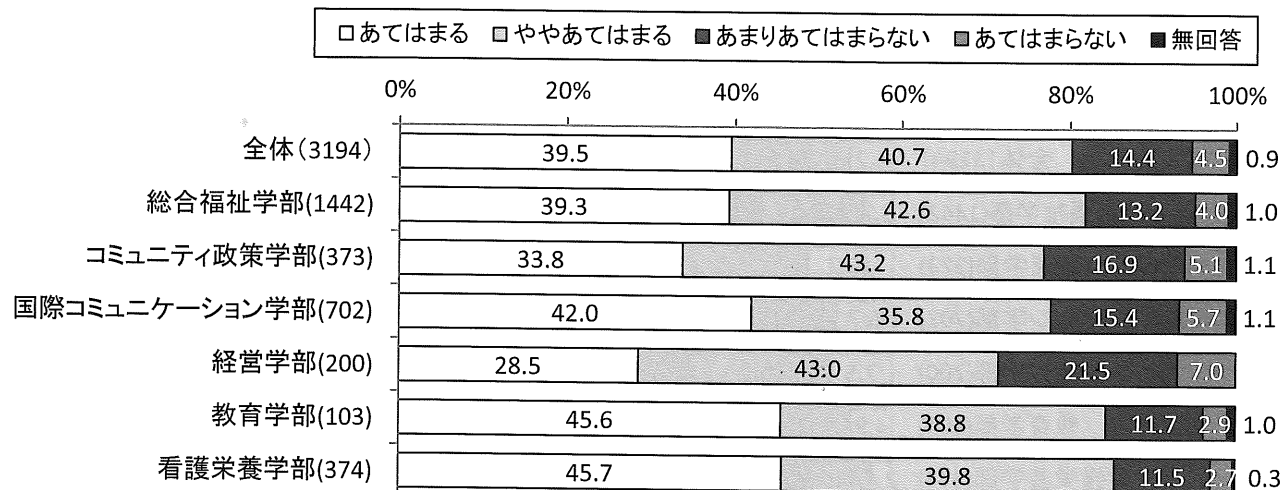


9) 授業中のノート

「授業中、ノートをきちんととる」という設問の回答結果をみると、「あてはまる」39.5%、「ややあてはまる」40.7%、「あまりあてはまらない」14.4%、「あてはまらない」4.5% となっている。8割の学生が、授業中にノートをきちんととるようにしていると回答した。

「あてはまる」と「ややあてはまる」を統合して学部別にみると、総合福祉学部 81.9%、コミュニティ政策学部 77.0%、国際コミュニケーション学部 77.8%、経営学部 71.5%、教育学部 84.4%、看護栄養学部 85.5%であった。（図Ⅱ-3-1-9）

図Ⅱ-3-1-9 授業中、ノートをきちんととる

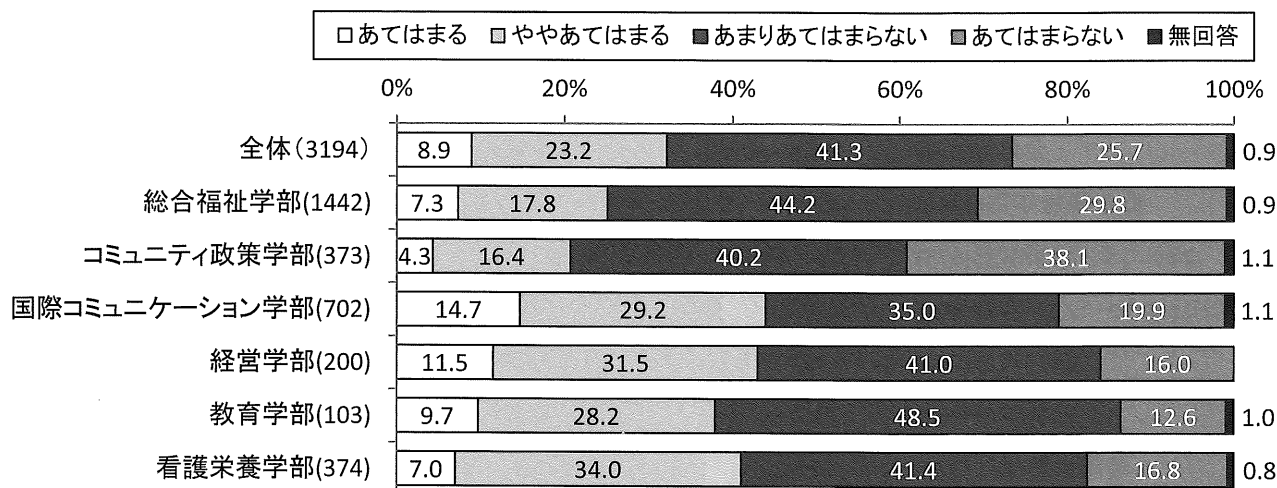


10) 教員への質問

「わからないことは教員に質問する」という設問の回答結果をみると、「あてはまる」8.9%、「ややあてはまる」23.2%、「あまりあてはまらない」41.3%、「あてはまらない」25.7% となっている。7割弱の学生は質問をしないという結果である。

「あてはまる」と「ややあてはまる」を統合して学部別にみると、総合福祉学部 25.1%、コミュニティ政策学部 20.7%、国際コミュニケーション学部 43.9%、経営学部 43.0%、教育学部 37.9%、看護栄養学部 41.0%であった。（図Ⅱ-3-1-10）

図Ⅱ-3-1-10 わからないことは教員に質問する

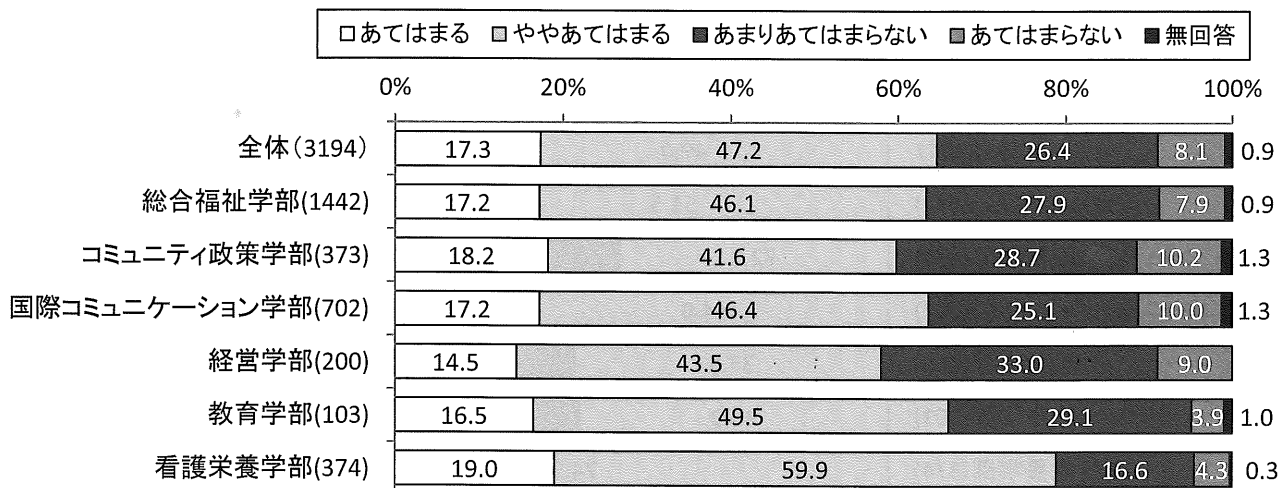


11) 自分で調べる

「わからないことは自分で調べる」という設問の回答結果をみると、「あてはまる」17.3%、「ややあてはまる」47.2%、「あまりあてはまらない」26.4%、「あてはまらない」8.1% となっている。5割半の学生がわからないことは自分で調べると回答した。

「あてはまる」と「ややあてはまる」を統合して学部別にみると、総合福祉学部 63.3%、コミュニティ政策学部 59.8%、国際コミュニケーション学部 63.6%、経営学部 58.0%、教育学部 66.0%、看護栄養学部 78.9%であった。（図Ⅱ-3-1-11）

図Ⅱ-3-1-11 わからないことは自分で調べる

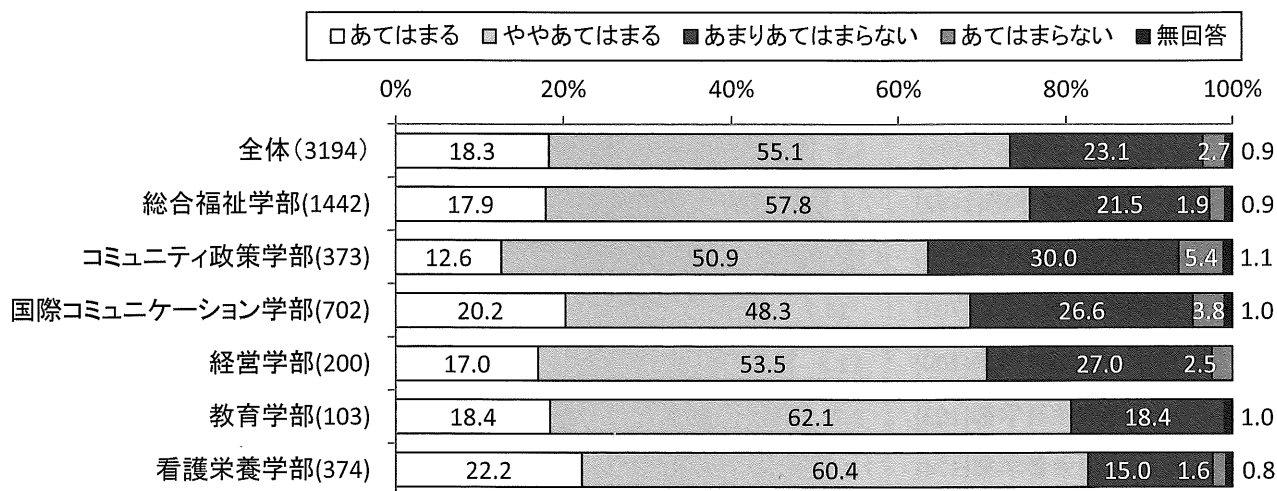


12) 教員の話をよく聞く

「教員の話をよく聞いている」という設問の回答結果をみると、「あてはまる」18.3%、「ややあてはまる」55.1%、「あまりあてはまらない」23.1%、「あてはまらない」2.7% となっている。7割強の学生が教員の話をよく聞いていると回答した。

「あてはまる」と「ややあてはまる」を統合して学部別にみると、総合福祉学部 75.7%、コミュニティ政策学部 63.5%、国際コミュニケーション学部 68.5%、経営学部 70.5%、教育学部 80.5%、看護栄養学部 82.6%であった。（図Ⅱ-3-1-12）

図Ⅱ-3-1-12 教員の話をよく聞いている

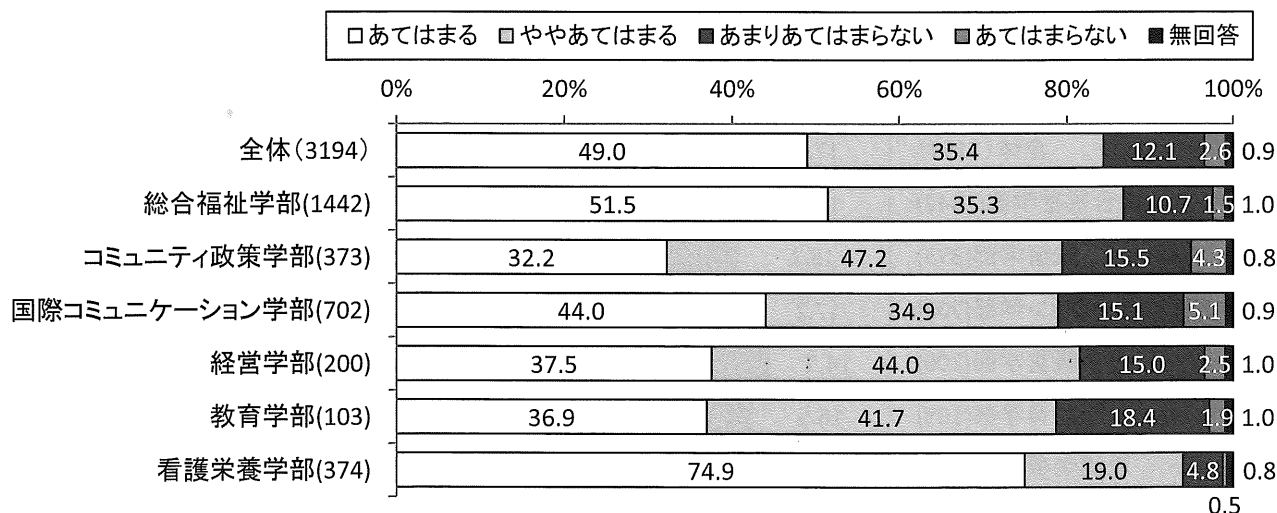


13) 提出物の締め切り

「提出物のしめきりはきちんと守る」という設問の回答結果をみると、「あてはまる」49.0%、「ややあてはまる」35.4%、「あまりあてはまらない」12.1%、「あてはまらない」2.6% となっている。8割半の学生は提出物のしめきりは守っていると回答した。

「あてはまる」と「ややあてはまる」を統合して学部別にみると、総合福祉学部 86.8%、コミュニティ政策学部 79.4%、国際コミュニケーション学部 78.9%、経営学部 81.5%、教育学部 78.6%、看護栄養学部 93.9%であった。（図Ⅱ-3-1-13）

図Ⅱ-3-1-13 提出物のしめきりはきちんと守る

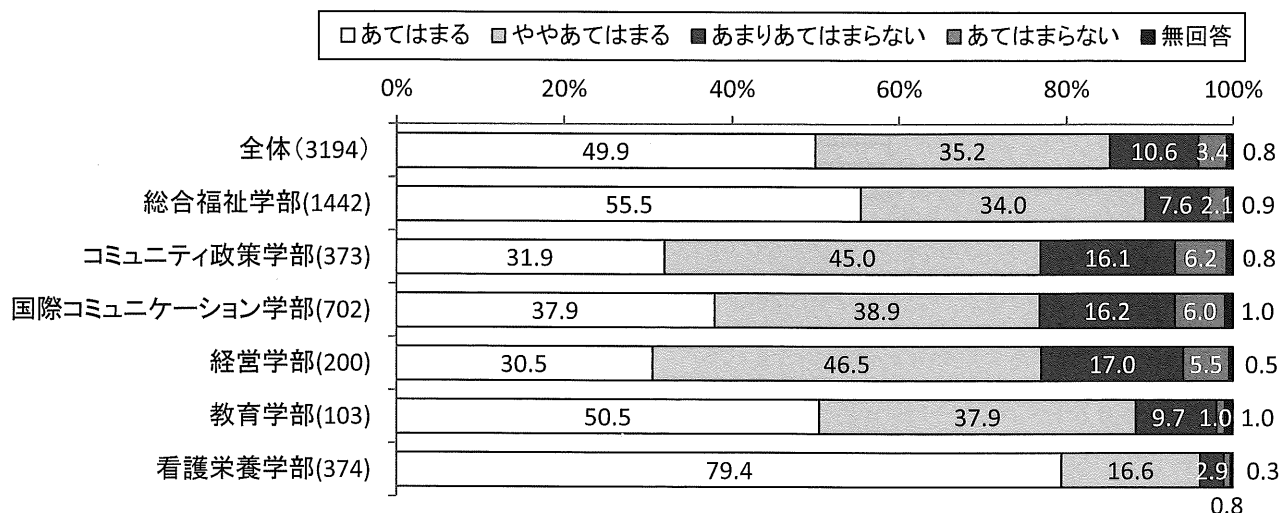


14) 試験前の勉強

「試験前に勉強する」という設問の回答結果をみると、「あてはまる」49.9%、「ややあてはまる」35.2%、「あまりあてはまらない」10.6%、「あてはまらない」3.4% となっている。8割半の学生は試験前に勉強すると回答した。

「あてはまる」と「ややあてはまる」を統合して学部別にみると、総合福祉学部 89.5%、コミュニティ政策学部 76.9%、国際コミュニケーション学部 76.8%、経営学部 77.0%、教育学部 88.4%、看護栄養学部 96.0%であった。（図Ⅱ-3-1-14）

図Ⅱ-3-1-14 試験前に勉強する



(2) 学生団体や組織への所属

6割が学内のクラブ・サークルに所属

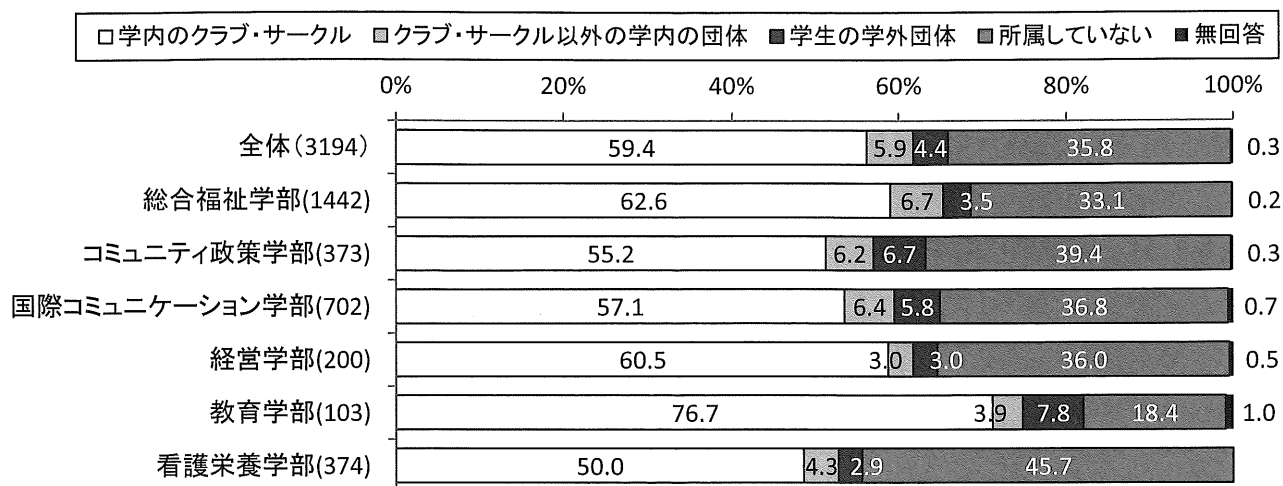
この設問では、学生たちが大学生活において学部・学科以外の場所にどのような居場所、あるいは活動の場を得ているのかを聞いた。

全体としては、「学内のクラブ・サークル」に参加していると回答した学生が 59.4%と約6割を占め、それ以外の学内や学外の活動への参加が各々5%前後と少ないばかりでなく、「所属していない」と回答した学生が 35.8%であった。（図Ⅱ-3-2-1）

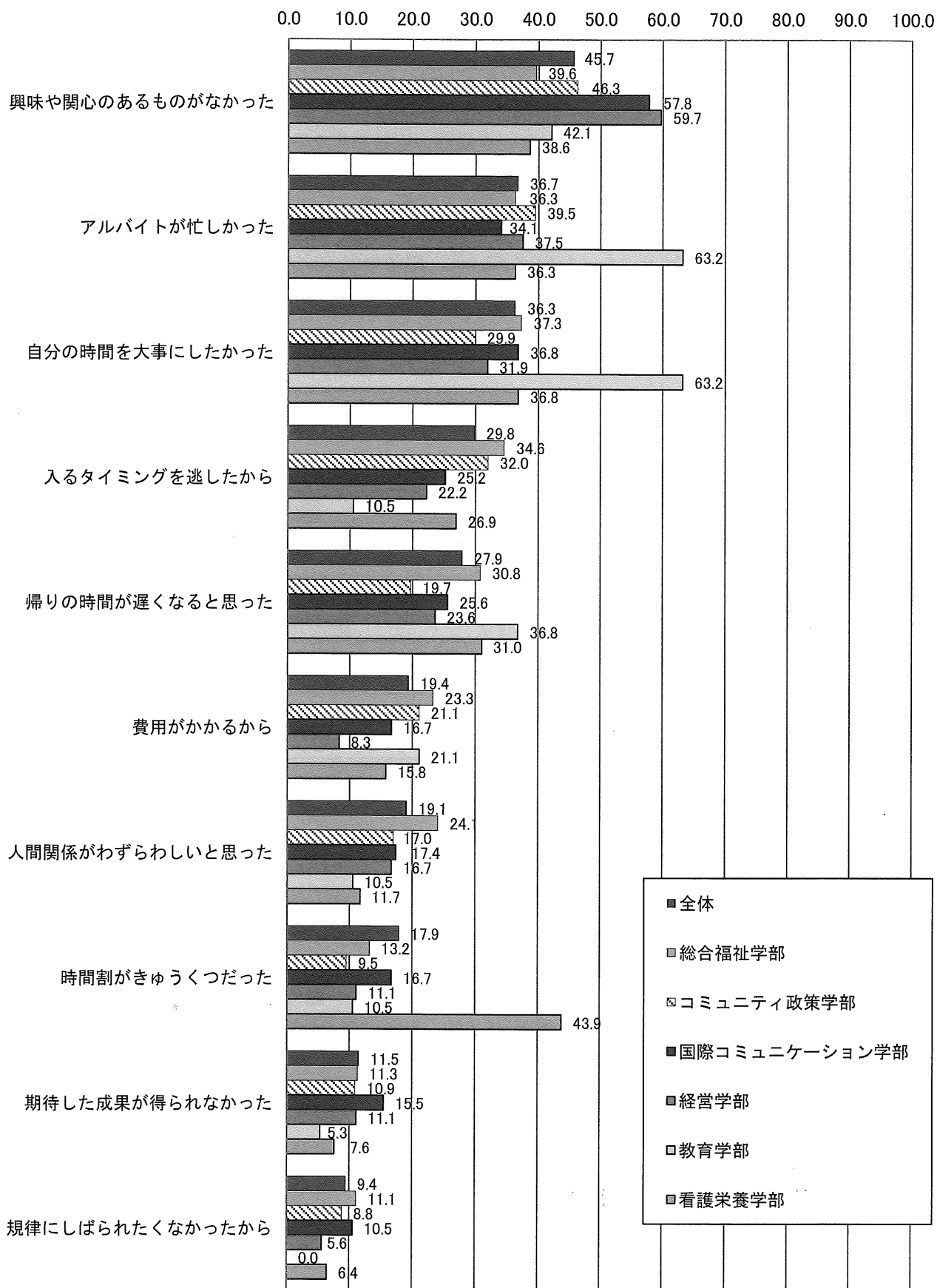
学生全体の約4割を占める「4. 所属していない」と回答した学生にその理由を聞いたところ、「興味関心のあるものがなかった」との回答が 45.7%であり、それ以外は「アルバイトが忙しかった」36.7%、「自分の時間を大切にしたい」36.3%、「入るタイミングをいっした」29.8%、「帰りの時間が遅くなると思った」27.9%理由であった。

学部学科別では、看護栄養学部が「時間割がきゅうくつだった」43.9%との回答し、その内訳は、看護学科 45.2%・栄養学科 42.2%で両学科とも同様の傾向であった。この他では、「4. 所属していない」と回答した実践心理学科の学生（142人）のうち 34.5%が「人間関係がわずらわしいと思った」と回答している。実践心理学科全体（352人）から見ても 13.9%の学生が「人間関係のわずらわしさ」を理由に大学内外の学生団体や組織に所属していない結果であった。（図Ⅱ-3-2-2）

図Ⅱ-3-2-1 クラブ・学生団体の活動状況



図Ⅱ-3-2-2 クラブ・学生団体に入っていない理由（複数回答 %）



(3) 友人関係及び教職員との関係

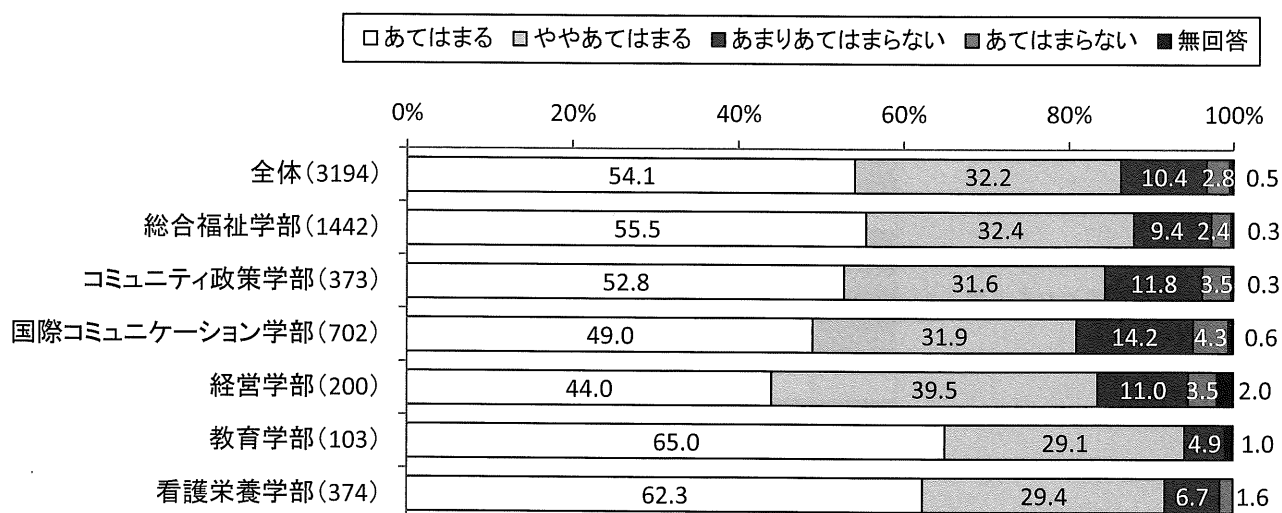
悩みを相談できる友人がいる80%、教職員は36%

1) 大学内での新しい友人

「大学内で新しい友人がたくさんできた」という設問の回答結果をみると、「あてはまる」54.1%、「ややあてはまる」32.2%、「あまりあてはまらない」10.4%、「あてはまらない」2.8% となっている。8割半の学生が大学内で新しい友人がたくさんできたと回答した。

「あてはまる」と「ややあてはまる」を統合して学部別にみると、総合福祉学部 87.9%、コミュニティ政策学部 84.4%、国際コミュニケーション学部 80.9%、経営学部 83.5%、教育学部 94.1%、看護栄養学部 91.7%であった。（図Ⅱ-3-3-1）

図Ⅱ-3-3-1 大学で新しい友人がたくさんできた

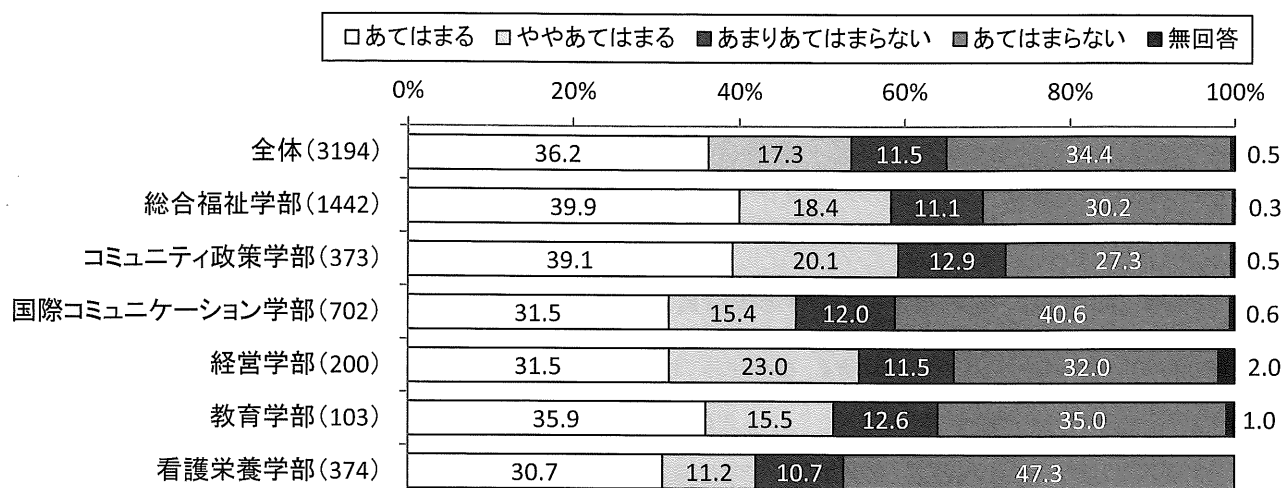


2) 入学前からの友人

「入学前からの友人が大学にいる」という設問の回答結果をみると、「あてはまる」36.2%、「ややあてはまる」17.3%、「あまりあてはまらない」11.5%、「あてはまらない」34.4% となっている。5割強の学生が、入学前からの友人が大学にいると回答した。

「あてはまる」と「ややあてはまる」を統合して学部別にみると、総合福祉学部 58.3%、コミュニティ政策学部 59.2%、国際コミュニケーション学部 46.9%、経営学部 54.5%、教育学部 51.4%、看護栄養学部 41.9%であった。（図Ⅱ-3-3-2）

図Ⅱ-3-3-2 入学前からの友人が大学にいる

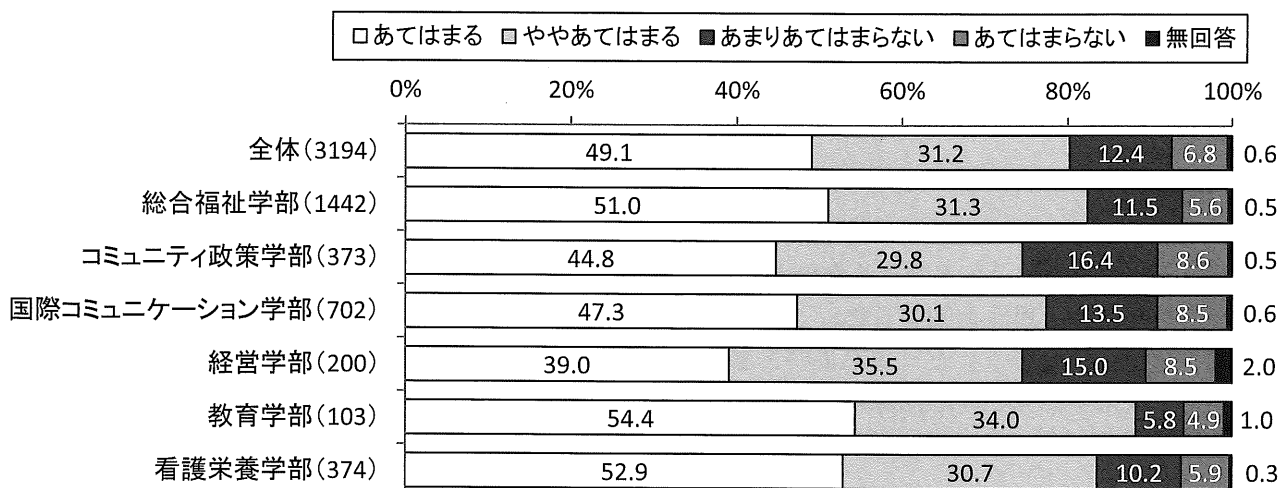


3) 悩み事を相談できる友人

「大学内に、悩み事を相談できる友人がいる」という設問の回答結果をみると、「あてはまる」49.1%、「ややあてはまる」31.2%、「あまりあてはまらない」12.4%、「あてはまらない」6.8% となっている。8割の学生が大学内に、悩み事を相談できる友人がいると回答した。

「あてはまる」と「ややあてはまる」を統合して学部別にみると、総合福祉学部 82.3%、コミュニティ政策学部 74.6%、国際コミュニケーション学部 77.4%、経営学部 74.5%、教育学部 88.4%、看護栄養学部 83.6%であった。（図Ⅱ-3-3-3）

図Ⅱ-3-3-3 大学内に、悩み事を相談できる友人がいる

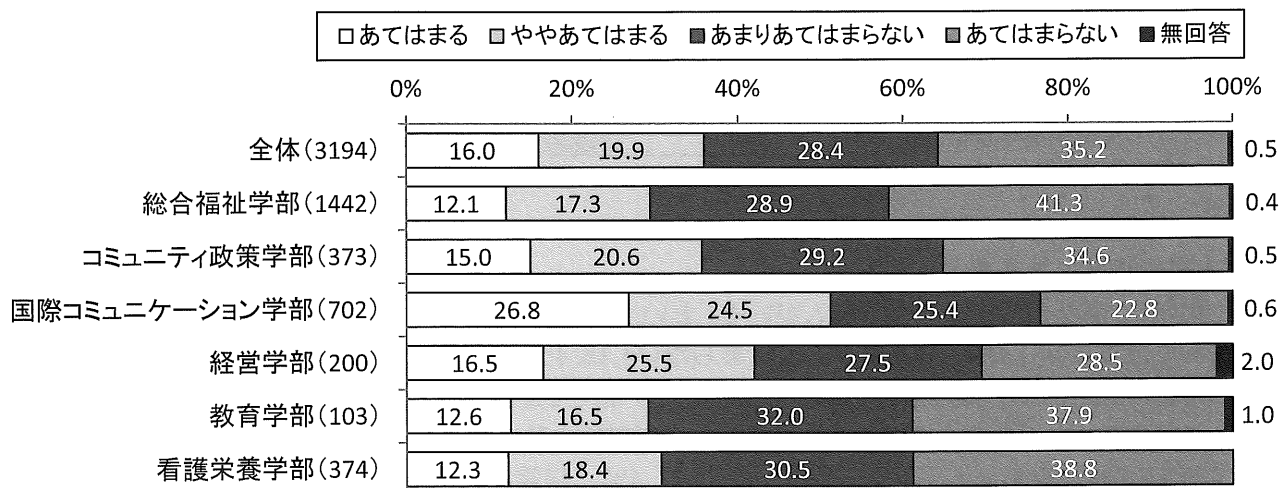


4) 悩み事を相談できる教職員

「大学内に、悩み事を相談できる教職員がいる」という設問の回答結果をみると、「あてはまる」16.0%、「ややあてはまる」19.9%、「あまりあてはまらない」28.4%、「あてはまらない」35.2% となっている。3 割半の学生が、大学内に悩み事を相談できる教職員がいる、6 割半の学生は、大学内に悩み事を相談できる教職員がいないと回答した。

「あてはまる」と「ややあてはまる」を統合して学部別にみると、総合福祉学部 29.4%、コミュニティ政策学部 35.6%、国際コミュニケーション学部 51.3%、経営学部 42.0%、教育学部 29.1%、看護栄養学部 30.7%であった。（図Ⅱ-3-3-4）

図Ⅱ-3-3-4 大学内に、悩み事を相談できる教職員がいる



(4) 学生のマナー

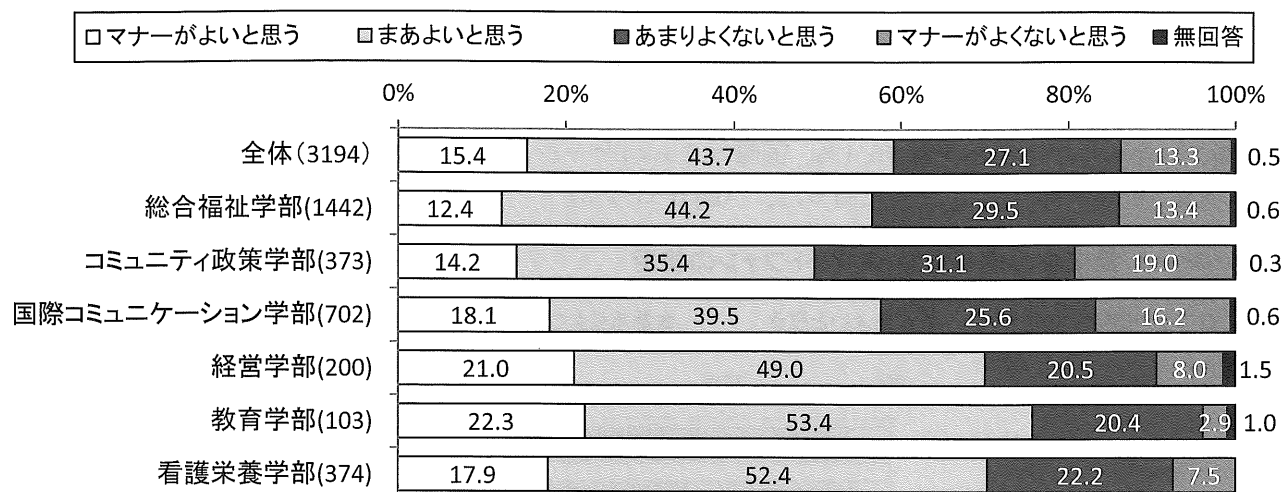
半数以上の学生がマナーの悪さを感じている

1) ゴミの捨て方

「ごみの捨て方について」という設問の回答結果をみると、「マナーがよいと思う」15.4%、「まあよいと思う」43.7%、「あまりよくないと思う」27.1%、「マナーがよくない」13.3% となっている。6 割の学生が、よいと思うと回答した。

「マナーがよいと思う」と「まあよいと思う」を統合して学部別にみると、総合福祉学部 56.6%、コミュニティ政策学部 49.6%、国際コミュニケーション学部 57.6%、経営学部 70.0%、教育学部 75.7%、看護栄養学部 70.3%であった。（図Ⅱ-3-4-1）

図Ⅱ-3-4-1 ゴミの捨て方

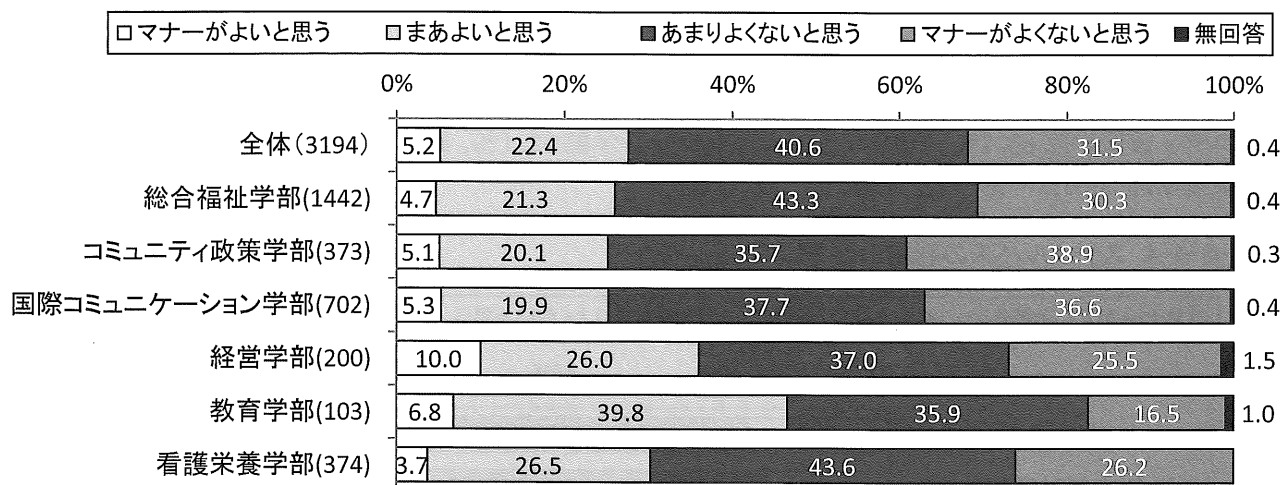


2) 授業中の私語

「授業中の私語について」という設問の回答結果をみると、「マナーがよいと思う」5.2%、「まあよいと思う」22.4%、「あまりよくないと思う」40.6%、「マナーがよくない」31.5% となっている。7割強の学生が、よくないと思うと回答した。

「マナーがよくないと思う」と「あまりよくないと思う」を統合して学部別にみると、総合福祉学部 73.6%、コミュニティ政策学部 74.6%、国際コミュニケーション学部 74.3%、経営学部 62.5%、教育学部 52.4%、看護栄養学部 69.8%であった。(図Ⅱ-3-4-2)

図Ⅱ-3-4-2 授業中の私語

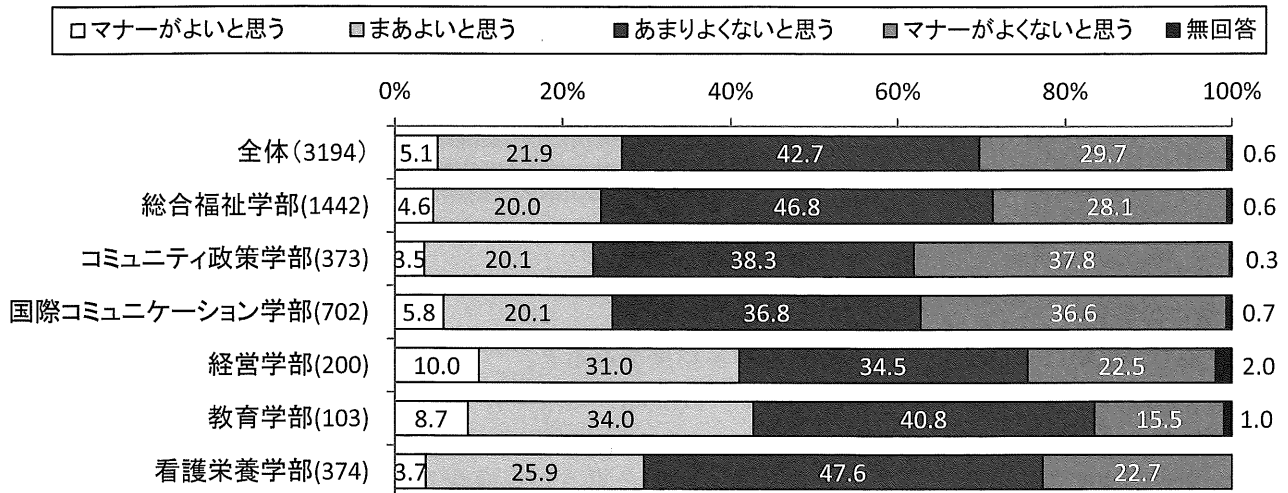


3) 授業中の携帯電話・スマートフォンの使用

「授業中の携帯電話・スマートフォンの使用について」という設問の回答結果をみると、「マナーがよいと思う」5.1%、「まあよいと思う」21.9%、「あまりよくないと思う」42.7%、「マナーがよくない」29.7% となっている。7割強の学生が、よくないと思うと回答した。

「マナーがよくないと思う」と「あまりよくないと思う」を統合して学部別にみると、総合福祉学部 74.9%、コミュニティ政策学部 76.1%、国際コミュニケーション学部 73.4%、経営学部 57.0%、教育学部 56.3%、看護栄養学部 70.3%であった。（図Ⅱ-3-4-3）

図Ⅱ-3-4-3 授業中の携帯電話・スマートフォンの使用

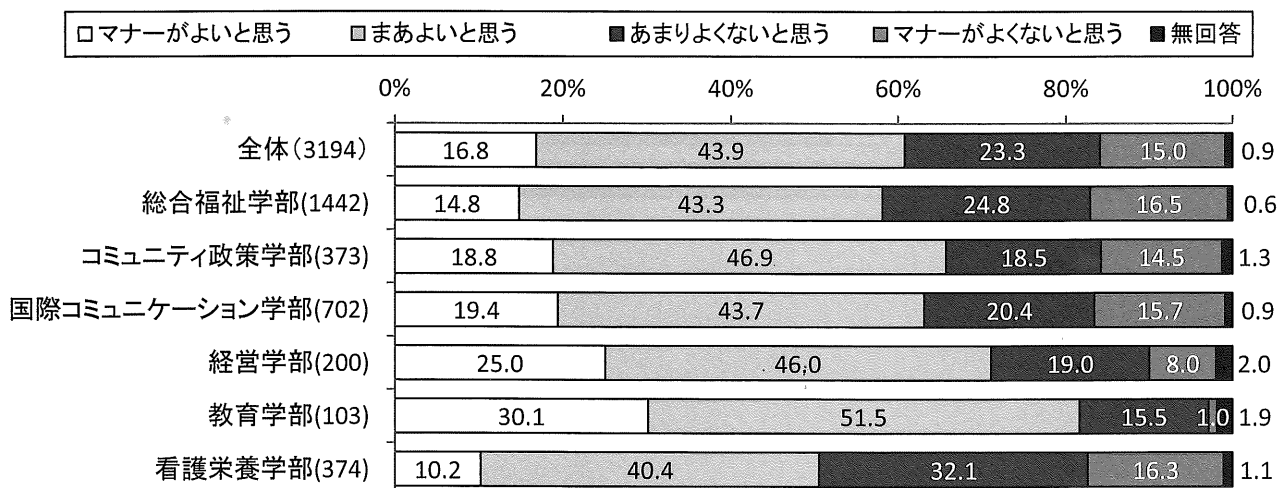


4) スクールバスの利用の仕方

「スクールバスの利用の仕方について」という設問の回答結果をみると、「マナーがよいと思う」16.8%、「まあよいと思う」43.9%、「あまりよくないと思う」23.3%、「マナーがよくない」15.0% となっている。6割の学生が、よいと思うと回答した。

「マナーがよいと思う」と「まあよいと思う」を統合して学部別にみると、総合福祉学部 58.1%、コミュニティ政策学部 65.7%、国際コミュニケーション学部 63.1%、経営学部 71.0%、教育学部 81.6%、看護栄養学部 50.6%であった。（図Ⅱ-3-4-4）

図Ⅱ-3-4-4 スクールバスの利用の仕方

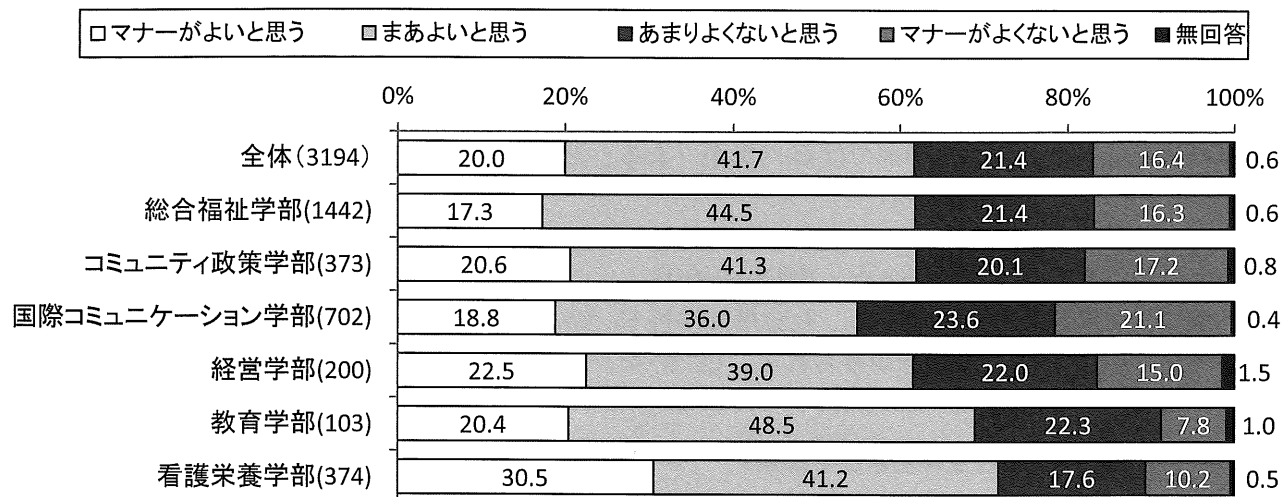


5) 学内の喫煙

「学内の喫煙について」という設問の回答結果をみると、「マナーがよいと思う」20.0%、「まあよいと思う」41.7%、「あまりよくないと思う」21.4%、「マナーがよくない」16.4% となっている。6割強の学生が、よいと思うと回答した。

「マナーがよいと思う」と「まあよいと思う」を統合して学部別にみると、総合福祉学部 61.8%、コミュニティ政策学部 61.9%、国際コミュニケーション学部 54.8%、経営学部 61.5%、教育学部 68.9%、看護栄養学部 71.7%であった。（図Ⅱ-3-4-5）

図Ⅱ-3-4-5 学内の喫煙



第3章 大学生生活の状況のまとめ

授業への取り組みについては、6割近くの学生が事前・事後学習を行っており、前回の調査時に比べるとおよそ30ポイントも増加し、授業以外での自己学習を行う学生が大幅に増えている。その他の授業中の私語、携帯電話、遅刻等の授業態度についてもほとんどの項目で改善がみられた。これは大変喜ばしいことであり、学生の意識の向上と教員の工夫によるところが大きいと思われるが、その要因は何なのかを明確にすることが重要であろう。しかし、依然として授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの操作、居眠りをする学生がそれぞれ45%程度と多くいることから、今後の更なる改善に向け、学生、教員ともに努力が必要である。

学生団体や組織への所属では、学内のクラブ・サークルに所属している学生が6割おり、それ以外の学内外の活動への参加はそれぞれ5%程度で、大学以外の活動への関心の低さがうかがわれた。所属していない学生は36%で、その理由は全体では興味・関心のあるものがないことであったが、実践心理学科では人間関係が煩わしいこと、看護栄養学部では時間割が窮屈であることが挙げられており、学部・学科による特徴がみられた。

大学内での友人関係は、新しい友人がたくさんできたとする学生、および悩み事を相談できる友人がいるとする学生はいずれも8割を超えていた。一方、悩み事を相談できる教職員がいるとする学生は36%であった。

学生のマナーについては、よいと思う学生の割合が多いものから順にみると、学内の喫煙、スクールバスの利用が6割を超えており、ゴミの捨て方が5割強で、授業中の私語、携帯・スマートフォンの使用では27%程度にとどまった。特に、7割以上の学生が授業中のマナーの悪さを感じているということは、早急な、かつ効果的な対策を講じる必要があるだろう。

第4章 学生生活の悩み

(1) 学生生活の悩み

- ・ 57%の学生が悩みをもっている
- ・ 将来、授業、就職に関する悩みが多い

1) 悩みの有無

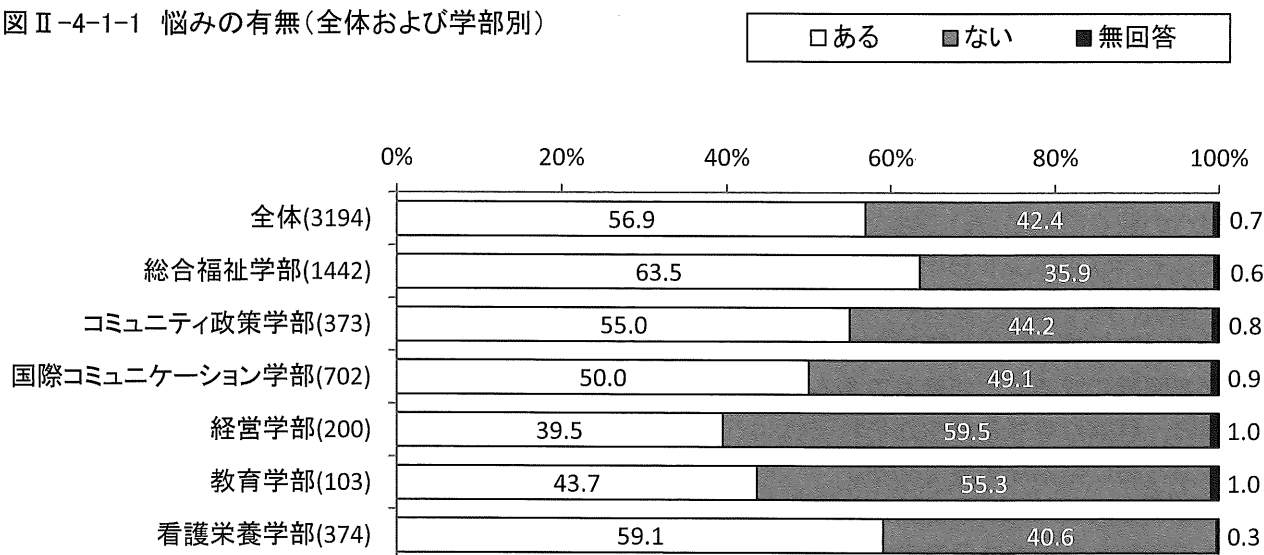
学生生活で悩んでいることの有無についてたずねたところ、全体では悩みが「ある」と回答した者が1,817人(56.9%)、「ない」と回答した者が1,355人(42.4%)であり、無回答だった者は22人(0.7%)であった。

学部別に見ると、総合福祉学部では63.5%が「ある」と回答しており最も多く、経営学部では39.5%と最も少なかった。(図Ⅱ-4-1-1)

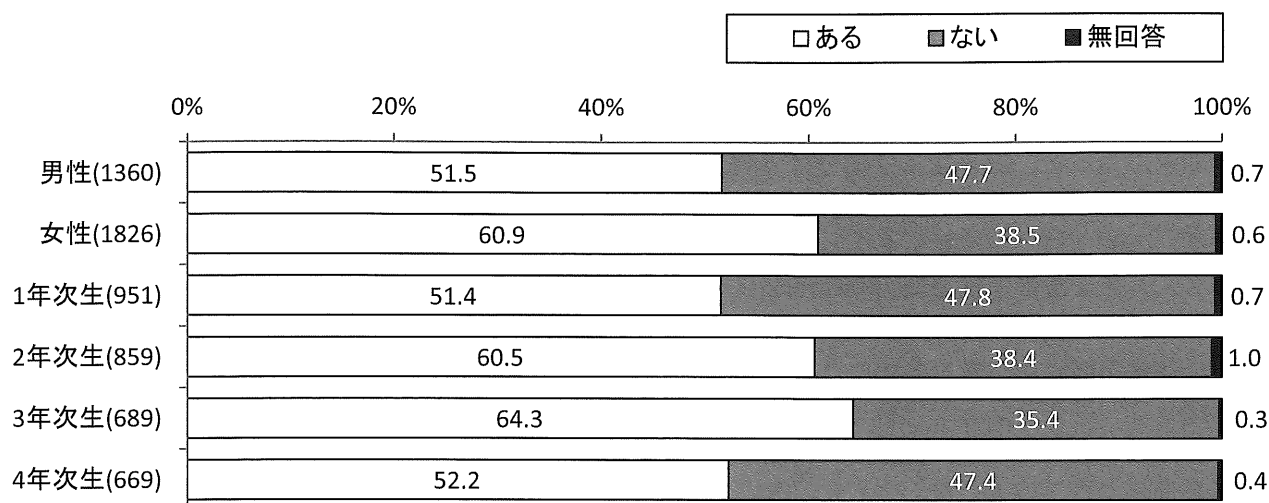
性別では、女子学生の方が60.9%と多い傾向がみられた。学年別では、3年次生が64.3%と最も多く、1年次生が51.4%と最も少なかった。(図Ⅱ-4-1-2)

学科別では、実践心理学科65.9%、社会福祉学科65.5%が多く、経営学科36.4%、経営コミュニケーション学科39.0%が少ない傾向がみられた。(図Ⅱ-4-1-3)

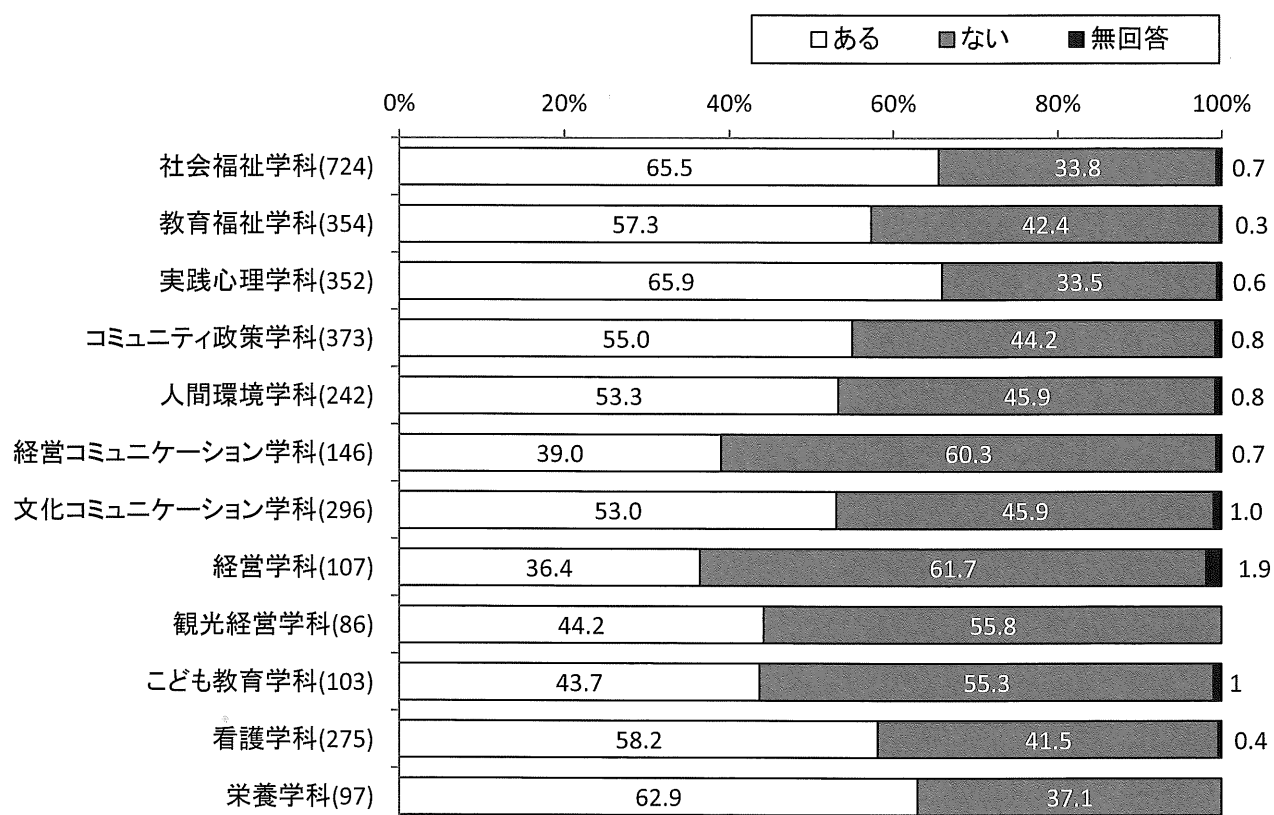
図Ⅱ-4-1-1 悩みの有無(全体および学部別)



図Ⅱ-4-1-2 悩みの有無(性別および学年別)



図Ⅱ-4-1-3 悩みの有無(学科別)



2) 悩みの内容

学生生活で悩んでいることがあると回答した学生に悩みの内容について12項目用意し、複数回答方式で回答を得た。

全体では、「将来に関して」60.4%、「授業に関係すること」52.8%、「就職活動」51.3%という回答が多く、以下、「自分の性格・心理」26.8%、「友人関係」26.7%、「学習目標」21.1%となっていた。

学部別に見ると、総合福祉学部では「将来に関して」62.1%、「授業に関係すること」56.8%、「就職活動」52.0%となっており、おおよそ全体と同様の回答であったが、「心身の健康状態の問題」、「家族との関係」は他学部 비해最も多かった。

コミュニティ政策学部では「就職活動」73.2%、「将来に関して」67.8%、「授業に関係すること」35.1%となっており、就職活動に関する悩みが多いのが目立った。また、「将来に関して」、「就職活動」、「学習目標」は他学部 비해最も多かった。

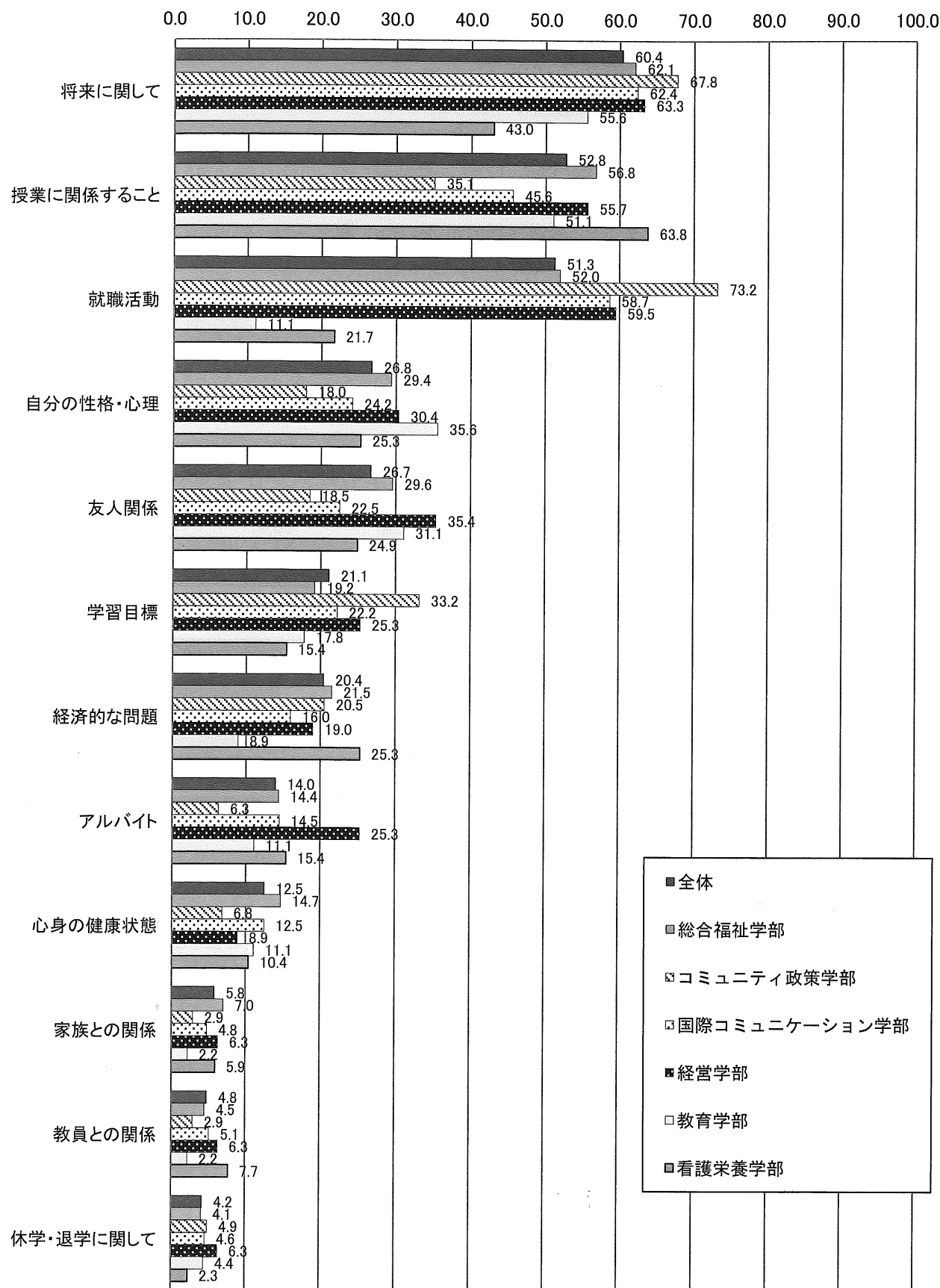
国際コミュニケーション学部では「将来に関して」62.4%、「就職活動」58.3%、「授業に関係すること」45.6%となっており、就職活動に関する悩みがやや多かった。

経営学部では「将来に関して」63.3%、「就職活動」59.5%、「授業に関すること」55.7%となっており、「友人関係」、「アルバイト」は他学部 비해最も多かった。

教育学部では「将来に関して」55.6%、「授業に関係すること」51.1%、「自分の性格・心理」35.6%となっており、自分の性格や心理面の悩みが多いのが目立ち、「自分の性格・心理」は他学部 비해最も多かった。

看護栄養学部では「授業に関係すること」63.8%、「将来に関して」43.0%、「自分の性格・心理」25.3%、「経済的な問題」25.3%となっており、「授業に関すること」、「経済的な問題」、「教員との関係」は他学部 비해最も多かった（図Ⅱ-4-1-4）。

図Ⅱ-4-1-4 悩みの内容(複数回答 %)



(2) ハラスメント相談窓口

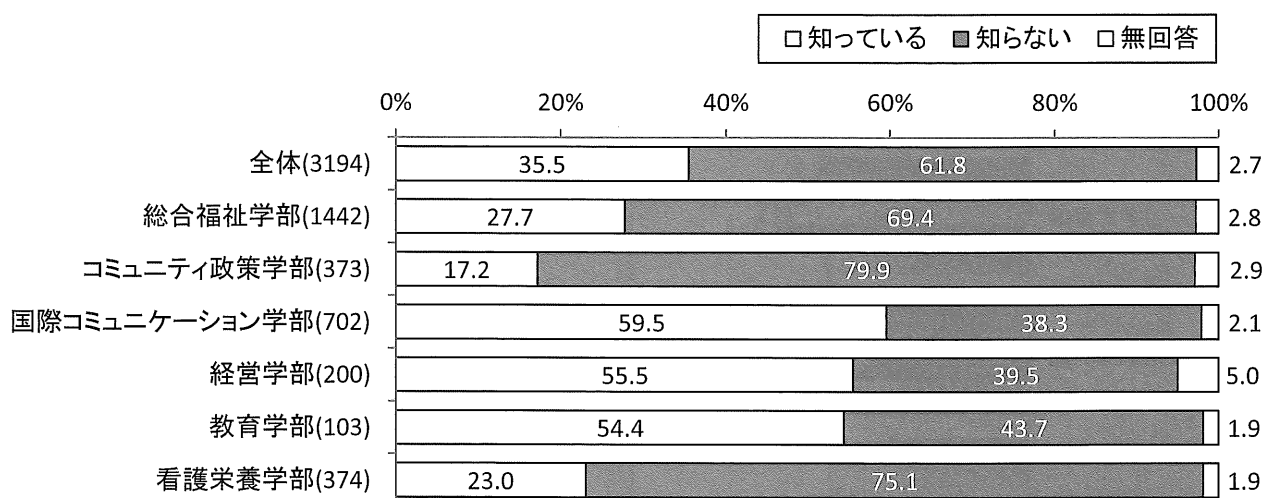
ハラスメント相談窓口について知っている36%

大学のハラスメント窓口の存在がどの程度学生に伝わっているのかを把握するために、大学にハラスメント窓口があることを知っているかどうかをたずねたところ、全体では「知っている」者が1,135人(35.5%)、「知らない」者が1,973人(61.8%)であり、無回答の者が86人(2.7%)であった。

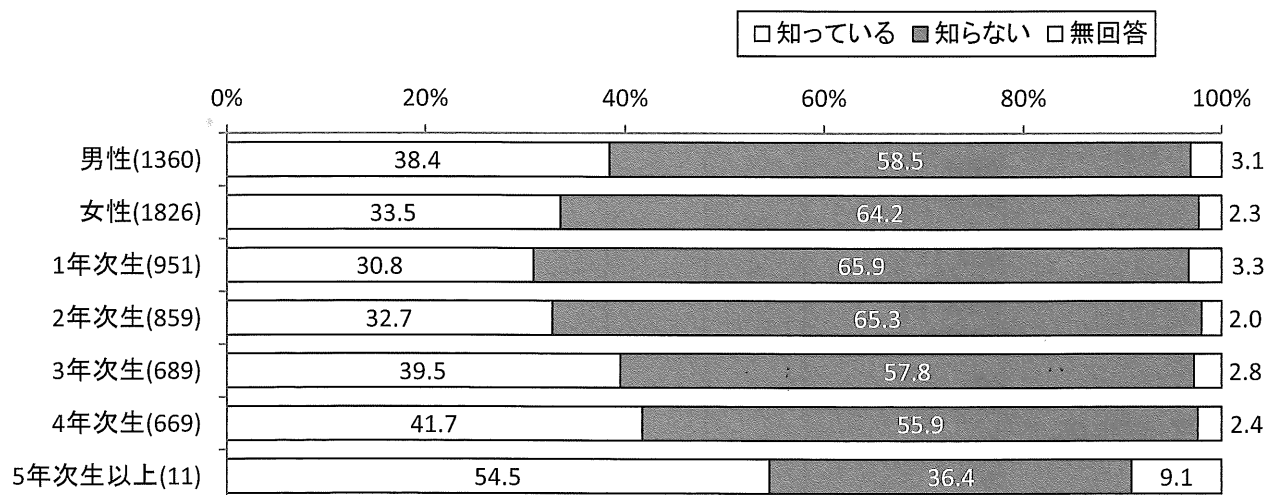
学部別に見ると、総合福祉学部の「知っている」者は27.7%、コミュニティ政策学部では17.2%、国際コミュニケーション学部では59.5%、経営学部では55.5%、教育学部では54.4%、看護栄養学部では23.0%であり、埼玉キャンパスでは半数以上の学生が知っているが、千葉キャンパス、千葉第2キャンパスでは4分の1程度であった(図Ⅱ-4-2-1)。

性別では男子学生の方が「知っている」が522人(38.4%)でやや多く、学年別では学年が進むにつれて「知っている」者が多くなる傾向がみられた(図Ⅱ-4-2-2)。

図Ⅱ-4-2-1 ハラスメント相談窓口(全体および学部別)



図Ⅱ-4-2-2 ハラスメント相談窓口(男女別と学年別)



第4章 学生生活の悩みのまとめ

学生生活の悩みは、全体では6割近い学生が抱えており、性別では女子学生に多い傾向がみられ、学科別では実践心理学科、社会福祉学科、栄養学科の順に多く、いずれも6割を超えていた。悩みの内容は、全体として将来のこと、授業、就職活動についての3つが多く、いずれも半数を超えていた。授業および就職活動に関しては、学習支援体制とキャリア支援体制のよりいっそうの充実をはかることが必要であろう。学部別に悩みの内容を比べてみると、総合福祉学部は心身の健康状態の悩みが多く、コミュニティ政策学部は就職活動と学習目標に関する悩みが他の学部より多いのが目立ち、経営学部は友人関係とアルバイトに関係する悩みが多いという特徴がある。また、教育学部は自分の性格や心理に関する悩みが多く、看護栄養学部は授業と経済的な問題に関する悩みが多いというように、学部により学生のおかれている状況は異なっており、それに応じて生じる悩みも異なってくることがわかる。引き続き各学部それぞれで検討されるべき課題であろう。

ハラスメント相談窓口について、その存在を知っている学生は全体で36%にとどまった。学部別に見ると、埼玉キャンパスの学部は知っている率が高く、千葉キャンパスと千葉第2キャンパスの学部は低く、明らかな差があった。この差はどこからくるものなのかを検討し、千葉キャンパスと千葉第2キャンパスにおいても学生の認知度を上げる必要がある。女子学生の方が知っている者が少ないのは気になるところであり、1年次から学生に向けての周知方法を検討するべきであろう。

第5章 学生生活への満足度

(1) 大学生活での実現状況

- ・ 仕事や資格に結びつく専門的な勉強の実現 6割超える
- ・ 友人との楽しい交流の実現 9割弱

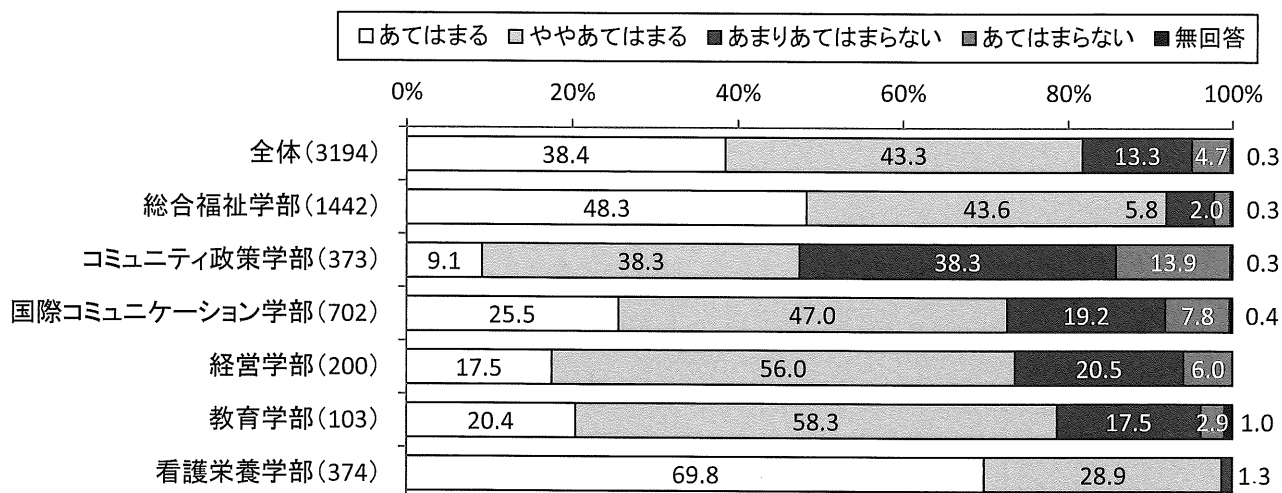
1) 仕事や資格に結びつく専門的な勉強

「専門的な勉強」、「仕事にあった勉強」、「免許や資格に必要な勉強」については、どの項目も大学全体で肯定的な回答が6割を超えているが、学部間には若干の回答傾向の相違が見られる。それぞれの学部の性格から考えて自明のことではあるが、入学時から資格取得をその目的とする看護栄養学部の学生の97.3%が「あてはまる」、「ややあてはまる」と回答しているのに対し、比較的学习の自由度の高い学部が「あまりあてはまらない」と回答する学生が多い傾向にある。特に、コミュニティ政策学部の学生の62.8%が「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と回答している。(図Ⅱ-5-1-1)(図Ⅱ-5-1-2)(図Ⅱ-5-1-3)

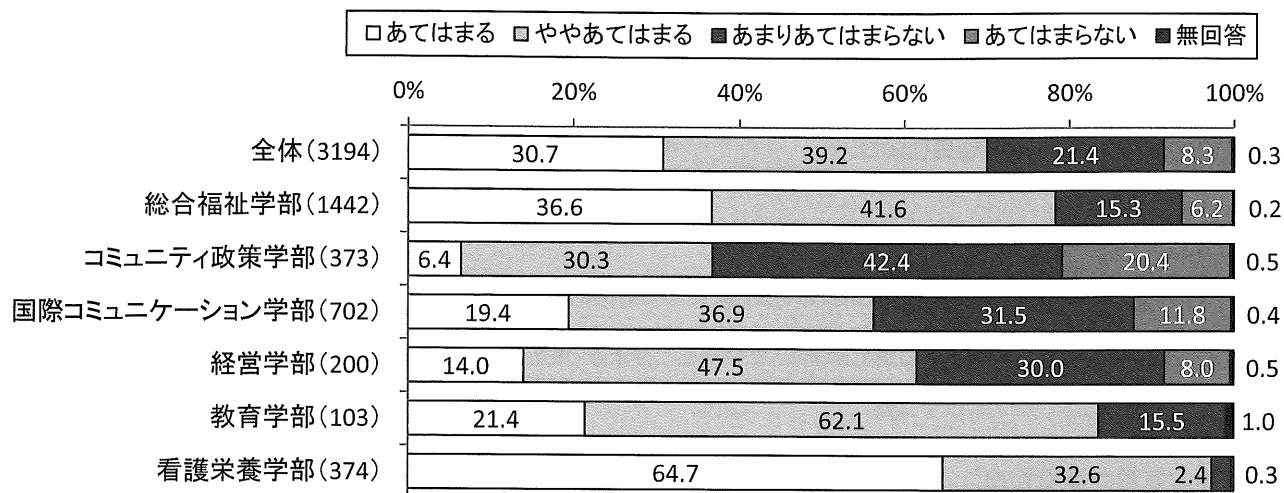
また、それぞれの項目を志望理由に挙げていた学生の実現度について見てみたところ、およそ9割近い学生が実現できており、入学時からの目的意識あるいは動機づけが重要であることがうかがわれた。

(図Ⅱ-5-1-4)(図Ⅱ-5-1-5)(図Ⅱ-5-1-6)

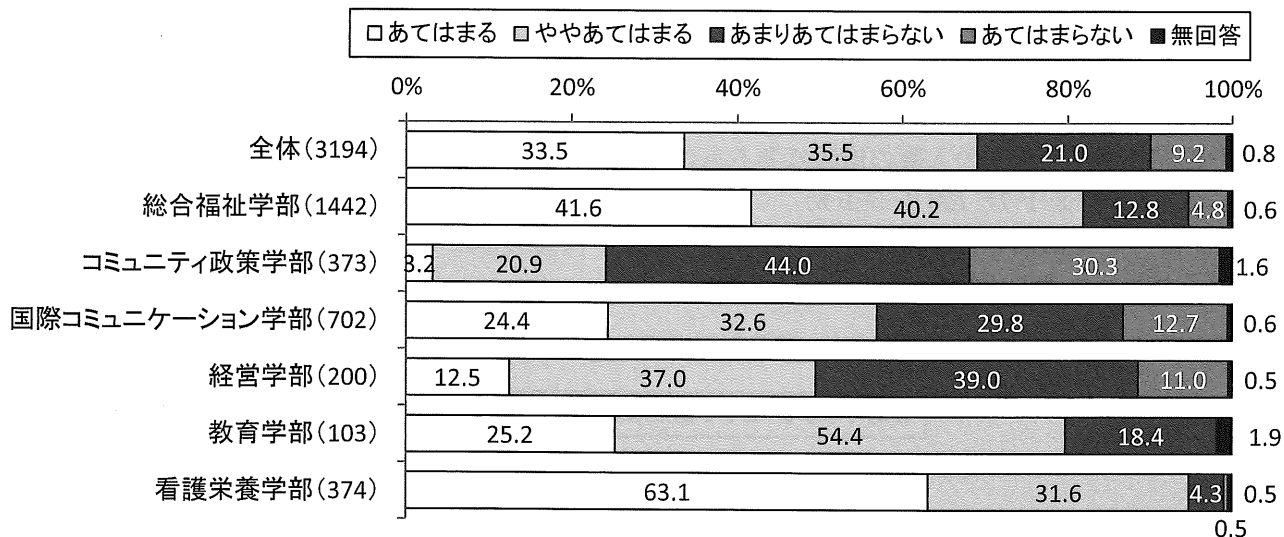
図Ⅱ-5-1-1 専門の勉強ができている



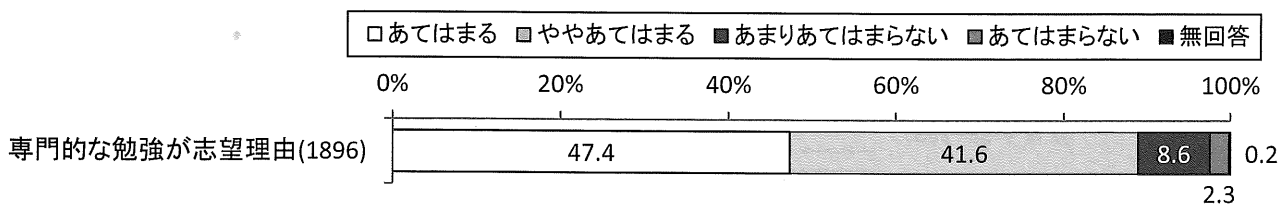
図Ⅱ-5-1-2 将来つきたい仕事にあった勉強ができている



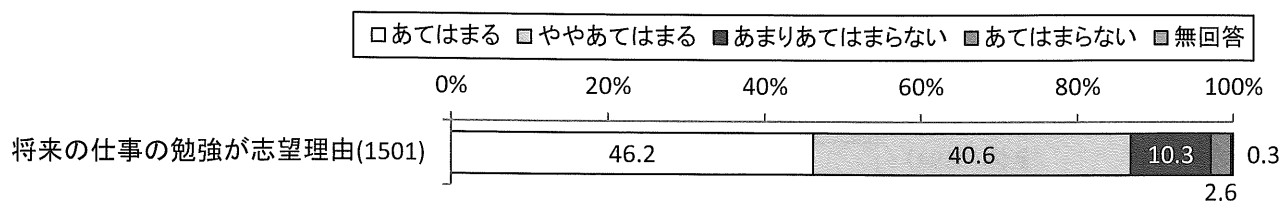
図Ⅱ-5-1-3 免許や資格の取得に必要な勉強ができている



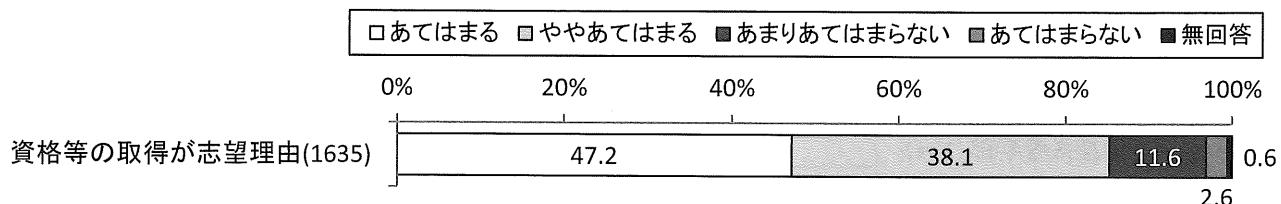
図Ⅱ-5-1-4 専門の勉強の実現度(専門的な勉強が志望理由)



図Ⅱ-5-1-5 将来の仕事の勉強の実現度(将来の仕事の勉強が志望理由)



図Ⅱ-5-1-6 資格等取得の勉強の実現度(資格等の取得が志望理由)

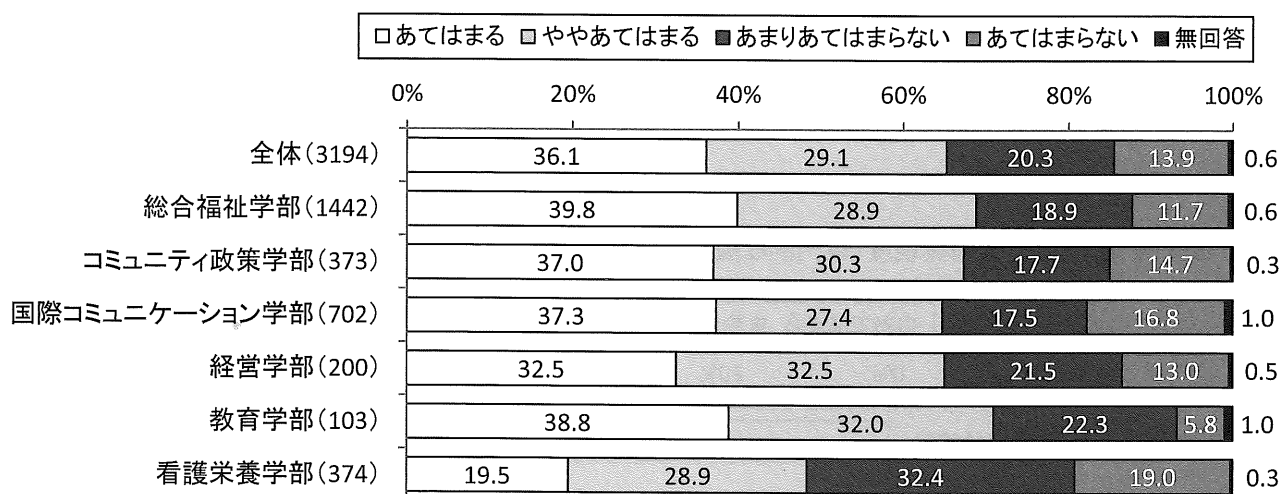


2) 趣味やサークル、ボランティア活動

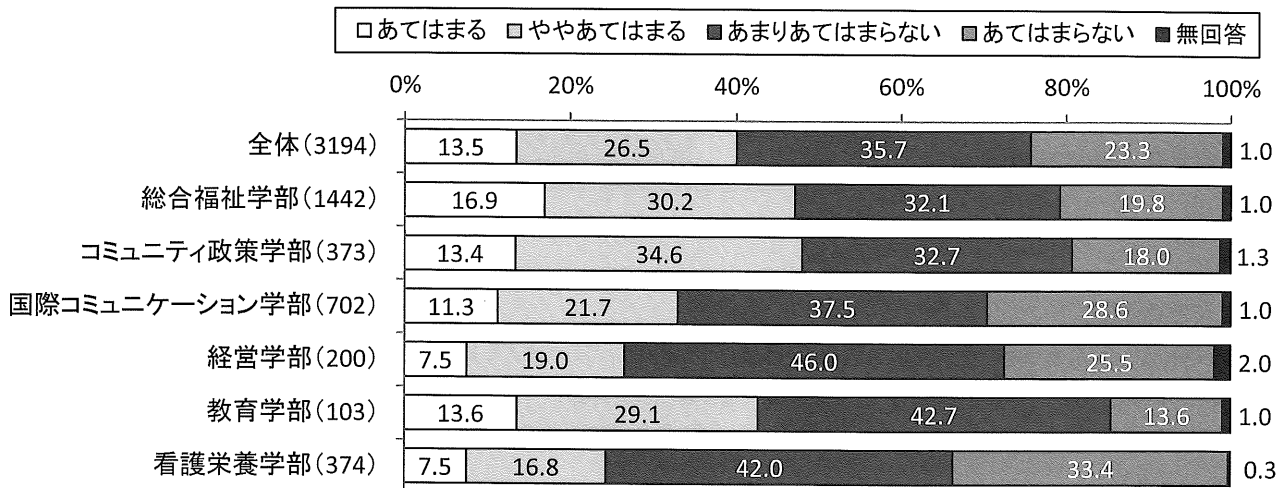
勉強以外の日常的な生活について、「趣味やサークル活動」、「ボランティア活動」への参加状況を問うたところ、「趣味やサークル活動」については、「あてはまる」、「ややあてはまる」と回答した学生が65.2%いるのに対し、社会貢献を意図した「ボランティア活動」に限定すると、「あまりあてはまらない」との回答が35.7%、さらには、「あてはまらない」との回答が23.3%と否定的な回答が多く寄せられた。学部ごとの回答傾向も若干の人数の増減はあるものの、どの学部の回答も過半数の学生が否定的な回答をしている。(図Ⅱ-5-1-7)(図Ⅱ-5-1-8)

また、サークル活動等を志望理由に挙げていた学生の実現度を見てみると、およそ9割が実現できている様子がみられた。(図Ⅱ-5-1-9)

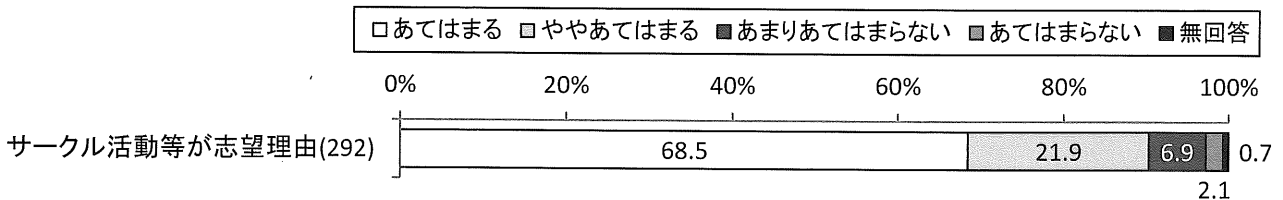
図Ⅱ-5-1-7 趣味やサークル活動など、勉強以外のことができている



図Ⅱ-5-1-8 ボランティア活動など社会に役立つことができる



図Ⅱ-5-1-9 サークル活動等の実現度(サークル活動等が志望理由)

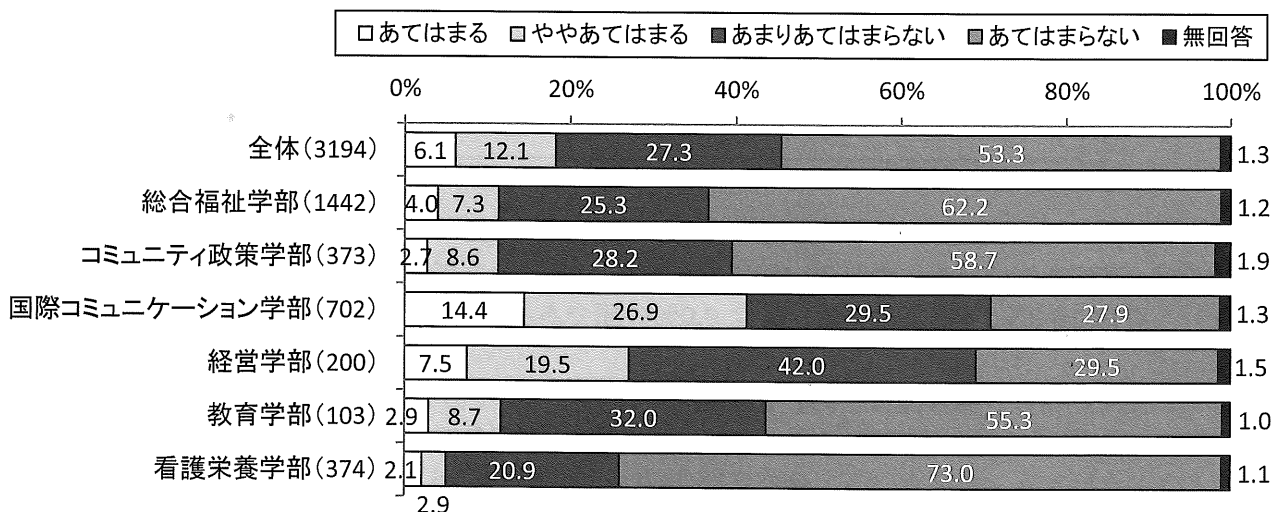


3) 異文化コミュニケーション

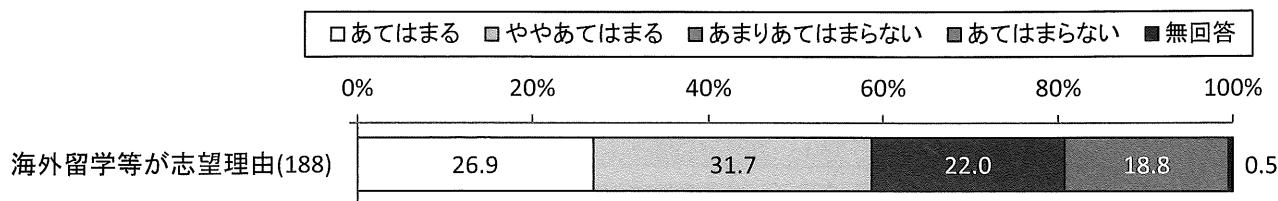
「海外交流や異文化コミュニケーション」については、全体の約8割（80.6%）が「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と回答しており、国際コミュニケーション学部では、「あまりあてはまらない」（29.5%）「あてはまらない」（27.9%）と回答している。（図Ⅱ-5-1-10）

また、海外留学等を志望理由に挙げていた学生の実現度を見てみたところ、その実現度は6割弱であった。（図Ⅱ-5-1-11）

図Ⅱ-5-1-10 海外留学や国際交流など異文化コミュニケーションができる



図Ⅱ-5-1-11 海外留学等の実現度(海外留学等が志望理由)

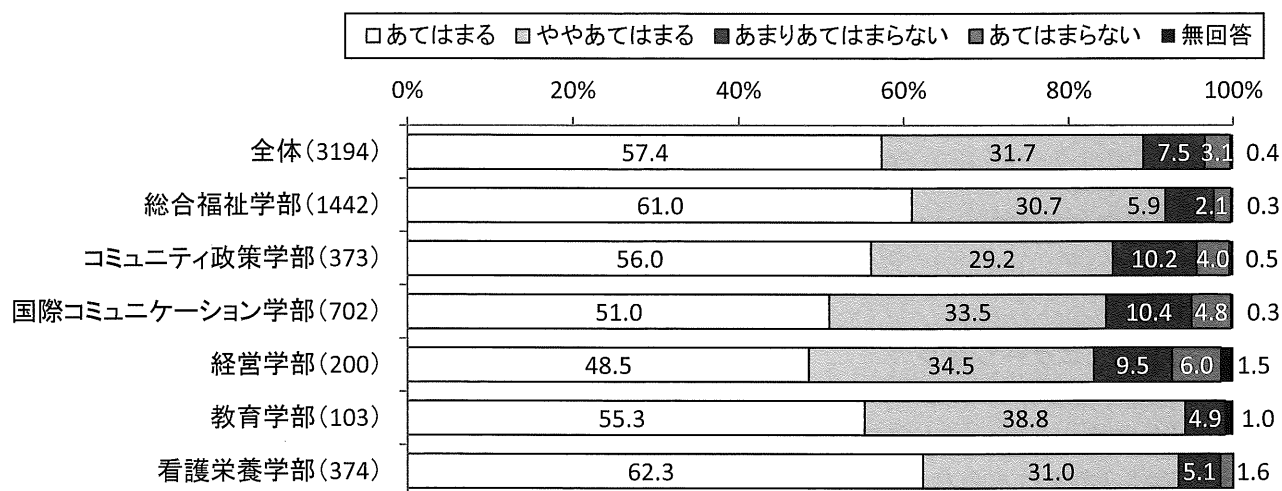


4) 友人との交流

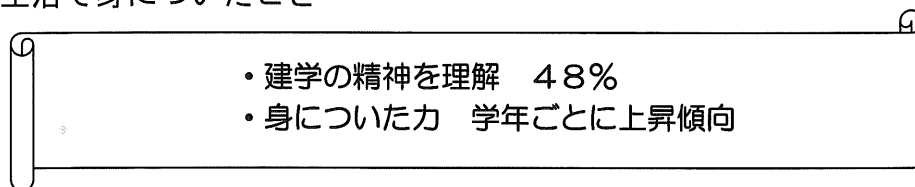
「大学内の友人と楽しく交流できているか」との問いについては、全体で「あてはまる」(57.4%)「ややあてはまる」(31.7%)と回答している。(図Ⅱ-5-1-12)

学年別で見た場合、「5年生以上」の学生が、「ややあてはまらない」(9.1%)「あてはまらない」(36.4%)と回答している。

図Ⅱ-5-1-12 大学内の友人と楽しく交流できている



(2) 大学生活で身についたこと



1) 建学の精神 (共生の理念)

全体では「ややあてはまる」者が 39.4%で最も多く、「あまりあてはまらない」者は 34.9%、「あてはまらない」者は 16.3%、「あてはまる」者は 9.0%の順であった。この他に、無回答が 16 人 (0.5%)あった。

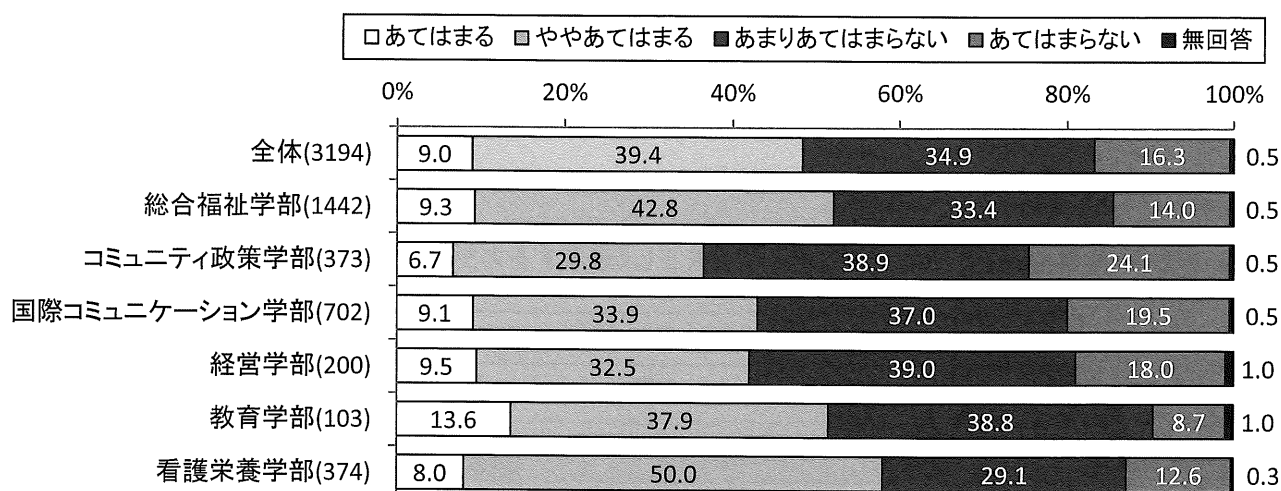
学部別に見てみると、総合福祉学部、看護栄養学部では「ややあてはまる」者が最も多く、42.8%、50.0%であったが、その他の学部は「あまりあてはまらない」者が最も多く、コミュニティ政策学部 38.9%、国際コミュニケーション学部 37.0%、経営学部 39.0%、教育学部 38.8%であった。但し、学科別に見て

みると、「ややあてはまる」者が最も多かった総合福祉学部及び看護栄養学部の中でも、実践心理学科及び栄養学科は「ややあてはまらない」者の割合のほうがやや多く、反対に「あまりあてはまらない」者の割合が多かった国際コミュニケーション学部では、文化コミュニケーション学科のみ「ややあてはまる」者が多かった。

性別で見ると、「ややあてはまる」者が最も多く、男性 37.2%、女性 41.1%が「ややあてはまる」と回答している。

学年別に見てみると、1 年次生、3 年次生、4 年時生、5 年次生以上は「ややあてはまる」者が最も多く、41.9%、38.8%、40.5%、36.4%であるが、2 年次生は「あまりあてはまらない」者が最も多く、38.8 であった。(図Ⅱ-5-2-1)

図Ⅱ-5-2-1 建学の精神(共生の理念)を理解できた



2) 図書や雑誌、参考資料にある情報を正しく理解する力

全体では「ややあてはまる」者が 45.7%で最も多く、「あまりあてはまらない」者は 33.6%、「あてはまる」者は 12.0%「あてはまらない」者は 8.3%の順であった。この他に、無回答が 17 人 (0.5%) あった。全体的には半数以上が肯定的評価をしている。

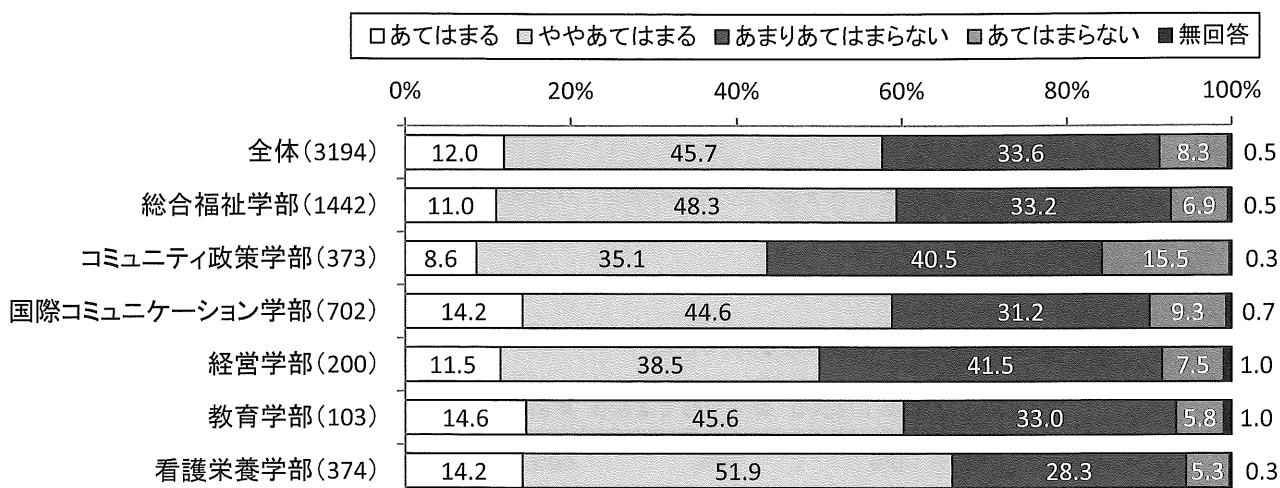
学部別に見てみると、総合福祉学部、国際コミュニケーション学部、教育学部、看護栄養学部では「ややあてはまる」者が最も多く、48.3%、44.6%、45.6%、51.9%であったが、コミュニティ政策学部及び経営学部においては「あまりあてはまらない」者が最も多く、40.5%、41.5%であった。(図Ⅱ-5-2-2)

なお、看護栄養学部は「あてはまる」者が 14.2%、「ややあてはまる」者が 51.9%で肯定的評価は全学部の中で最も高いが、学科別に見てみると、栄養学科では「あまりあてはまらない」者が 42.3%となっている。

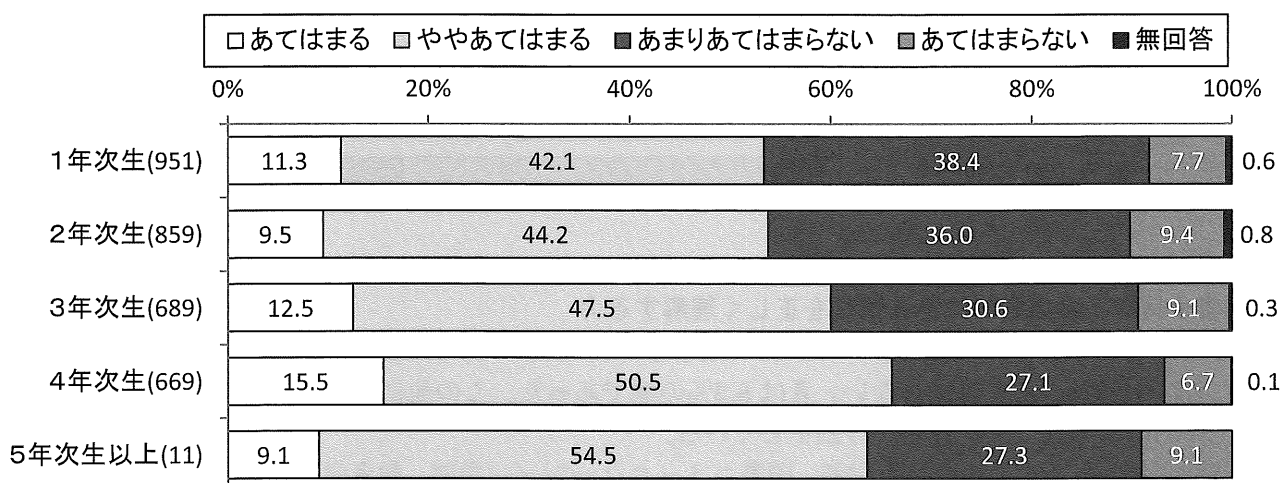
性別で見ると、男女とも「ややあてはまる」者が最も多く、男性 43.2%、女性 47.5%で、女性のほうがやや割合が多い。

学年別に見てみると、各学年共に「ややあてはまる」者が最も多く、1 年次生 42.1%、2 年次生 44.2%、3 年次生 47.5%、4 年次生 50.5%、5 年次生以上では 54.5%であり、4 年次生、5 年次生以上になると肯定的評価をしている者が 60%以上であった。(図Ⅱ-5-2-3)

図Ⅱ-5-2-2 図書や雑誌、参考資料にある情報を正しく理解する力がついた



図Ⅱ-5-2-3 図書や雑誌、参考資料にある情報を正しく理解する力がついた(学年別)



3) 自分の知識や考えを文章で論理的に書く力

全体では「ややあてはまる」者が46.2%で最も多く、「あまりあてはまらない」者は35.2%、「あてはまる」者は10.4%、「あてはまらない」者は7.6%の順であった。この他に、無回答が19人(0.6%)あった。全体的に半数以上が肯定的評価をしている。

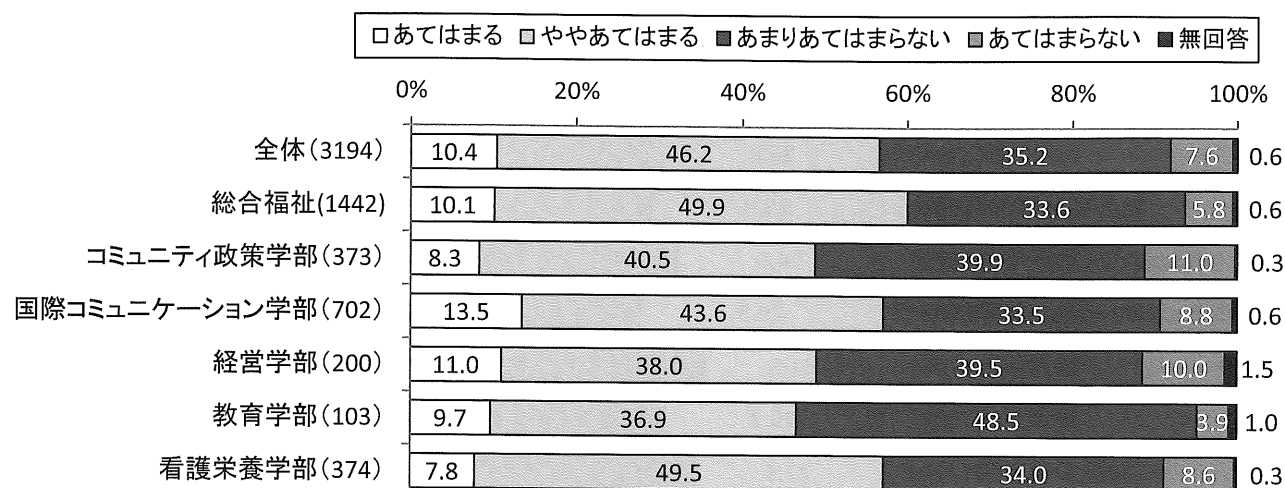
学部別に見てみると、総合福祉学部、コミュニティ政策学部、国際コミュニケーション学部、看護栄養学部では「ややあてはまる」者が最も多く、49.9%、40.5%、43.6%、49.5%であったが、経営学部及び教育学部では「あまりあてはまらない」者が最も多く、39.5%、48.5%であった。(図Ⅱ-5-2-4)

性別で見えてみると、男女とも「ややあてはまる」者が最も多く、男性45.6%、女性46.8%であった。

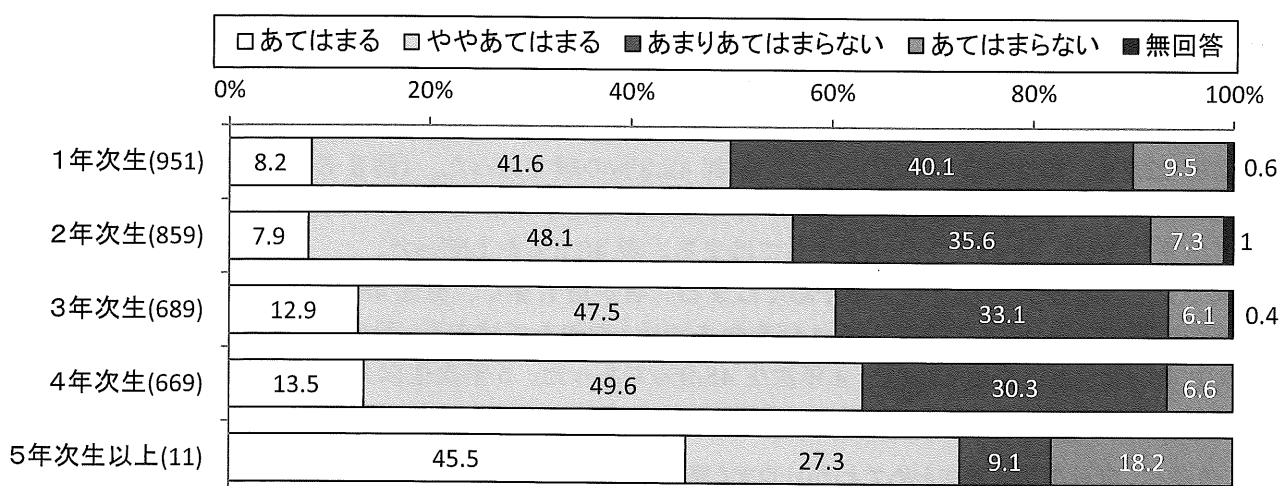
学年別に見てみると、1年次生から4年次生までは「ややあてはまる」者が最も多く、1年次生41.6%、2年次生48.1%、3年次生47.5%、4年次生49.6%であった。5年次生以上では「あてはまる」者が最も多く、45.5%であった。「あてはまる」及び「ややあてはまる」を肯定的評価としてみると、1年次生は49.8%であるが、2年次生56.0%、3年次生60.4%、4年次生63.1%、そして5年次生以上は72.8%と

学年が上がるごとに肯定的評価の割合が多くなっている。(図Ⅱ-5-2-5)

図Ⅱ-5-2-4 自分の知識や考えを文章で論理的に書く力がついた



図Ⅱ-5-2-5 自分の知識や考えを文章で書く力がついた(学年別)



4) パソコンやインターネットを使いこなす力

全体では「ややあてはまる」者が50.7%で最も多く、次いで「あてはまる」者が26.8%と多い。「あまりあてはまらない」者は17.2%、「あてはまらない」者は4.8%の順であった。この他に、無回答が17人(0.5%)あった。全体では77.5%が肯定的評価をしている。

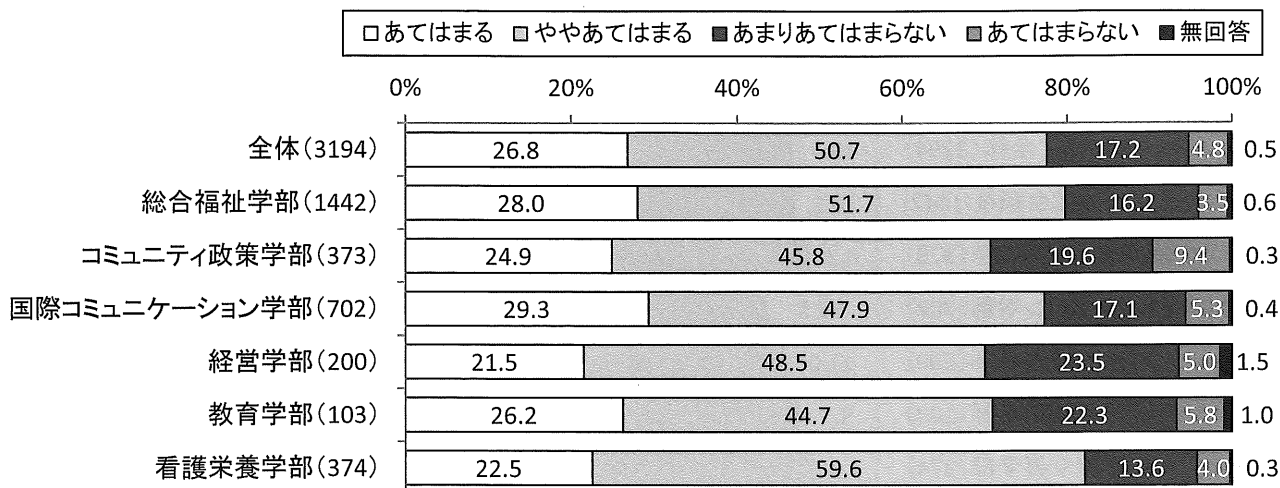
学部別に見てみると、全ての学部で「ややあてはまる」者が最も多く、最もその割合が高かった学部は看護栄養学部59.6%であったが、次いで総合福祉学部が51.7%、経営学部48.5%、国際コミュニケーション学部47.9%、コミュニティ政策学部45.8%、教育学部44.7%の順であった。

性別で見えてみると、男女とも「ややあてはまる」者が最も多く、男性46.3%、女性54.1%であった。

学年別に見てみると、1年次生から4年次生までは「ややあてはまる」者が最も多く、1年次生51.7%、2年次生49.0%、3年次生52.2%、4年次生50.2%であった。5年次生以上では「あてはまる」者が最も多く、63.6%であった。「あてはまる」及び「ややあてはまる」を肯定的評価としてみると、各学年とも

75%以上が、さらに5年次生以上では90.9%が肯定的評価をしている。(図Ⅱ-5-2-6)

図Ⅱ-5-2-6 パソコンやインターネットを使いこなす力がついた



5) 自分の考えをまとめてわかりやすく表現する力

全体では「ややあてはまる」者が47.0%で最も多く、次いで「あまりあてはまらない」者35.0%が多い。「あてはまる」者は11.4%、「あてはまらない」者は6.0%の順であった。この他に、無回答が20人(0.6%)あった。

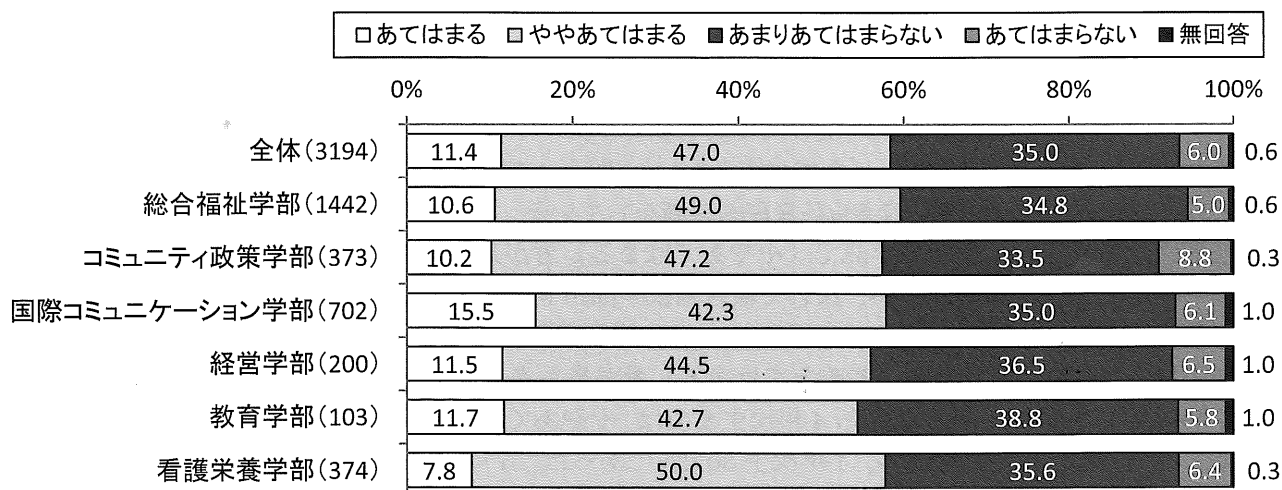
学部別に見てみると、全ての学部で「ややあてはまる」者が最も多く、その割合が多いのは最も多い学部は看護栄養学部50.0%、次いで総合福祉学部49.0%、コミュニティ政策学部47.2%、経営学部44.5%、教育学部42.7%、国際コミュニケーション学部42.3%の順であった。(図Ⅱ-5-2-7)

学科別に見てみると、ほとんどの学科も「ややあてはまる」者が最も多かったが、栄養学科のみ「あまりあてはまらない」者45.4%が「ややあてはまる」者40.2%を上回った。

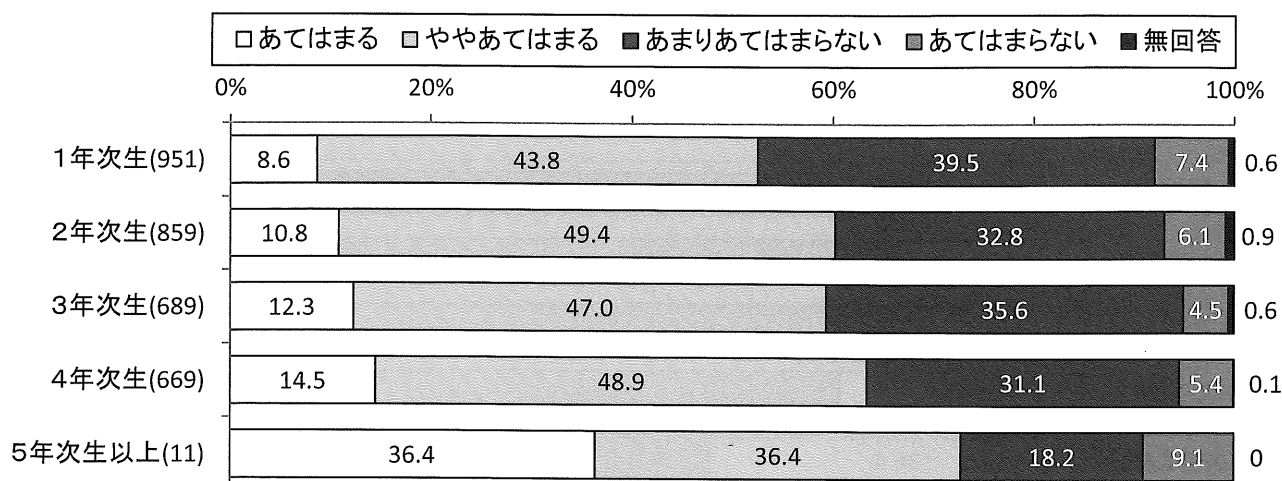
性別で見ると、男女とも「ややあてはまる」者が最も多く、男性48.0%、女性46.3%であった。

学年別に見てみると、1年次生から4年次生までは「ややあてはまる」者が最も多く、1年次生43.8%、2年次生49.4%、3年次生47.0%、4年次生48.9%であった。5年次生以上では「あてはまる」と「ややあてはまる」者が同数で36.4%であった。(図Ⅱ-5-2-8)

図Ⅱ-5-2-7 自分の考えをまとめてわかりやすく表現する力がついた



図Ⅱ-5-2-8 自分の考えをまとめてわかりやすく表現する力がついた(学年別)



6) 相手の状況や考え方を考慮して話をしたり、対応する力

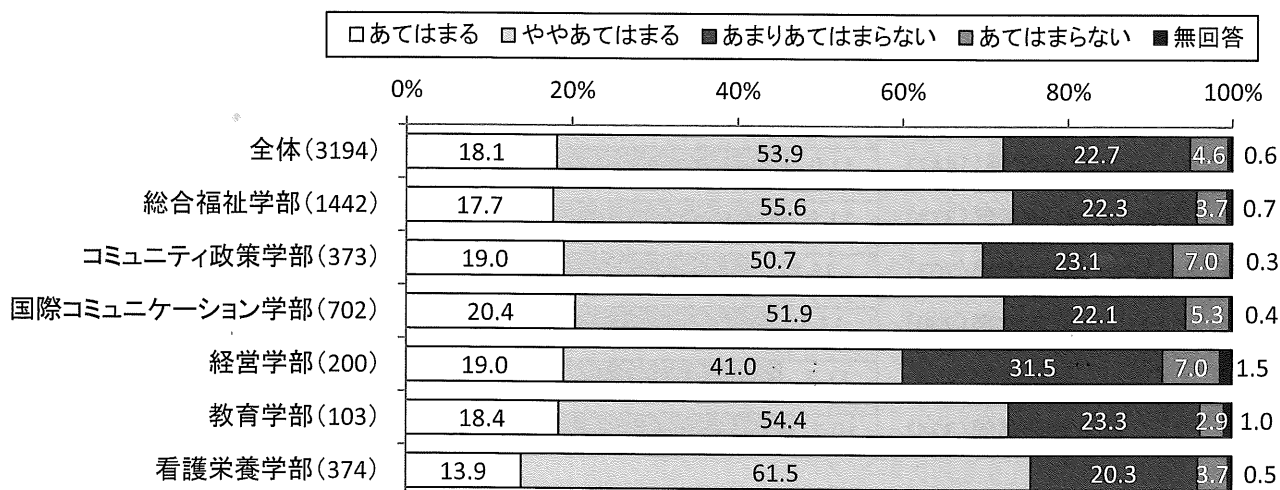
全体では「ややあてはまる」者が53.9%で最も多く、次いで「あまりあてはまらない」者22.7%が多い。「あてはまる」者は18.1%、「あてはまらない」者は4.6%の順であった。(このほかに、無回答が20ケース、0.6%あった)。「あてはまる」「ややあてはまる」を肯定的評価として捉えると、全体では72.0%が肯定的評価をしている。

学部別に見てみると、全ての学部で「ややあてはまる」者が最も多く、その割合が多いのは最も多い学部は看護栄養学部61.5%、次いで総合福祉学部55.6%、教育学部54.4%、国際コミュニケーション学部51.9%コミュニティ政策学部50.7%、経営学部41.0%の順であった。(図Ⅱ-5-2-9)

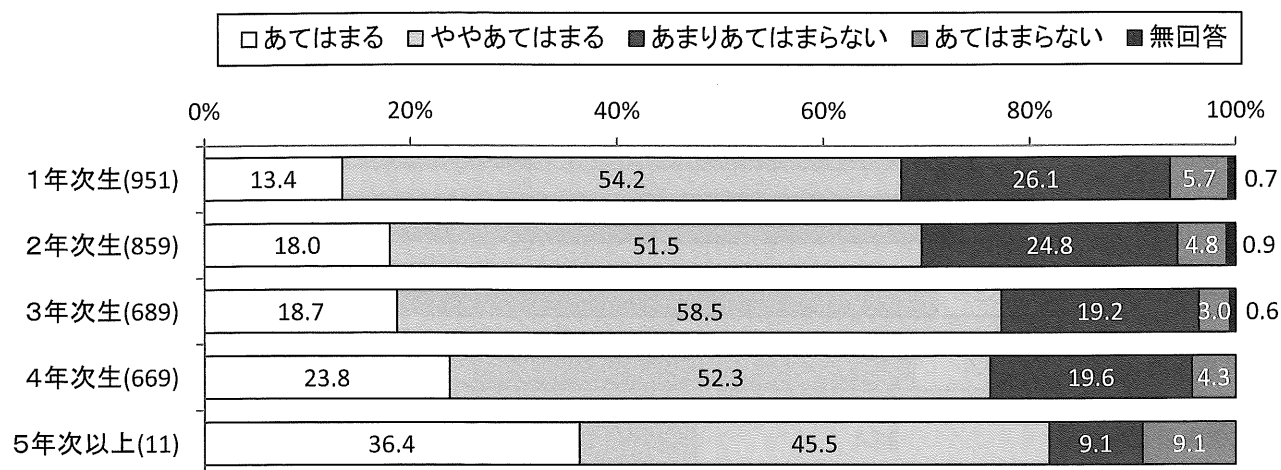
性別で見えてみると、男女とも「ややあてはまる」者が最も多く、男性50.6%、女性56.5%であった。

学年別に見てみると、学年共に「ややあてはまる」者が最も多く、1年次生54.2%、2年次生51.5%、3年次生58.5%、4年次生52.3%、5年次生以上45.5%であった。5年次生以上では「あてはまる」者と「ややあてはまる」者が同数で36.4%であった。「あてはまる」及び「ややあてはまる」を肯定的評価としてみると、1年次生は67.6%であるが、2年次生69.5%、3年次生77.2%、4年次生76.1%、そして5年次生以上は81.9%と学年が上がるごとに肯定的評価の割合が多くなっている。(図Ⅱ-5-2-10)

図Ⅱ-5-2-9 相手の状況や考え方を考慮して話をしたり、対応する力がついた



図Ⅱ-5-2-10 相手の状況や考え方を考慮して話をしたり、対応する力がついた
(学年別)



7) 現状を分析し、問題点や課題を発見する力

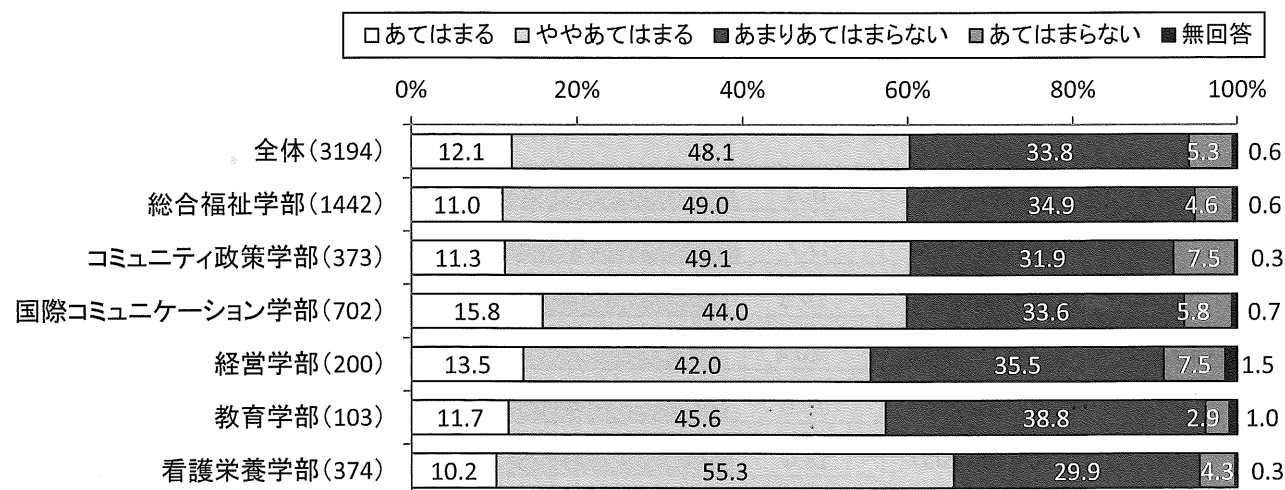
全体では「ややあてはまる」者が48.1%で最も多く、次いで「あまりあてはまらない」者33.8%が多い。「あてはまる」者は12.1%、「あてはまらない」者は5.3%の順であった。この他に、無回答が19人(0.6%)あった。

学部別に見てみると、全ての学部で「ややあてはまる」者が最も多く、その割合が多いのは最も多い学部は看護栄養学部55.3%、次いでコミュニティ政策学部49.1%、総合福祉学部49.0%、教育学部45.6%、国際コミュニケーション学部44.0%、経営学部42.0%の順であった。(図Ⅱ-5-2-11)

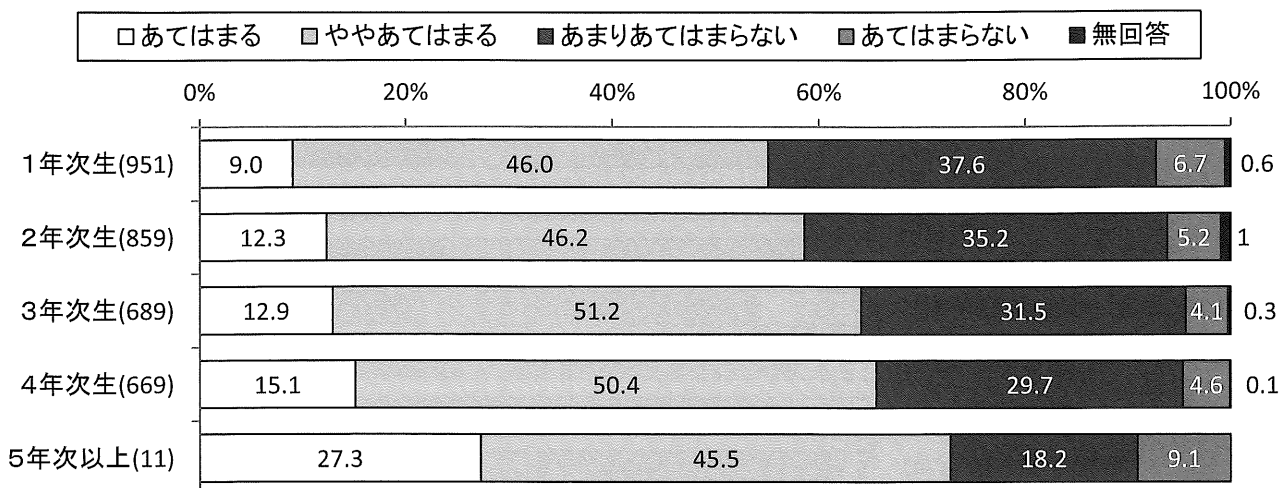
性別で見ると、男女とも「ややあてはまる」者が最も多く、男性48.8%、女性47.7%であり、「あてはまる」者の割合も男性15.1%、女性9.9%で、男性の方がやや肯定的な回答が多かった。

学年別に見てみると、学年共に「ややあてはまる」者が最も多く、1年次生46.0%、2年次生46.2%、3年次生51.2%、4年次生50.4%、5年次生以上45.5%であった。「あてはまる」及び「ややあてはまる」を肯定的評価としてみると、1年次生は55.0%、2年次生58.5%、3年次生64.1%、4年次生65.5%、そして5年次生以上は72.8%と学年が上がるごとに肯定的評価の割合が多くなった。(図Ⅱ-5-2-12)

図Ⅱ-5-2-11 現状を分析し、問題点や課題を発見する力がついた



図Ⅱ-5-2-12 現状を分析し、問題点や課題を発見する力がついた(学年別)



8) 筋道をたてて論理的に問題を解決する力

全体では「ややあてはまる」者が43.8%で最も多く、次いで「あまりあてはまらない」者39.2%が多い。「あてはまる」者は9.3%、「あてはまらない」者は7.0%の順であった。この他に、無回答が20(0.6%)あった。

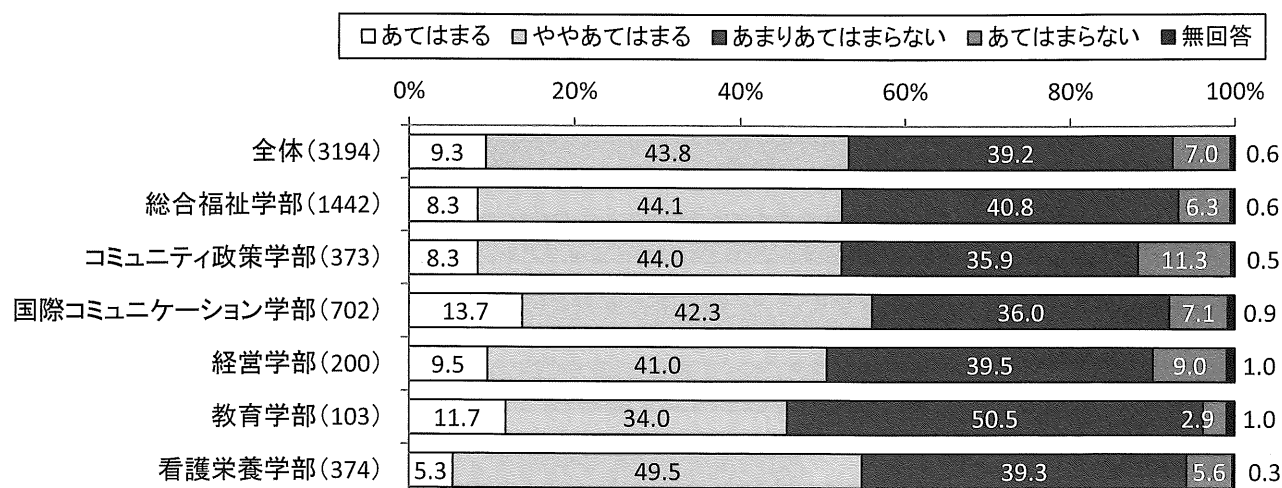
学部別に見てみると、教育学部は「あまりあてはまらない」者50.5%が最も多かったが、その他の学部では「ややあてはまる」者が最も多く、総合福祉学部44.1%、コミュニティ政策学部44.0%、国際コミュニケーション学部42.3%、経営学部41.0%、看護栄養学部49.5%であった。(図Ⅱ-5-2-13)

なお、看護栄養学部は「ややあてはまる」者が49.5%で全学部の中では一番割合が高いが、学科別に見てみると、栄養学科では「あまりあてはまらない」者が55.7%と最も多くなっている。

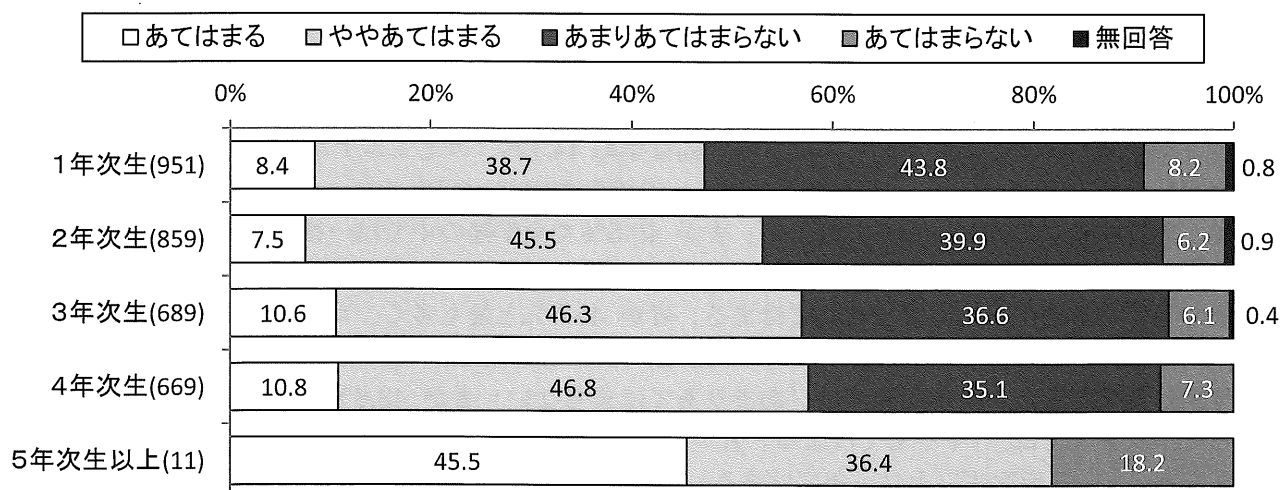
性別で見えてみると、男性は「ややあてはまる」者が45.5%と最も多く、女性は「あまりあてはまらない」者が最も多く44.1%であった。「あてはまる」者の割合も男性12.9%に対し、女性は6.5%であった。

学年別に見てみると、1年次生では「あまりあてはまらない」者が43.8%で最も多かったが、2年次生から4年次生までは、「ややあてはまる」者が最も多く、2年次生45.5%、3年次生46.3%、4年次生46.8%であった。5年次生以上は「あてはまる」者が45.5%であり、「あてはまる」及び「ややあてはまる」を肯定的評価とすると、81.9%が肯定的に評価している。(図Ⅱ-5-2-14)

図Ⅱ-5-2-13 筋道を立てて論理的に問題を解決する力がついた



図Ⅱ-5-2-14 筋道を立てて論理的に問題を解決する力がついた(学年別)



9) 計画を立て、目標に向かってリーダーシップをとる力

全体では「あまりあてはまらない」者が43.5%で最も多かった。次いで「ややあてはまる」者32.9%、「あてはまらない」者は13.2%、「あてはまる」者は9.8%の順であった。この他に、無回答が17人(0.5%)あった。

学部別に見てみると、すべての学部において「あまりあてはまらない」者が最も多く、総合福祉学部45.6%、コミュニティ政策学部37.8%、国際コミュニケーション学部40.5%、経営学部40.5%、教育学部49.5%、看護栄養学部47.1%であった。(図Ⅱ-5-2-15)

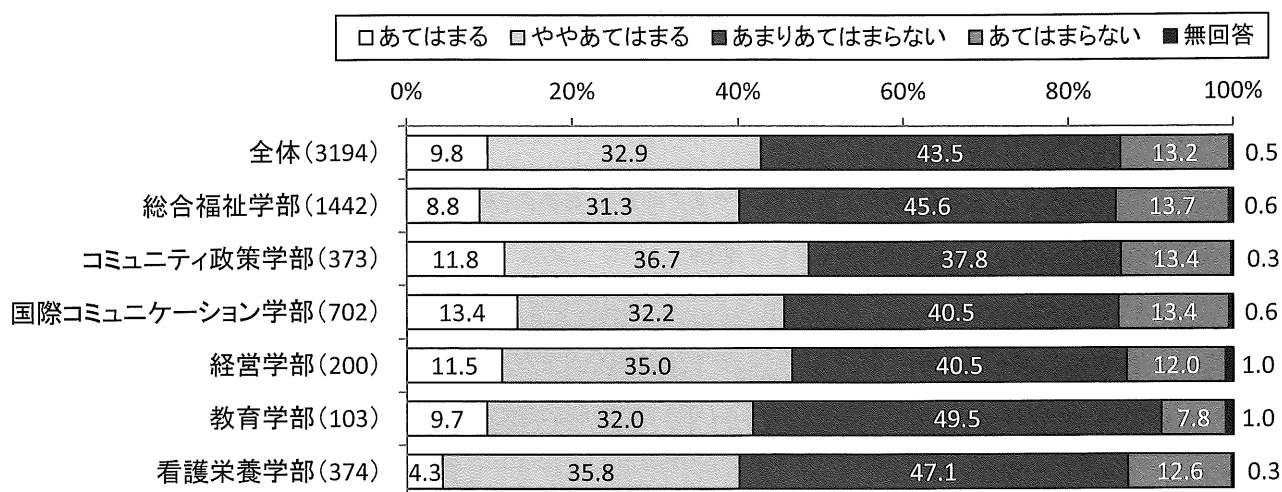
なお、学科別に見てみると、ほとんどの学科が「あまりあてはまらない」者が多い中、経営学科では「ややあてはまる」者39.3%が「あまりあてはまらない」者37.4%をわずかながら上回っている。

性別で見ると、男女とも「あまりあてはまらない」者が最も多く、男性37.2%、女性48.3%であった。

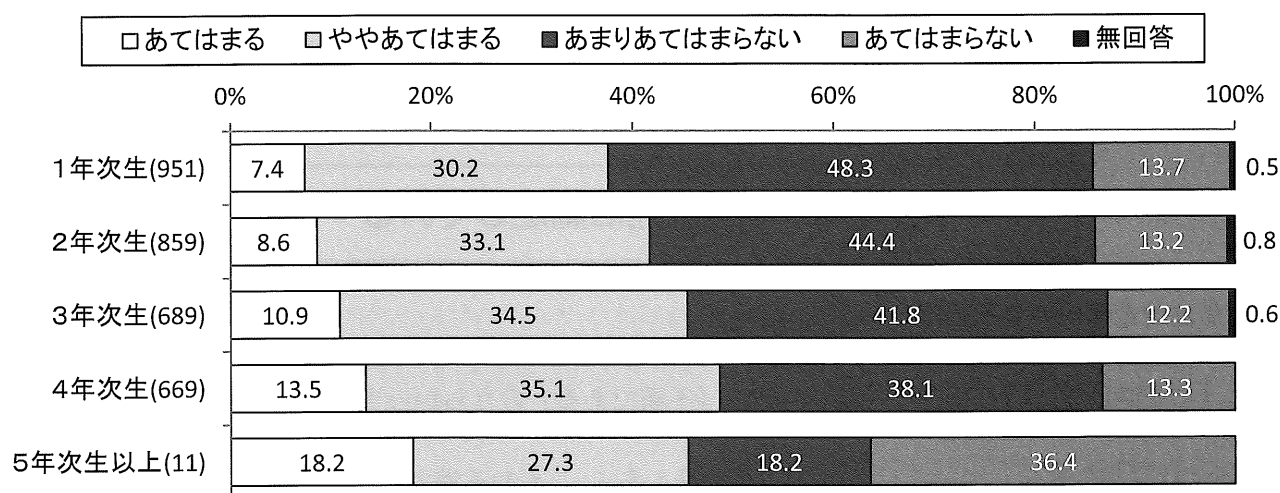
学年別に見てみると、5年次生以上では、「あてはまる」者18.2%、「ややあてはまる」者27.3%で背

定的な評価が高いが、1年次生から4年次生までは「あまりあてはまらない」者が最も多く、1年次生48.3%、2年次生44.4%、3年次生41.8%、4年次生38.1%となった。(図Ⅱ-5-2-16)

図Ⅱ-5-2-15 計画を立て、目標に向かってリーダーシップをとる力がついた



図Ⅱ-5-2-16 計画を立て、目標に向かってリーダーシップをとる力がついた(学年別)



10) 国際的な視野

全体では「あまりあてはまらない」者が39.3%で最も多かった。次いで「あてはまらない」者29.8%、「ややあてはまる」者23.2%、「あてはまる」者7.2%の順であった。この他に、無回答が16(0.5%)あった。

学部別に見てみると、国際コミュニケーション学部では「ややあてはまる」者が最も多く、37.7%であったが、総合福祉学部、コミュニティ政策学部、経営学部、教育学部では「あまりあてはまらない」者が最も多く、39.3%、43.2%、43.5%、51.5%であった。看護栄養学部では「あてはまらない」者が最も多く、46.5%であった。(図Ⅱ-5-2-17)

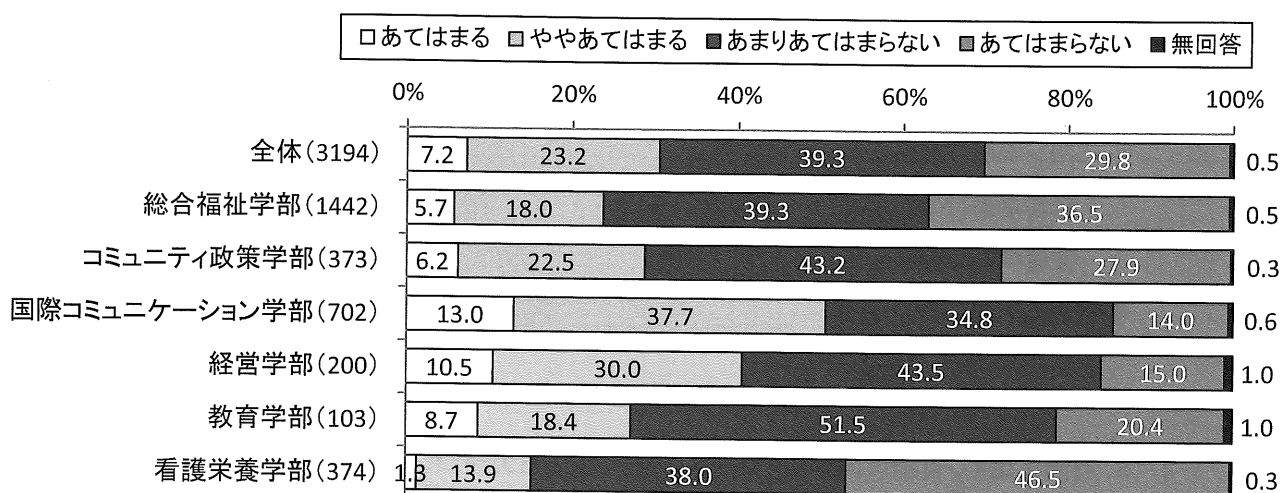
学科別に見てみると、「あまりあてはまらない」または「あてはまらない」者の割合が多い学科がほとんどであるが、経営コミュニケーション学科及び文化コミュニケーション学科では、「ややあてはまる」

者が最も多く、それぞれ 44.5%、39.9%となった。

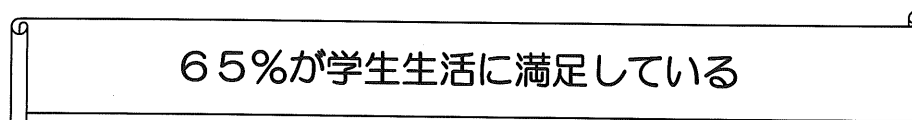
性別で見えてみると、男女とも「あまりあてはまらない」者が最も多く、男性 37.6%、女性 40.6%であった。

学年別に見てみると、5 年次生以上では、「あてはまらない」者 54.5%と最も多いが、1 年次生から 4 年次生までは「あまりあてはまらない」者が最も多く、1 年次生 42.1%、2 年次生 41.1%、3 年次生 36.3%、4 年次生 36.6%となった。

図Ⅱ-5-2-17 国際的な視野が身についた



(3) 学生生活全体への自己評価



1) 学生生活全体への自己評価

「あなたは、全体的に自分の学校生活をどう評価していますか」という質問項目について、「満足している」「やや満足している」「やや不満である」「不満である」のうちから当てはまるものを選んで回答させた。

全体では「やや満足している」者が 47.7%で最も多く、「やや不満である」者は 25.9%、「満足している」者は 17.1%、「不満である」者は 6.9%であった。この他に、無回答が 77 人 (2.4%) あった。

学部別に見てみると、各学部とも「やや満足している」者が最も多く、総合福祉学部 50.1%、コミュニティ政策学部 43.2%、国際コミュニケーション学部 45.0%、経営学部 44.0%、教育学部 47.6%、看護栄養学部 49.7%である。(図Ⅱ-5-3-1)

また、学科別で見えてみると、ほとんどの学科が「やや満足している」者が最も多かったが、栄養学科では、「やや不満である」者 47.4%が最も多かった。(図Ⅱ-5-3-2)

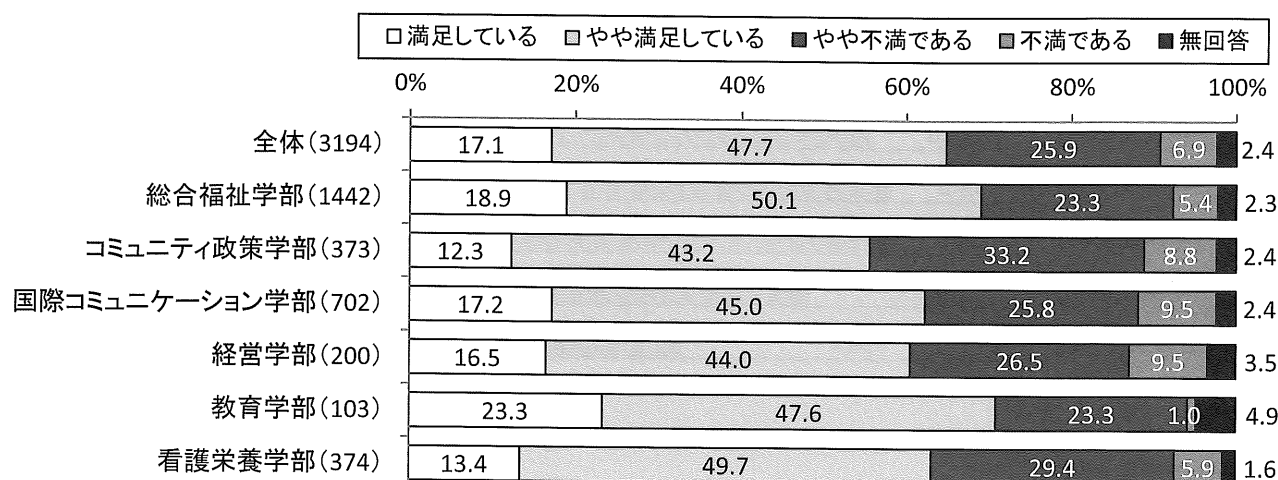
性別で見えてみると、男女共に「やや満足している」者が最も多く、男性 42.3%、女性 51.7%であった。

学年別に見てみると、5 年次生以上は「満足している」者が最も多く 36.4%であったが、1 年次生から 4 年次生までは「やや満足している」者が最も多く、1 年次生 48.3%、2 年次生は 46.7%、3 年次生 48.8%、4 年次生 47.5%であった。(図Ⅱ-5-3-3)

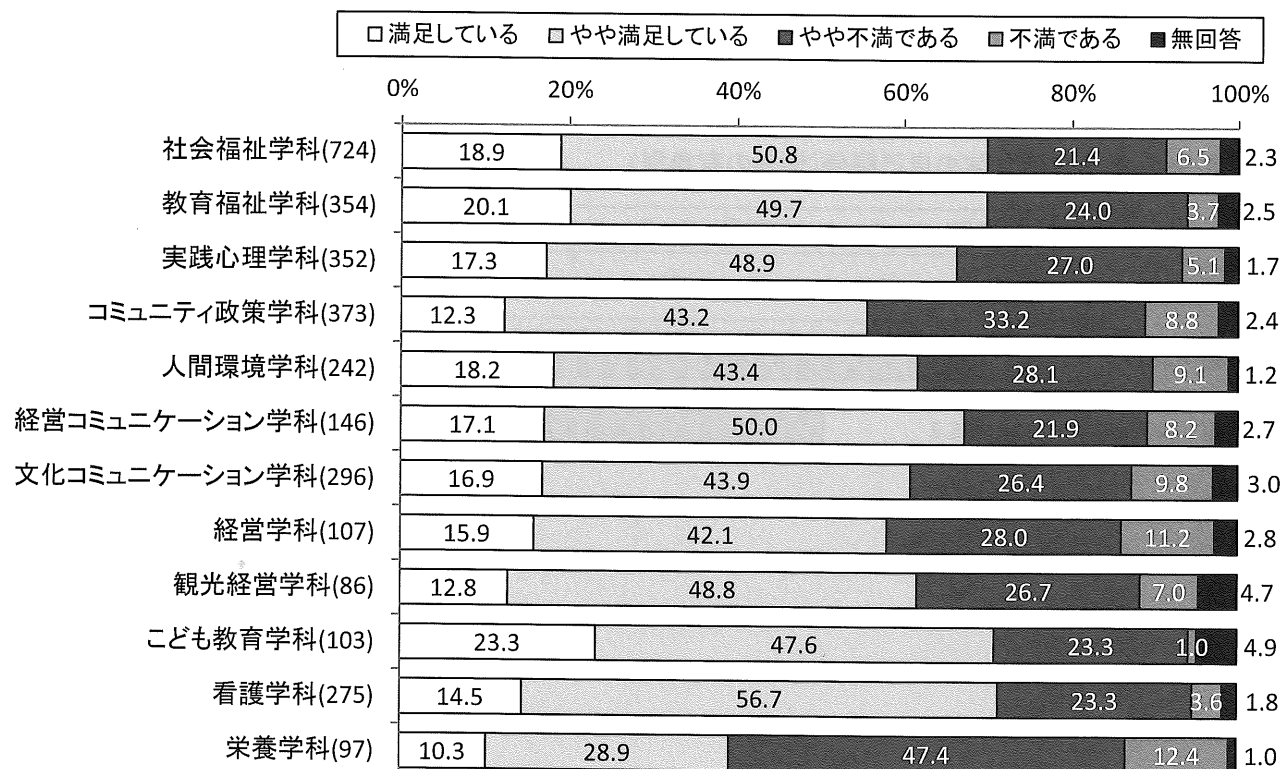
前回の調査結果では、選択肢が「とても満足している」「どちらかという満足」「どちらかという不満」「とても不満である」で今回と少し異なるが、全体では、「どちらかという満足」している者が

最も多く 60.0%であった。「とても満足している」「どちらかという満足」を肯定的評価（71.3%）として捉えると、今回の調査の「満足している」「やや満足している」の肯定的評価（64.8%）は、前回に比較してやや低くなった。

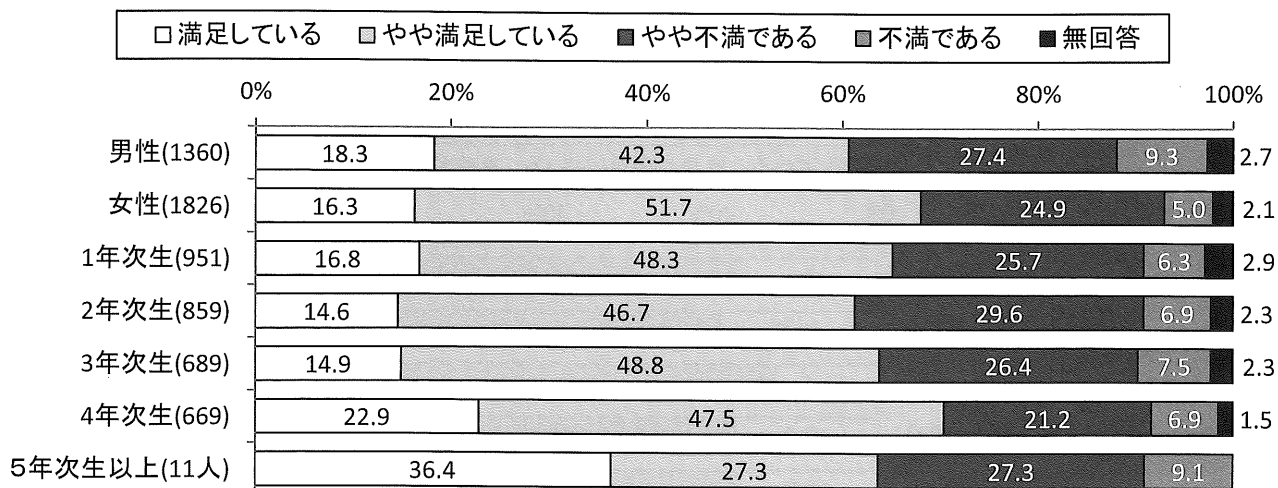
図Ⅱ-5-3-1 あなたは、全体的に自分の学生生活をどう評価していますか



図Ⅱ-5-3-2 学生生活全体の自己評価(学科別)



図Ⅱ-5-3-3 学生生活全体の自己評価(性別と学年別)



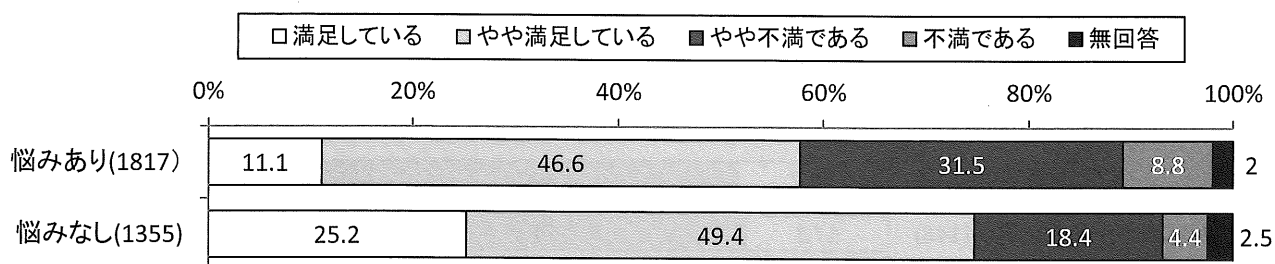
2) 他の項目との関連

次に、学生生活全体への自己評価と他の項目との関連について見てみたい。

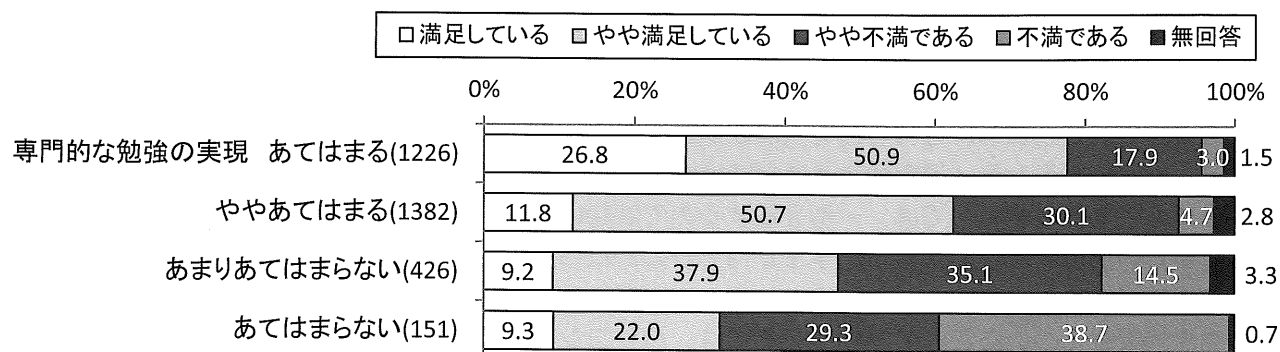
まず、悩みの有無別に学生生活全体への自己評価を見てみると、悩みをもっている学生の自己評価は悩みの無い学生よりも満足度が低い傾向がみられた。(図Ⅱ-5-3-4)

また、専門的な勉強の実現度、趣味やサークル活動等の実現度および友人との楽しい交流の実現度の回答別に学生生活全体への自己評価を見たところ、いずれも実現度の高い学生ほど自己評価の満足度が高い傾向がみとめられた。(図Ⅱ-5-3-5) (図Ⅱ-5-3-6) (図Ⅱ-5-3-7)

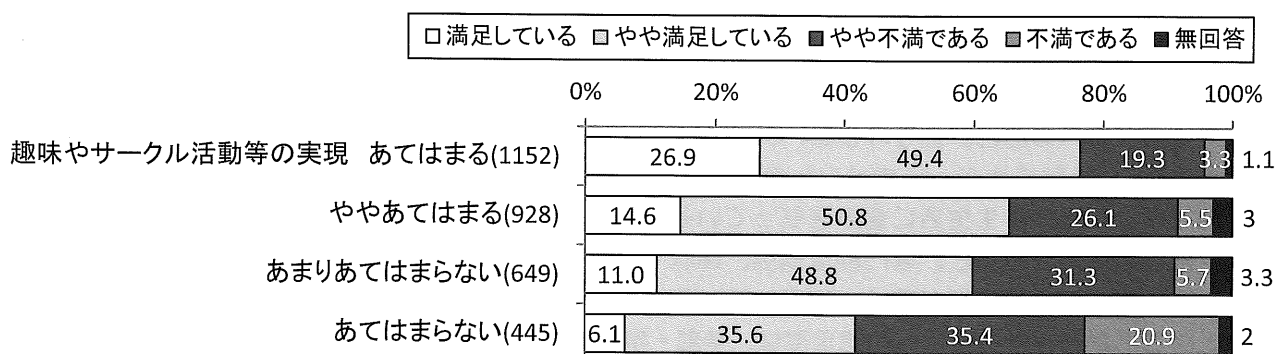
図Ⅱ-5-3-4 学生生活全体の自己評価(悩みの有無別)



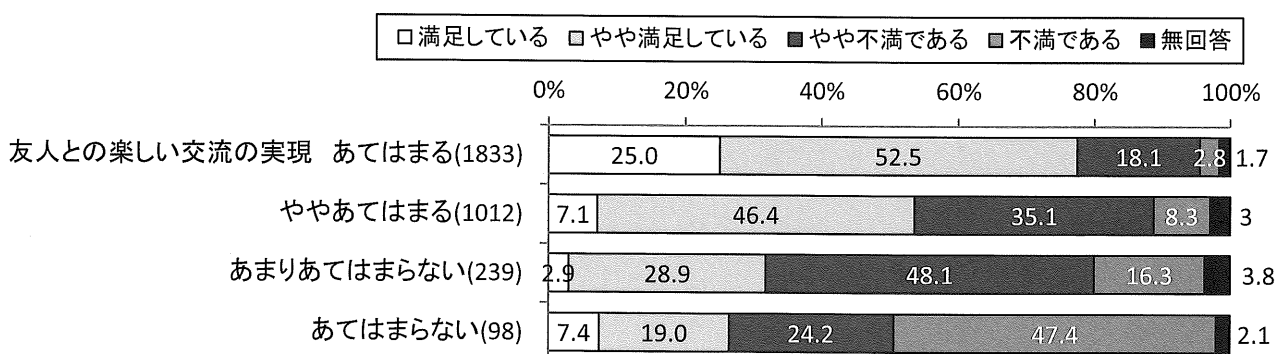
図Ⅱ-5-3-5 学生生活全体の自己評価(専門的な勉強の実現度別)



図Ⅱ-5-3-6 学生生活全体の自己評価(趣味やサークル活動等の実現度別)



図Ⅱ-5-3-7 学生生活全体の自己評価(友人との楽しい交流の実現度別)



第5章 学生生活への満足度のまとめ

大学生活での実現状況をみると、仕事や資格に結びつく専門的な勉強は全体で6割を超える学生が実現できていると回答しているが、学部の性格の相違により、看護栄養学部では95%から99%と多く、コミュニティ政策学部では23%から47%と少ない傾向がみられた。淑徳大学を志望した理由と実現状況との関連をみたところ、これらの専門的な勉強を志望理由としていた学生は概ね実現できている傾向にある。一方、ボランティア活動など社会に役立つことの実現状況は、全体で4割にとどまっており、共生を理念とする本学としては、一考を要するのではないだろうか。最も実現率の高かったものは、友人との楽しい交流であり、9割近い学生が何らかのかたちで学生同士の繋がりを実感できている様子が確認できた。

大学生活で身についたことで多かったものは、パソコンやインターネットを使いこなす力と相手の状況や考え方を考慮して対応する力がついたとする学生がそれぞれ7割を超えていた。一方、少なかったものとしては、国際的な視野が30%、リーダーシップをとる力が43%であった。建学の精神は48%で、学年による相違はとくに見られなかったが、その他は学年が上がるほど身についたとする学生が多い傾向がみられ、4年間の学生生活を通して徐々に成長していく様子を読み取れる。この調査は、今回初めて行ったため、これまでの動向はつかめないが、次回の調査時にはより向上するよう教育方法の検討につなげていきたいと考える。

学生生活全体への自己評価をみると、65%の学生が学生生活に満足していることがわかった。これは前回調査での71%に比べ、6ポイントの減少である。特に、新設学科である栄養学科の自己評価が低いのが目立つ。また、学生生活に悩みをもっている学生も満足していない傾向がみられた。大学生活での実現状況との関連をみると、専門的な勉強、趣味やサークル活動、友人との楽しい交流ができている学生ほど学生生活の自己評価が高く、満足している学生が多い傾向が確認できた。

以上のことから、学生生活への満足度は、学部・学科による違いや、学生の勉学に対する意識や行動、サークル活動、友人関係等、多くの要因から影響を受けるものであり、大学生活が充実しているほど満足度も上がることが見えてくる。学生の満足度を高めるためには学生自身の意識の向上と個々の学生に合わせた教育支援体制の充実が不可欠であろうと思われる。

第6章 大学の教育環境

(1) 授業・教員に関する満足度

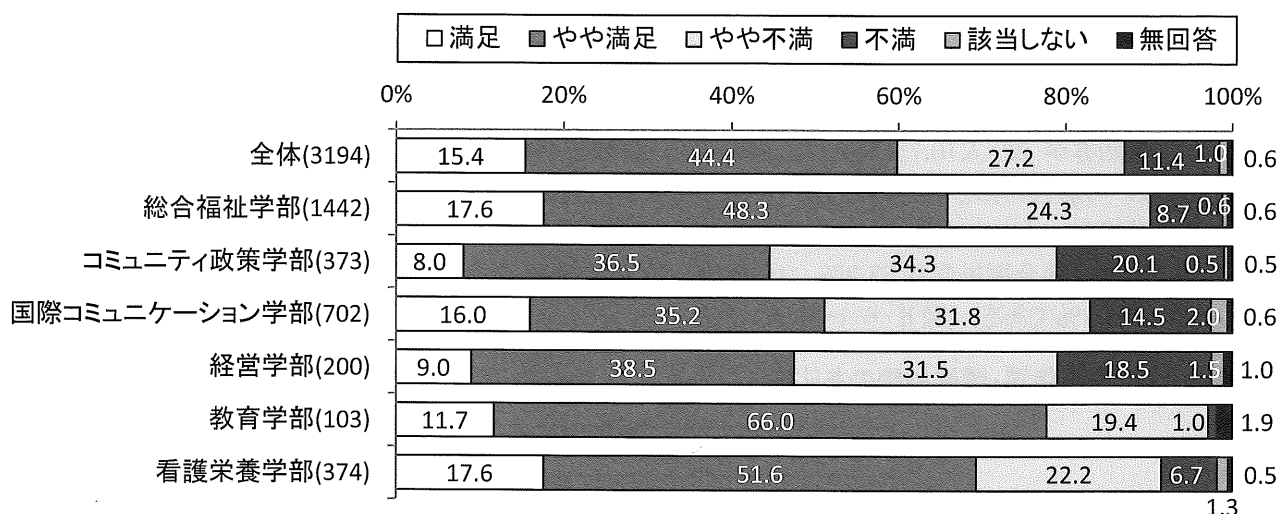
授業内容・教員の態度 およそ3分の2が満足傾向

1) 授業科目の種類

大学全体では、「授業科目の種類」に「満足」が 15.4%であった。「やや満足」がもっとも多く 44.4%、「やや不満」が 27.2%、「不満」は 11.4%で、大学全体ではカリキュラムの充実度については満足(「満足」と「やや満足」)している割合の方が高かった。このほかに「該当しない」が 32 人(1.0%)、無回答が 20 人(0.6%)あった。

学部別では、満足傾向(「満足」と「やや満足」)が最も高かったのが教育学部 77.7%で、看護栄養学部 69.2%、総合福祉学部 65.9%、国際コミュニケーション学部 51.2%と続く。経営学部 47.5%とコミュニティ政策学部 44.5%は満足の割合の方が低い。(図Ⅱ-6-1-1)

図Ⅱ-6-1-1 授業科目の種類

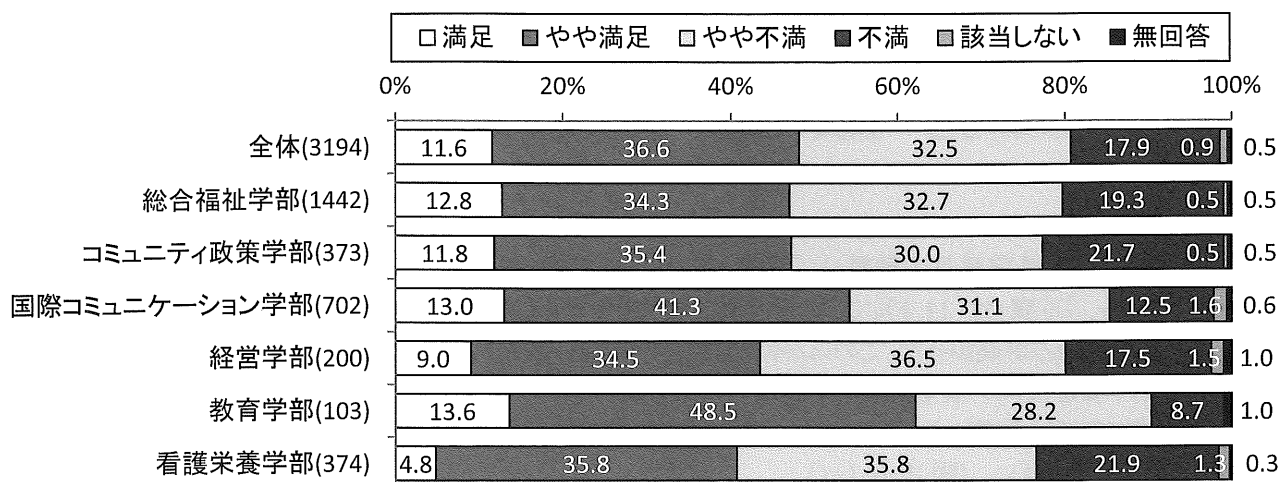


2) 授業の時間割

大学全体では、「授業科目の時間割」に「満足」している学生が 11.6%あった。「やや満足」が 36.6%、「やや不満」が 32.5%、「不満」は 17.9%で、時間割については、「やや満足」と「やや不満」が拮抗している。このほかに「該当しない」が 28 人(0.9%)、無回答が 17 人(0.5%)あった。

学部間で極端に大きな差はないが、満足傾向(「満足」と「やや満足」)を示すのは教育学部 62.1%と国際コミュニケーション学部 54.3%であった。コミュニティ政策学部 47.2%、総合福祉学部 47.1%、経営学部 43.5%、看護栄養学部 40.6%は満足の割合の方が低い。(図Ⅱ-6-1-2)

図Ⅱ-6-1-2 授業の時間割

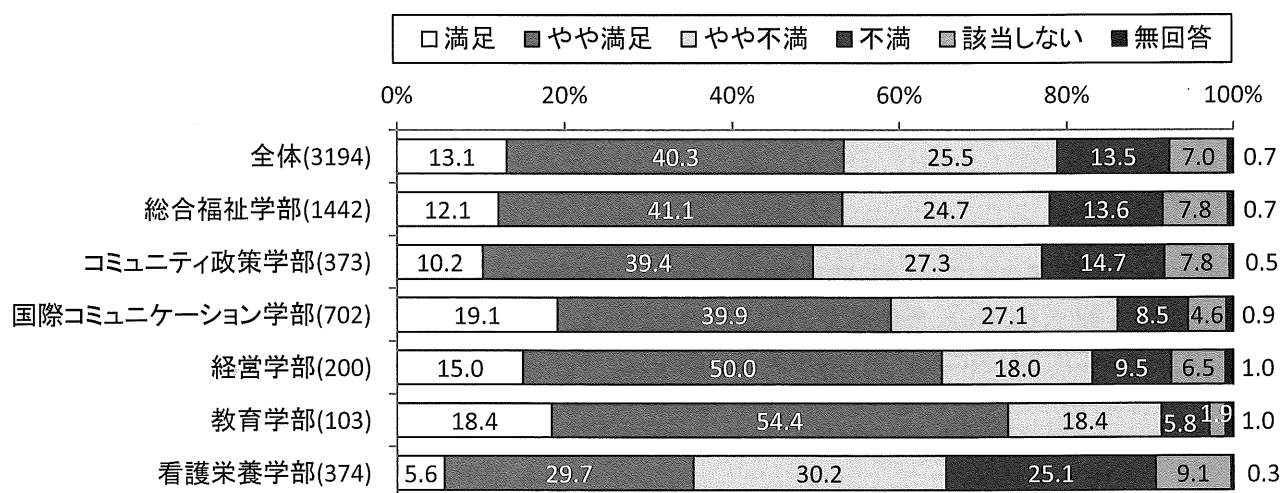


3) 履修指導・履修相談のあり方

大学全体では、「満足」が13.1%であった。「やや満足」が40.3%、「やや不満」が25.5%、「不満」は13.5%で、履修指導・履修相談については満足傾向(「満足」と「やや満足」)の割合が高い。このほかに「該当しない」が223人(7.0%)、無回答が22人(0.7%)あった。履修指導・履修相談が「該当しない」、つまり必要としない、あるいは利用していない可能性のある学生が223名(7%)いる点が1)「授業科目の種類」や2)「授業の時間割」と異なる。

満足傾向(「満足」と「やや満足」)は、教育学部では72.8%を示し、以降、経営学部65.0%、国際コミュニケーション学部59.0%、総合福祉学部53.2%、コミュニティ政策学部49.6%の順であった。看護栄養学部で満足傾向を示したのは35.3%である。(図Ⅱ-6-1-3)

図Ⅱ-6-1-3 履修指導・履修相談のあり方

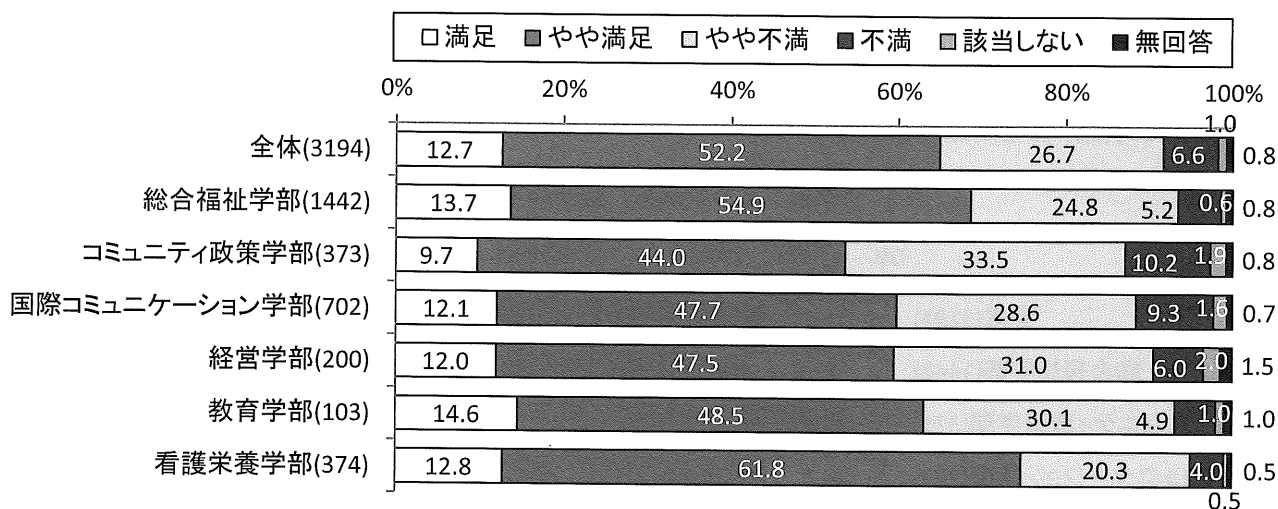


4) 講義科目の授業内容

大学全体では、「満足」が12.7%であった。「やや満足」が52.2%、「やや不満」が26.7%、「不満」は6.6%で、満足(「満足」と「やや満足」)を感じている割合が高い。このほかに「該当しない」が33人(1.0%)、無回答が26人(0.8%)あった。

看護栄養学部では74.6%が満足傾向(「満足」と「やや満足」)を示し、総合福祉学部68.6%、教育学部63.1%、国際コミュニケーション学部59.8%、経営学部59.5%、コミュニティ政策学部53.7%と続き、いずれの学部でも満足傾向を示している。学部間で極端な差はないが、専門職養成系の学部の満足の割合が他の学部より若干高い。(図Ⅱ-6-1-4)

図Ⅱ-6-1-4 講義科目の授業内容

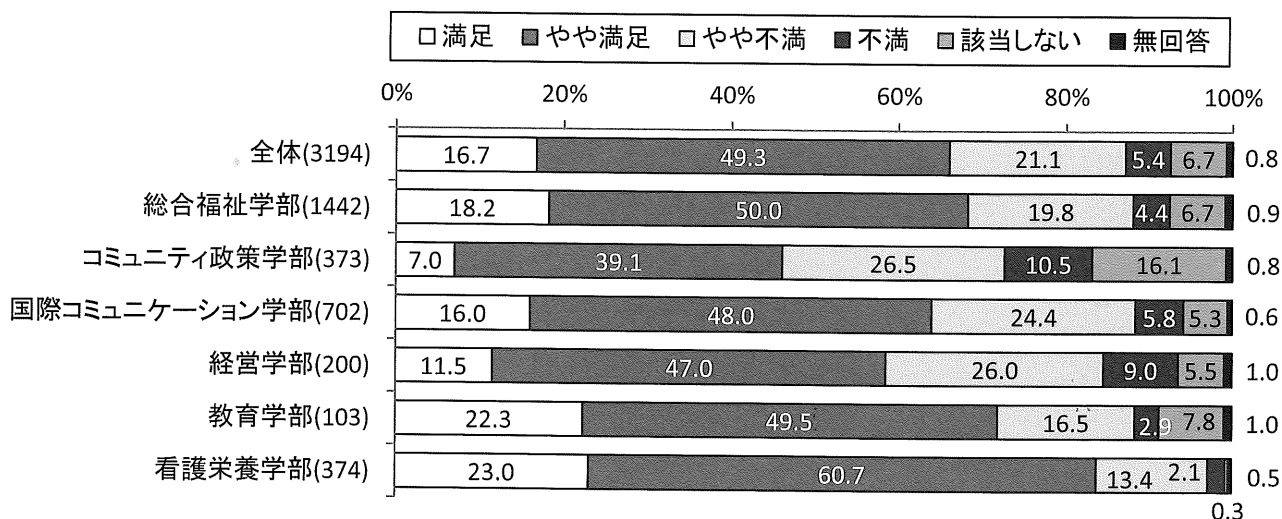


5) 実技・実験・実習・演習科目の授業内容

大学全体では、「満足」が16.7%、「やや満足」が49.3%、「やや不満」が21.1%、「不満」は5.4%で、満足(「満足」と「やや満足」)の割合が高かった。このほかに「該当しない」が213人(6.7%)、無回答が25人(0.8%)あった。

学部別で最も評価が高かったのは看護栄養学部で、満足傾向(「満足」と「やや満足」)は83.7%、教育学部71.8%、総合福祉学部68.2%と続き、専門職養成系の学部で「実技・実験・実習・演習系科目の授業内容」の満足度が高いことがわかる。それ以外の学部でも、国際コミュニケーション学部64.0%、経営学部58.5%では満足の方が不満より高い。コミュニティ政策学部では「該当しない」が16.1%あり、満足傾向を示しているのは46.1%であった。(図Ⅱ-6-1-5)

図Ⅱ-6-1-5 演習・実験・実習・演習科目の授業内容

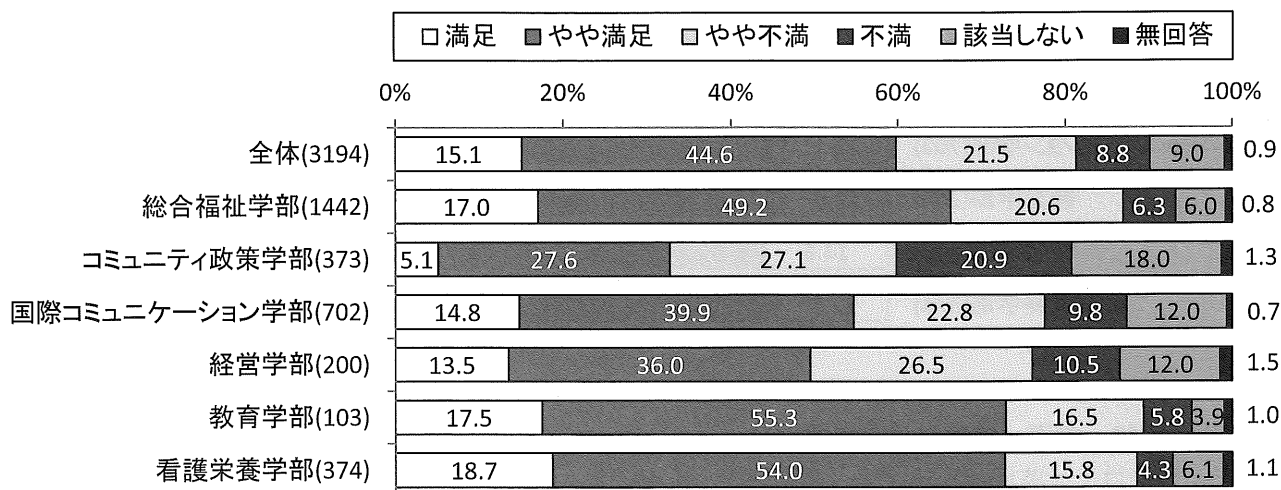


6) 免許・資格関連科目の授業内容

大学全体では、「満足」が 15.1%、「やや満足」が 44.6%、「やや不満」が 21.5%、「不満」は 8.8%で、満足傾向（「満足」と「やや満足」）を示す割合が高い。このほかに「該当しない」が 289 人（9.0%）、無回答が 30 人（0.9%）あった。

学部別に満足傾向（「満足」と「やや満足」）をみると、教育実践にかかわる設問 Q12 の 4)–8)の中では最も学部間の差がもっとも大きい。教育学部 72.8%、看護栄養学部 72.7%がほぼ同じ数値で、総合福祉学部 66.2%、国際コミュニケーション学部 54.7%、経営学部 49.5%と続く。コミュニティ政策学部は「該当しない」が 18.0%あり、満足傾向は 32.7%である。（図Ⅱ-6-1-6）

図Ⅱ-6-1-6 免許・資格関連科目の授業内容

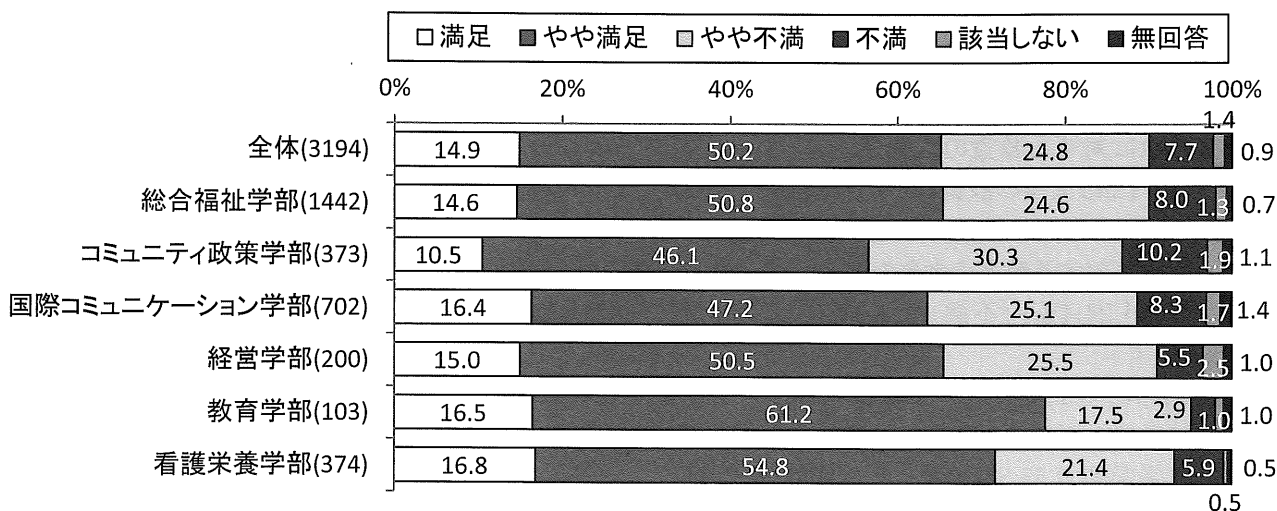


7) 教員の学生に対する態度

大学全体では、「満足」が 14.9%、「やや満足」が 50.2%、「やや不満」が 24.8%、「不満」は 7.7%で、満足（「満足」と「やや満足」）の割合の方が高い。このほかに「該当しない」が 46 人（1.4%）、無回答が 29 人（0.9%）あった。

学部間の満足傾向（「満足」と「やや満足」）の差は大きくない。最も多かったのが教育学部 77.7%で、看護栄養学部 71.6%、経営学部 65.5%、総合福祉学部 65.4%、国際コミュニケーション学部 63.6%、コミュニティ政策学部 56.6%と続く。（図Ⅱ-6-1-7）

図Ⅱ-6-1-7 教員の学生に対する態度

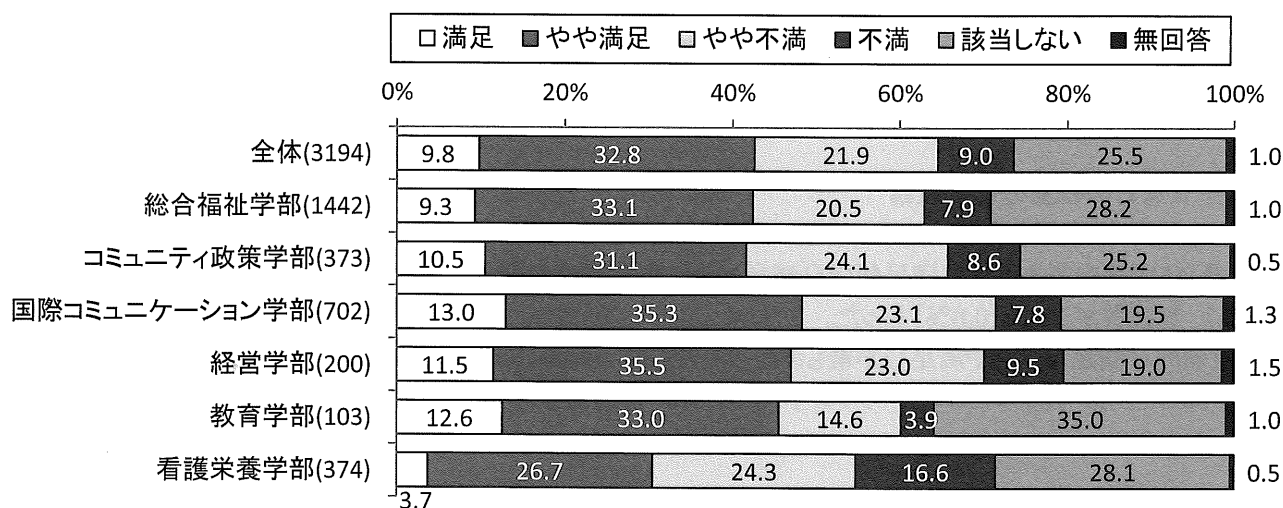


8) オフィス・アワーの利用しやすさ

大学全体では、「満足」している学生が 9.8%あった。「やや満足」が 32.8%、「やや不満」が 21.9%、「不満」は 9.0%である。「該当しない」が 816 人(25.5%)あり、これは教育実践にかかわる設問 Q12 の 4)~8)の中で最も高い数値である。教員と話す機会が他にある、制度を知らない、必要を感じない等、様々な理由が考えられるが、今回の調査の範囲外であるため、理由は確定できない。そのほかに無回答が 31 人(1.0%)あった。

学部間にあまり大きな差がなく、Q12 の中では 2 番目に小さな差異である。満足傾向(「満足」と「やや満足」)が最も高かったのが国際コミュニケーション学部で 48.3%、経営学部 47.0%、教育学部 45.6%、総合福祉学部 42.4%、コミュニティ政策学部 41.6%、看護栄養学部 30.4%と続く。(図Ⅱ-6-1-8)

図Ⅱ-6-1-8 オフィス・アワーの利用しやすさ



(2) 教室の備品・設備に関する満足度

教室の設備への満足度 7割超え改善傾向

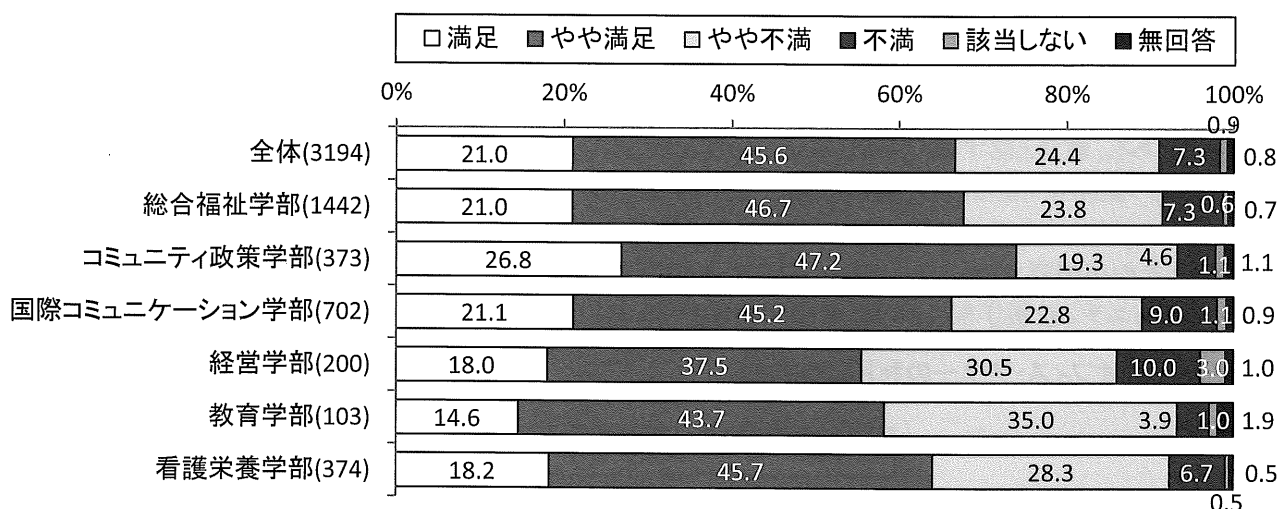
1) 授業者数に対する教室の大きさ

Q12の9)~12)は大学の設備にかかわる問いであるが、このカテゴリーでは全般的に満足(「満足」と「やや満足」)の割合が高く、学部間の数値の差も大きくない傾向があった。

「授業者数に対する教室の大きさ」について、大学全体では、「満足」が21.0%であった。「やや満足」が45.6%、「やや不満」が24.4%、「不満」は7.3%で、このほかに「該当しない」が29人(0.9%)、無回答が26人(0.8%)あった。

上述のように学部間で大きな差は見られず、満足傾向(「満足」と「やや満足」)はコミュニティ政策学部で74.0%、総合福祉学部で67.7%、国際コミュニケーション学部で66.3%、看護栄養学部で63.9%、教育学部で58.3%、経営学部で55.5%であった。(図Ⅱ-6-2-1)

図Ⅱ-6-2-1 授業者数に対する教室の大きさ

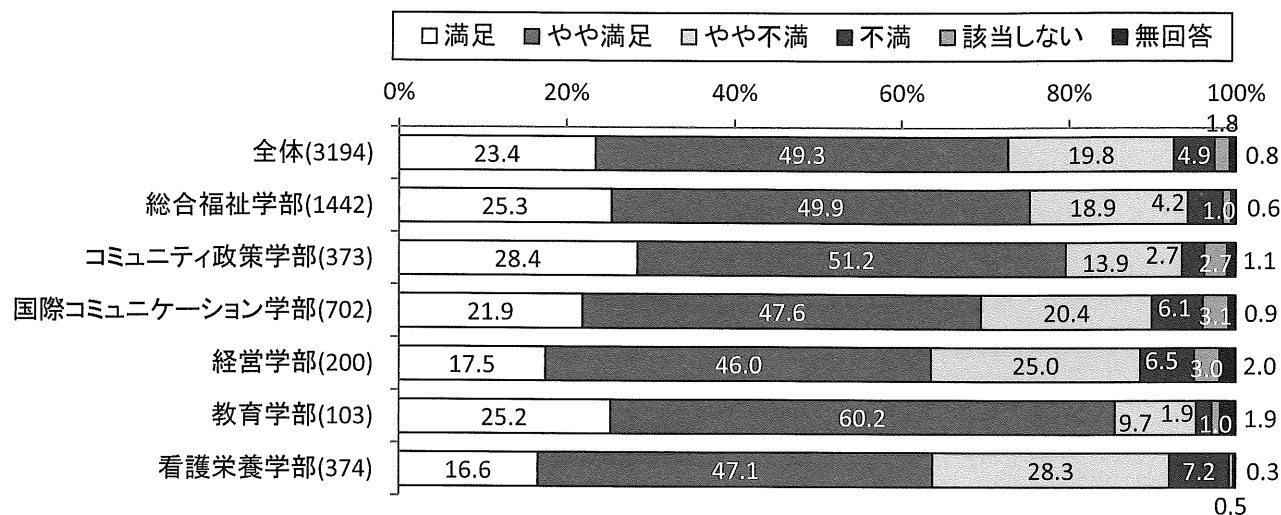


2) マイクなどの教室の音響設備

大学全体では、「満足」している学生が23.4%あった。「やや満足」が49.3%、「やや不満」が19.8%、「不満」は4.9%で、Q12の中で4番目に満足傾向(「満足」と「やや満足」)の割合が高い。このほかに「該当しない」が56人(1.8%)、無回答が26人(0.8%)あった。

満足傾向(「満足」と「やや満足」)が最も多かったのが教育学部85.4%で、コミュニティ政策学部79.6%、総合福祉学部75.2%、国際コミュニケーション学部69.5%、看護栄養学部63.7%、経営学部63.5%の順であった。(図Ⅱ-6-2-2)

図Ⅱ-6-2-2 マイクなどの教室の音響設備

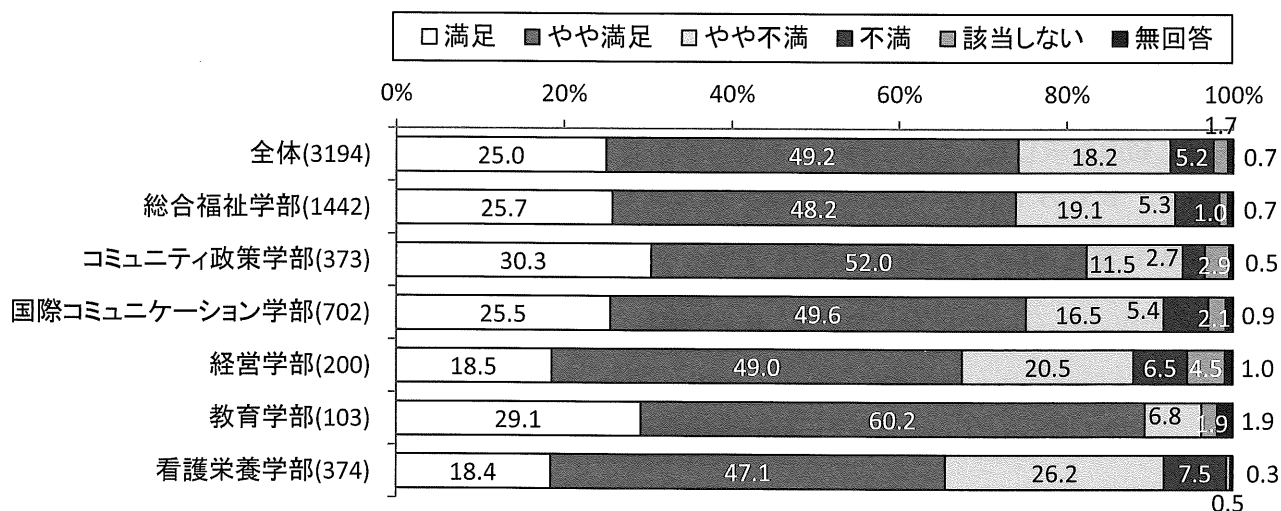


3) プロジェクター・ビデオなどの教室の視聴覚設備

大学全体では、「満足」している学生が 25.0%あった。「やや満足」が 49.2%、「やや不満」が 18.2%、「不満」は 5.2%で、Q12 の中で 3 番目に満足傾向(「満足」と「やや満足」)の割合が高い。このほかに「該当しない」が 54 人(1.7%)、無回答が 23 人(0.7%)あった。

学部別では、満足傾向(「満足」と「やや満足」)が最も多かったのが教育学部 89.3%で、コミュニティ政策学部 82.3%、国際コミュニケーション学部 75.1%、総合福祉学部 73.9%、看護栄養学部 65.5%の順であった。(図Ⅱ-6-2-3)

図Ⅱ-6-2-3 プロジェクター・ビデオなどの教室の視聴覚設備



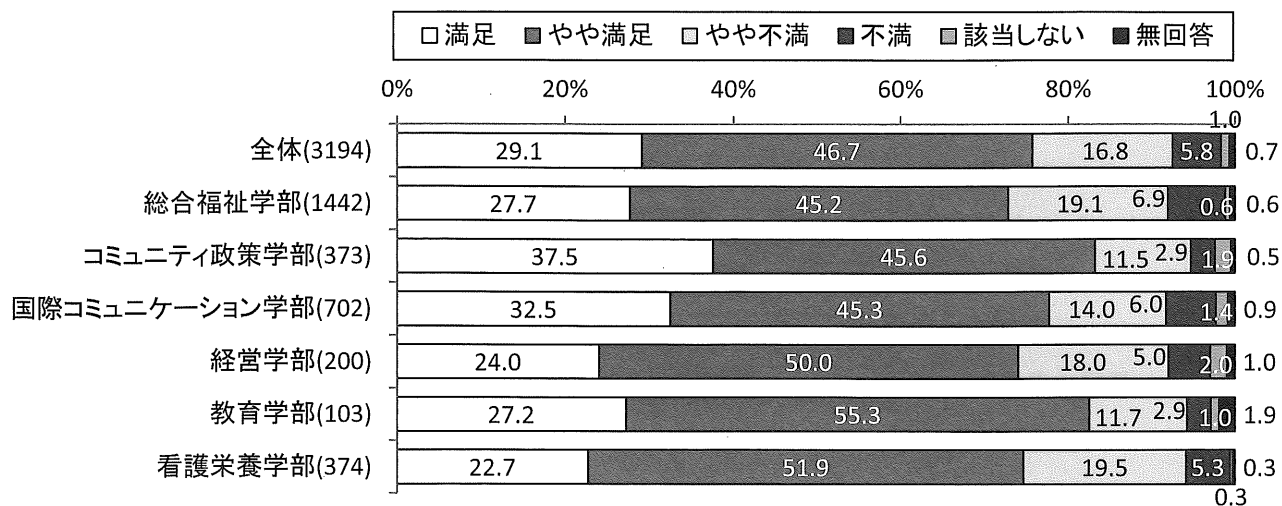
4) エアコンなどの教室の環境設備

大学全体では、「満足」している学生が 29.1%あった。「やや満足」が 46.7%、「やや不満」が 16.8%、「不満」は 5.8%で、Q12 の中で 2 番目に満足傾向(「満足」と「やや満足」)が高い。このほかに「該当しない」が 31 人(1.0%)、無回答が 22 人(0.7%)あった。

この設問は、Q12 全体の中で学部間の差がもっとも小さい。学部別では、満足傾向(「満足」と「やや満足」)が

最も多かったのがコミュニティ政策学部で、83.1%であった。次いで教育学部が 82.5%、国際コミュニケーション学部が 77.8%、看護栄養学部が 74.6%、経営学部が 74.0%、総合福祉学部 72.9%であった。(図Ⅱ-6-2-4)

図Ⅱ-6-2-4 エアコンなどの教室の環境設備



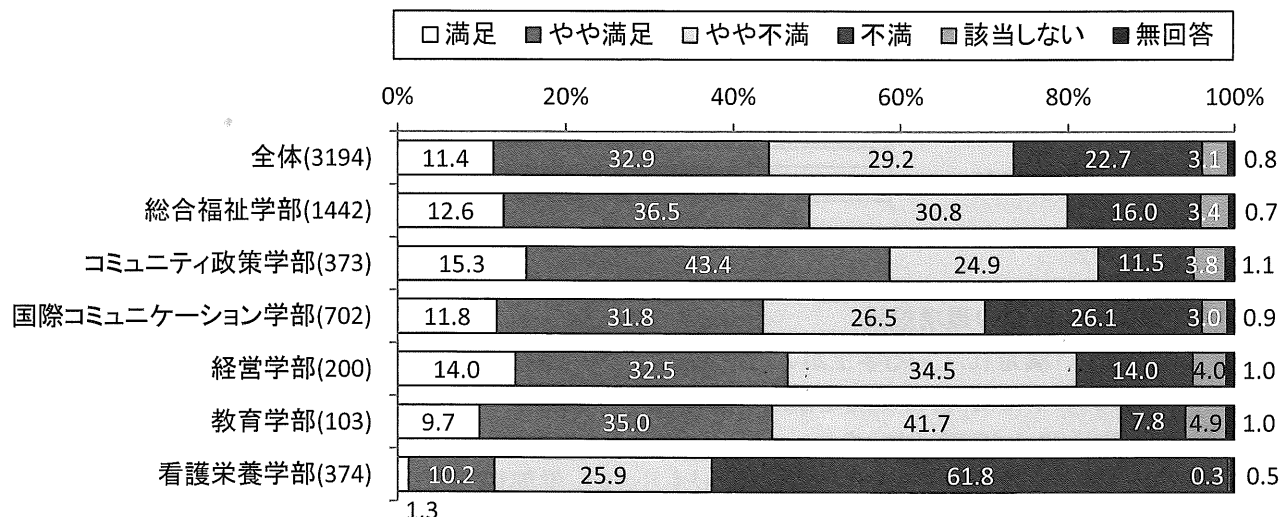
(3) 事務対応に関する満足度

事務局の対応 4～6割が満足傾向

1) 事務局からの連絡のわかりやすさ

全体としては、「満足」11.4%と、「やや満足」32.9%に対して、「やや不満」29.2%と「不満」22.7%となり、「不満」を感じている割合の方が高い。看護栄養学部を除く5つの学部では、「不満」と回答した割合が教育学部の7.8%から国際コミュニケーション学部の26.1%までややばらつくものの、おおむね全体と同じ傾向を示した。これに対して看護栄養学部では、「不満」が61.8%、「やや不満」が25.9%、満足度スコアも1.51と、Q12の質問中最低の満足度を示していた。(図Ⅱ-6-3-1)

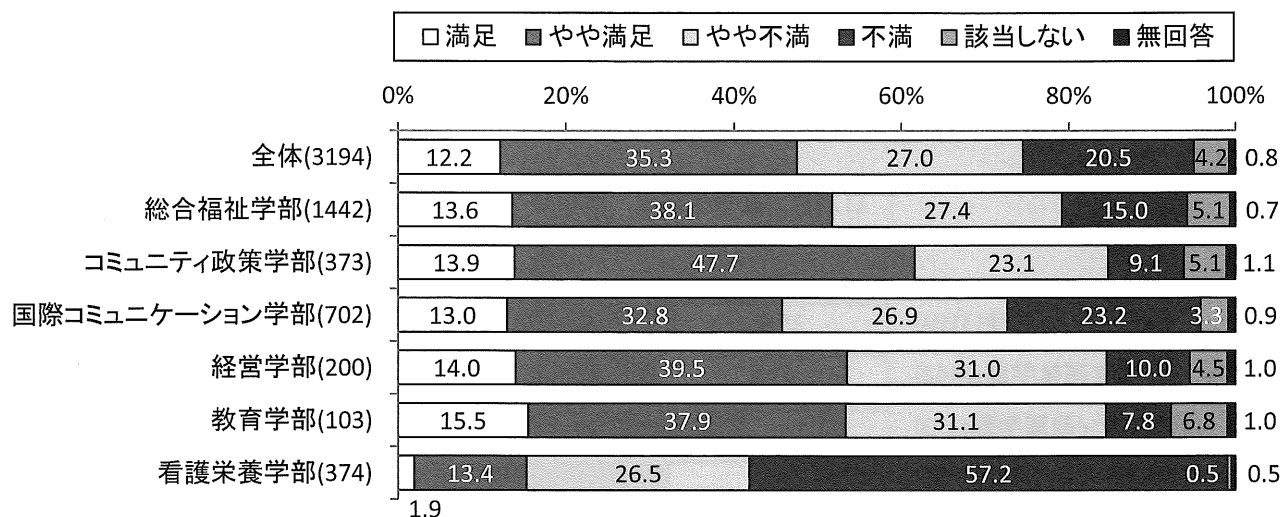
図Ⅱ-6-3-1 事務局からの連絡のわかりやすさ



2) 事務(事務局の仕事)の的確さ

全体としては、「満足」12.2%と、「やや満足」35.3%に対して、「やや不満」27.0%と「不満」20.5%となり、「満足」と「不満」がほぼ半々となった。学部別では、1)「事務局からの連絡のわかりやすさ」と同じく看護栄養学部を除く5つの学部では、「不満」と回答した割合が教育学部の7.8%から国際コミュニケーション学部の23.2%までややばらつくものの、おおむね全体と同じ傾向を示した。これに対して看護栄養学部では、「不満」が57.2%、「やや不満」が26.5%、満足度スコアも1.59と、1)同様、学生の強い「不満」があることがわかる。(図Ⅱ-6-3-2)

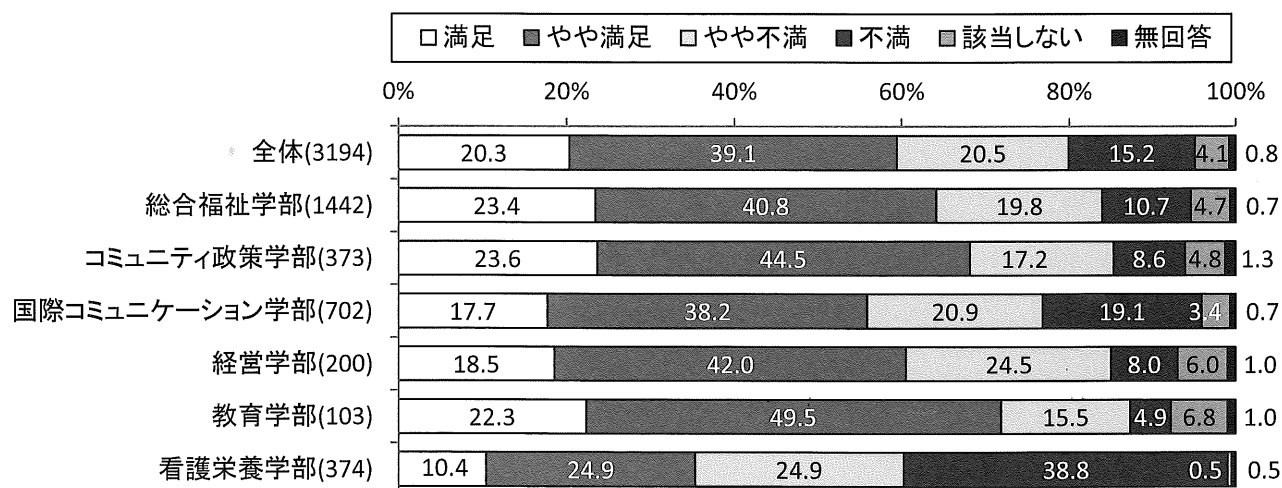
図Ⅱ-6-3-2 事務(事務局の仕事)の的確さ



3) 事務局窓口職員の学生に対する態度

全体としては、「満足」20.3%と、「やや満足」39.1%に対して、「やや不満」20.5%と「不満」15.2%となり、1)「事務局からの連絡のわかりやすさ」、2)「事務局の仕事の的確さ」と比べると「満足」の割合が高まり、「不満」と回答した割合が減少した。看護栄養学部においても、「不満」38.8%と回答した割合が最も高いとはいえ、1)、2)と比べると低下しており、全学部で窓口対応については、「不満」と感じる学生が減少していることがわかる。(図Ⅱ-6-3-3)

図Ⅱ-6-3-3 事務局窓口職員の学生に対する態度



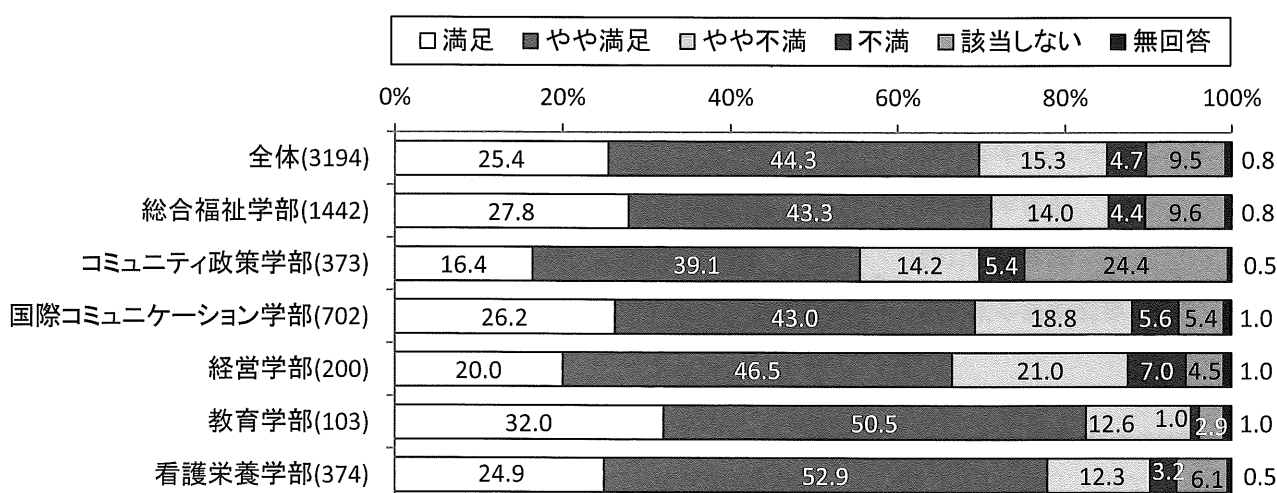
(4) 図書館（室）・パソコン室に関する満足度

図書館、パソコン室への満足 7割程度に改善傾向

1) 図書館（室）の蔵書数や蔵書の種類

全体の「満足」25.4%と「やや満足」44.3%の割合は約7割となった。「満足」が2割を超えていなかったのはコミュニティ政策学部16.4%のみで、逆に3割を超えたのが教育学部32.0%である。一方、いずれの学部でも「不満」は10%以下であった。ただし、「該当しない」と回答した学生が総合福祉学部で139人(9.6%)、コミュニティ政策学部で91人(24.4%)見られた。他の学部でも若干名、「該当しない」を選択した学生がいる。この点については、学部ごとに原因と対応を考えるべきであろう。(図Ⅱ-6-4-1)

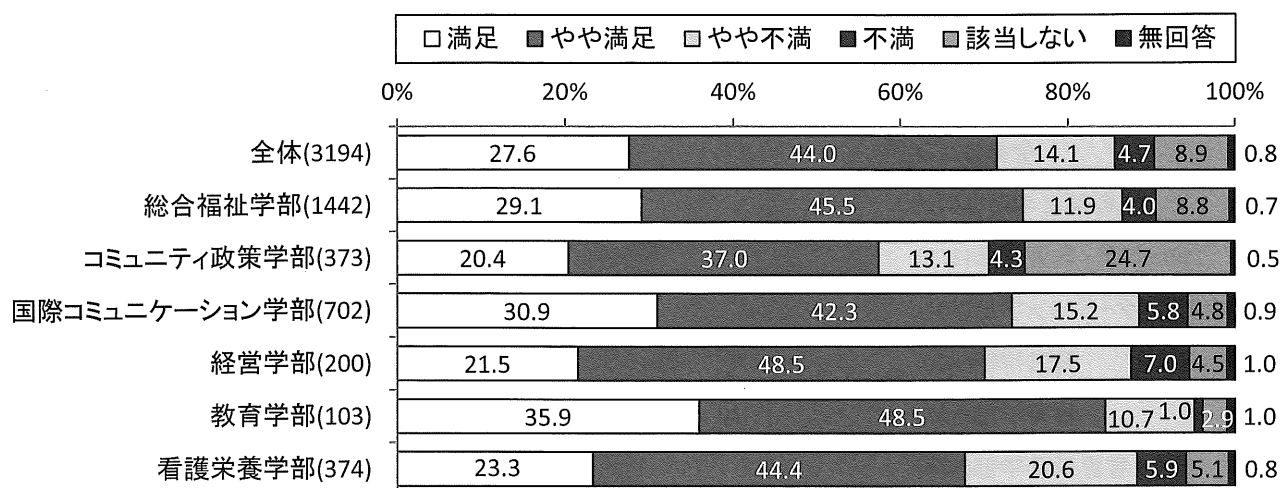
図Ⅱ-6-4-1 図書館(室)の蔵書数や蔵書の種類



2) 図書館（室）の開館時間

全体の「満足」27.6%と「やや満足」44.0%の割合は約7割と、1)「蔵書数や蔵書の種類」とほぼ同様の傾向にある。全ての学部で「満足」が2割を超えており、いずれの学部でも「不満」は10%以下であった。(図Ⅱ-6-4-2)

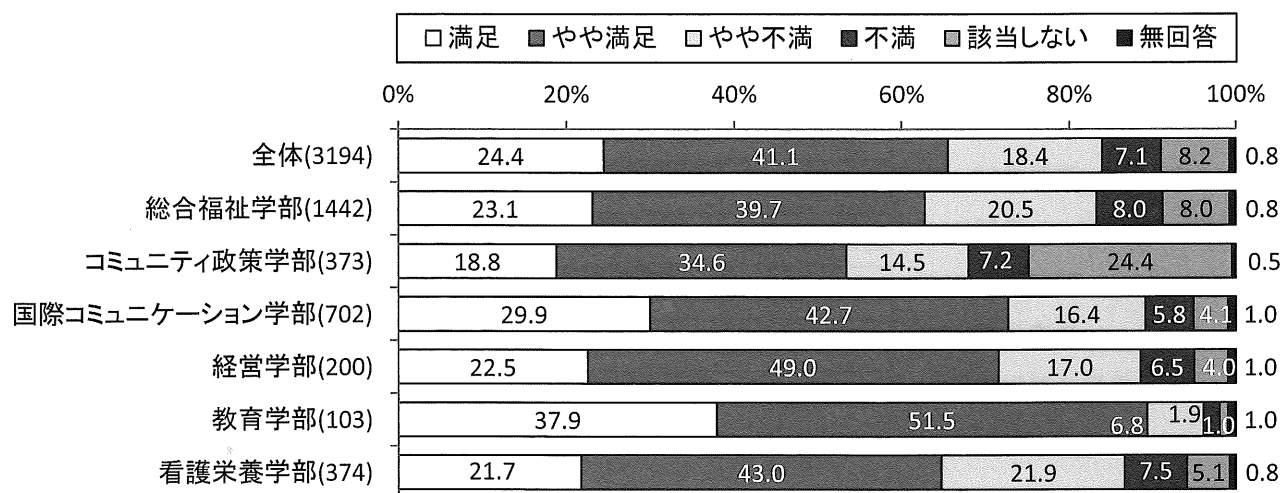
図Ⅱ-6-4-2 図書館(室)の開館時間



3) 図書館(室)の座席数・設備

全体の「満足」24.4%と「やや満足」41.1%の割合は約65%と、1)「蔵書数や蔵書の種類」、2)「開館時間」と比べるとやや低くなるが、全学部において満足度は高かった。中でも、平成25年9月よりラーニング・コモンズのスペースを設けた埼玉キャンパスでは、3学部とも「満足」と「やや満足」の合計が7割を超えており、特に教育学部では「満足」37.9%、「やや満足」51.5%と、約9割の学生から支持されていることがわかる。一方、全ての学部で「不満」は10%以下であった。(図Ⅱ-6-4-3)

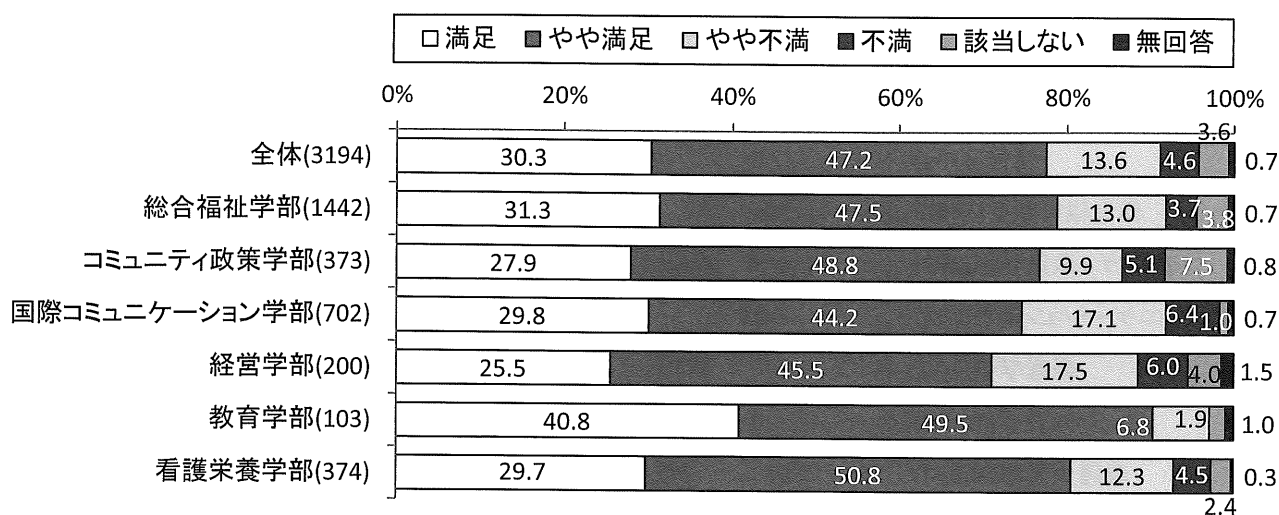
図Ⅱ-6-4-3 図書館(室)の座席数・設備(パソコン・ビデオ・コピー等)



4) パソコン室の利用時間

全体の「満足」30.3%と「やや満足」47.2%の割合は8割近くになった。各学部の「満足」も25%を超えている一方、最も多い「不満」は国際コミュニケーション学部の6.4%であり、全般的に満足度の高い項目である。また、前回の調査と比較しても、全体の「満足」+「やや満足」の合計割合で約17ポイントの上昇が認められた。(図Ⅱ-6-4-4)

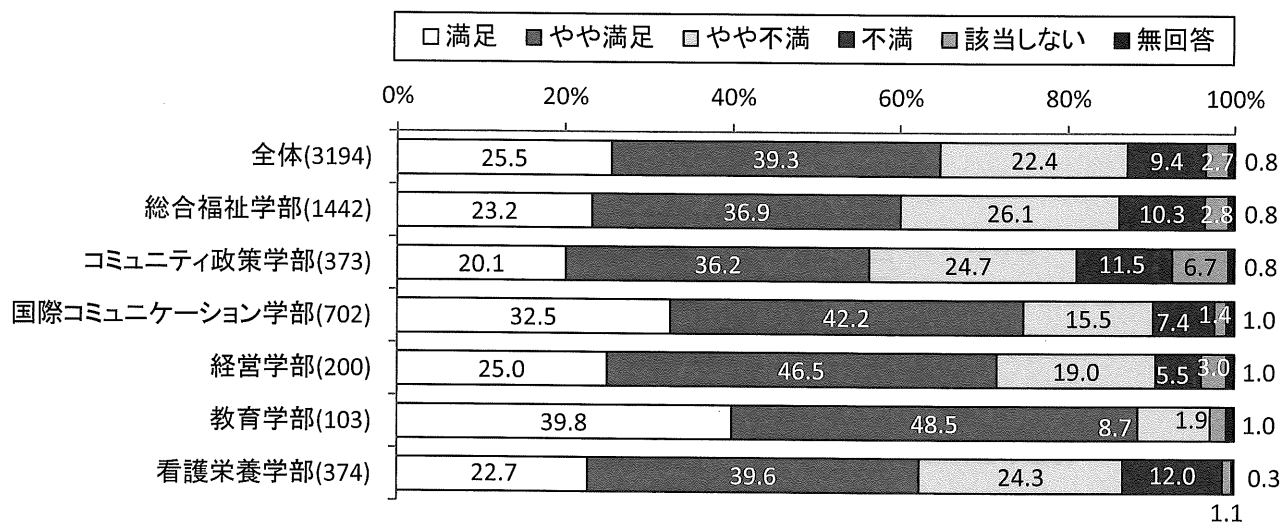
図Ⅱ-6-4-4 パソコン室の利用時間



5) パソコン室のパソコンの台数

全体の「満足」25.5%と「やや満足」39.3%の割合は、4)「パソコン室の利用時間」と比べると、やや低下しているが、それでも合計約65%が満足しているといえる。相対的に「不満」と回答した割合が10%を超える学部も見られ、千葉・千葉第二キャンパスの3学部がこれに該当する。(図Ⅱ-6-4-5)

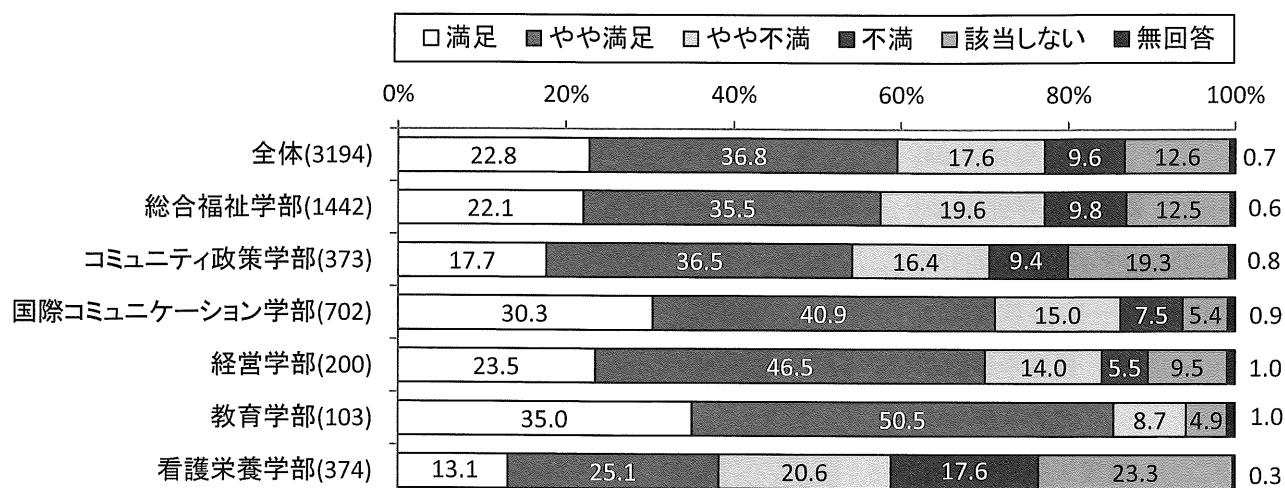
図Ⅱ-6-4-5 パソコン室のパソコンの台数



6) 貸し出しパソコンの利用のしやすさ

全体の「満足」22.8%と「やや満足」36.8%と約6割が満足している。一方、「やや不満」17.6%と「不満」9.6%もそれほど高い値ではない。これは、「該当しない」と回答した学生が看護栄養学部23.3%、コミュニティ政策学部19.3%、総合福祉学部12.5%で一定数いることも影響している。一方、「該当しない」が10%以下の埼玉キャンパスの3学部の「満足」・「やや満足」の合計は7割を超えており、利用者にとっての満足度はおおむね高いと思われる。(図Ⅱ-6-4-6)

図Ⅱ-6-4-6 貸し出しのパソコンの利用しやすさ



(5) 食堂・購買等に関する満足度

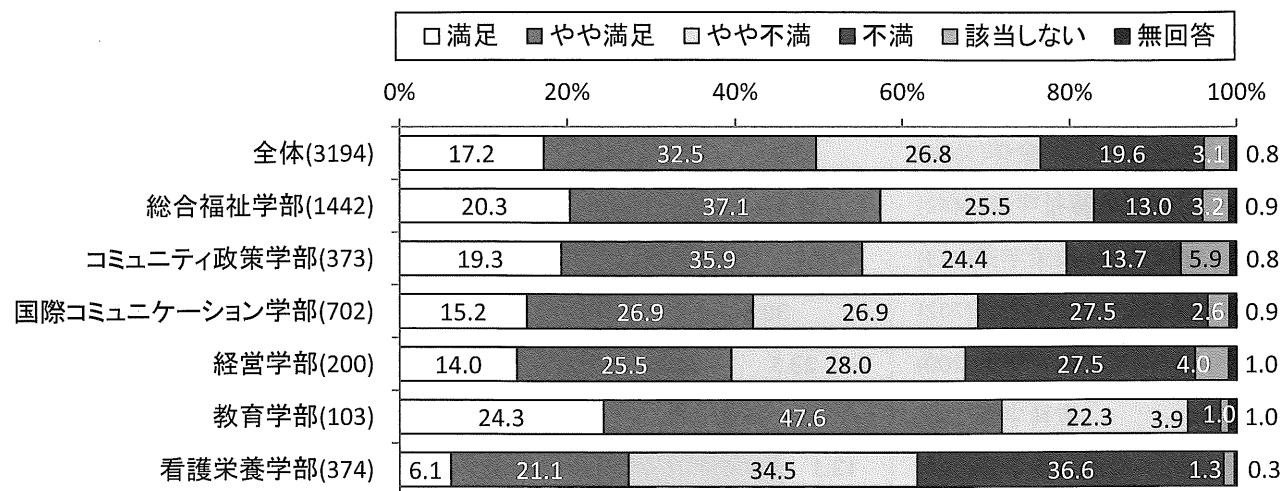
食堂、購買等 約50%が満足傾向

1) 食堂の快適さ

全体の「満足」17.2%と「やや満足」32.5%に対して「やや不満」26.8%と「不満」19.6%となっており、満足と不満がほぼ半々にわかれている。学部の傾向を見ると、総合福祉学部とコミュニティ政策学部がほぼ同じ傾向で「満足」が約20%、「やや満足」がおおよそ36%、「やや不満」約25%「不満」約13%とほぼ同様の傾向である。一方、看護栄養学部では「やや不満」34.5%と「不満」36.6%の合計が約7割と、非常に不満が高いと言える。

国際コミュニケーション学部と経営学部の5割以上の学生が不満を感じているのに対して、教育学部は約7割の学生がどちらかという満足と回答しており、同じ埼玉キャンパスにありながら、学部ごとに異なる結果となった。(図Ⅱ-6-5-1)

図Ⅱ-6-5-1 食堂の快適さ

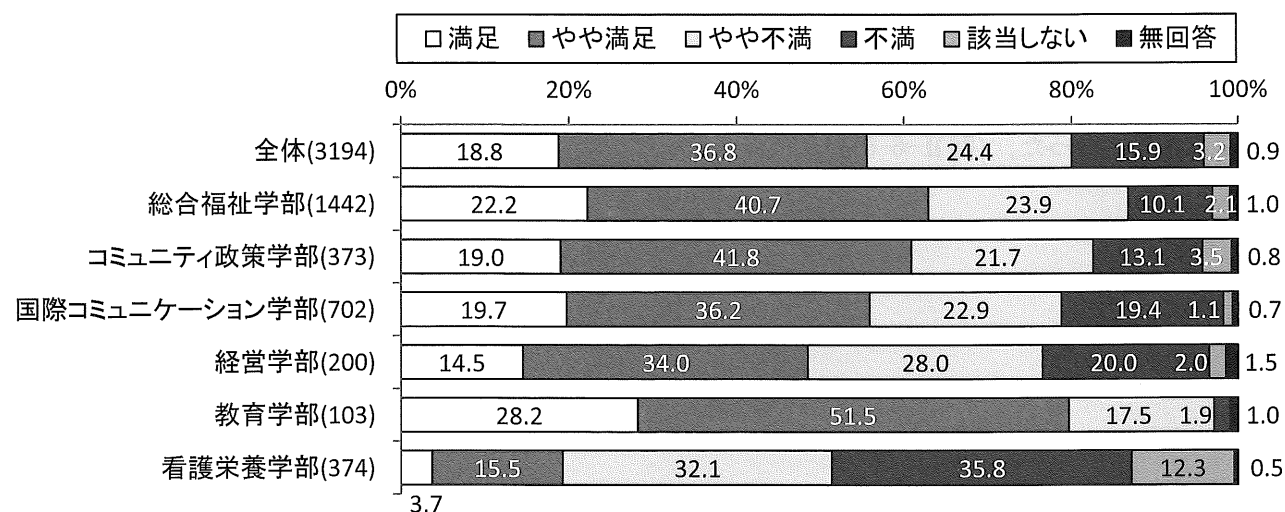


2) 購買・売店の使いやすさ

全体の「満足」18.8%と「やや満足」36.8%に対して「やや不満」24.4%と「不満」15.9%となっており、満足の傾向がやや高い。学部の傾向はほぼ 1)「食堂の快適さ」と同様で、総合福祉学部とコミュニティ政策学部の「満足」が約 20%前後、「やや満足」がおおよそ 40%、「やや不満」約 22%、「不満」約 10～13%である。一方、看護栄養学部では「該当しない」も 12.3%あるが、「やや不満」32.1%と「不満」35.8%の合計が 7 割近い。

国際コミュニケーション学部と経営学部の 5 割以上の学生が不満を感じているのに対して、教育学部は約 8 割の学生がどちらかという満足と回答していた。(図Ⅱ-6-5-2)

図Ⅱ-6-5-2 購買・売店の使いやすさ



(6) その他の設備・学生サービスへの満足度

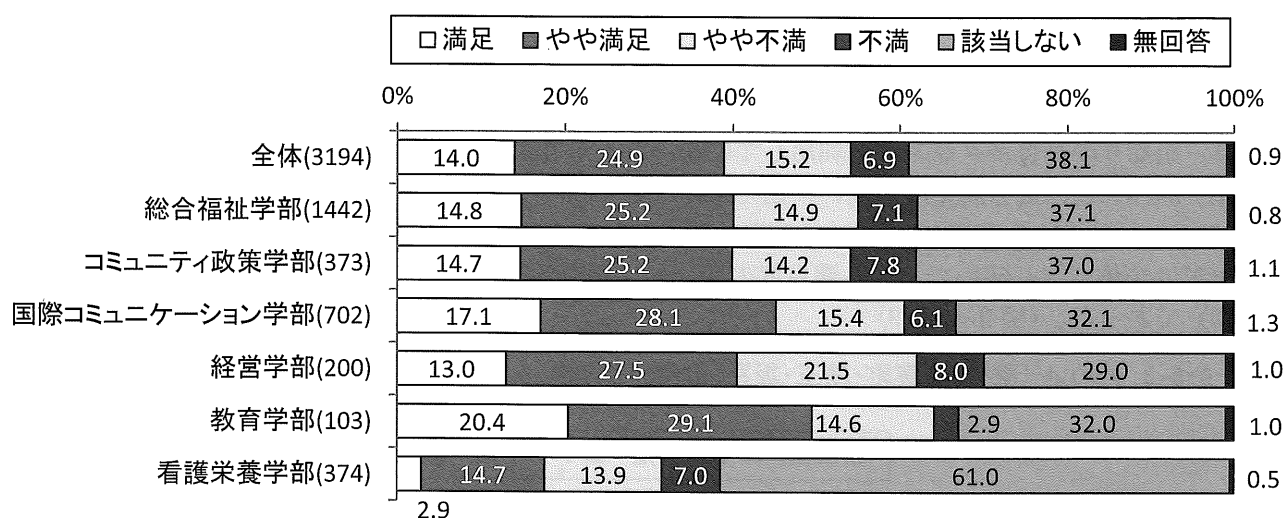
1) サークルの部室の使いやすさ

「該当しない」と回答した割合が、大学全体で 38.1%、総合福祉学部 37.1%、コミュニティ政策学部 37.0%、国際コミュニケーション学部 32.1%、経営学部 29.0%、教育学部 32.0%、看護栄養学部 61.0% が存在している。かなりの割合の学生がサークル室を利用していないことがうかがえる。これを踏まえて、全体としては、「満足」14.0%と「やや満足」24.9%に対して、「やや不満」15.2%と「不満」6.9%となり、「満足」の度合いがやや上回っている。

学部別に見ると、「満足」と「やや満足」は、総合福祉学部 14.8%、25.2%（満足度スコア 2.77）、コミュニティ政策学部 14.7%、25.2%（2.76）、国際コミュニケーション学部 17.1%、28.1%（2.84）、経営学部 13.0%、27.5%（2.65）、教育学部 20.4%、29.1%（3.00）、看護栄養学部 2.9%、14.7%（2.35）であった。満足度スコアは、教育学部が（3.00）と最も高く、看護栄養学部が（2.35）と最も低く、他の学部は（2.65～2.84）の範囲で、総じて満足度が高いことがうかがえる。（図Ⅱ-6-6-1）

学年別で見ると、1年次生で（2.70）、2年次生で（2.77）、3年次生で（2.74）、4年次生で（2.83）と、学年が上がるにつれ満足度が高くなる傾向が見られる。

図Ⅱ-6-6-1 サークルの部室の使いやすさ

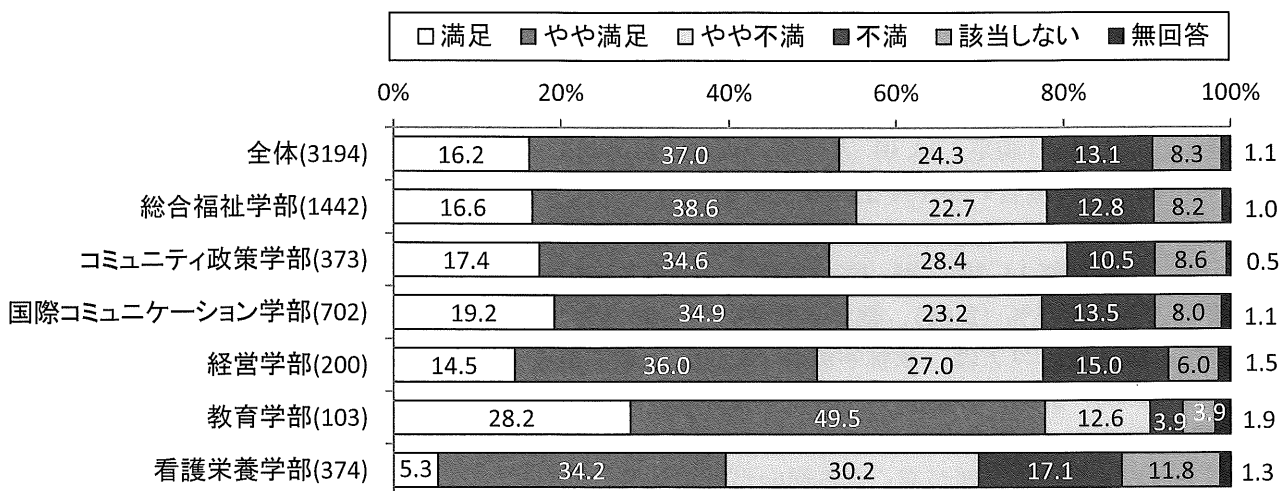


2) 学生が自由に使えるスペース

「満足」と「やや満足」はそれぞれ、大学全体 16.2%、37.0%（スコア 2.62）、総合福祉学部 16.6%、38.6%（2.65）、コミュニティ政策学部 17.4%、34.6%（2.65）、国際コミュニケーション学部 19.2%、34.9%（2.66）、経営学部 14.5%、36.0%（2.54）、教育学部 28.2%、49.5%（3.08）、看護栄養学部 5.3%、34.2%（2.32）であった。教育学部の「満足」と「やや満足」の割合が 77.7%（3.08）を筆頭に、看護栄養学部以外の学部において、半数以上の学生が満足していることがうかがえる。（図Ⅱ-6-6-2）

学年別で見ると、1年次生で（2.73）、2年次生で（2.61）、3年次生で（2.56）、4年次生で（2.56）と、学年が上がるにつれ満足度が低くなる傾向が見られる。

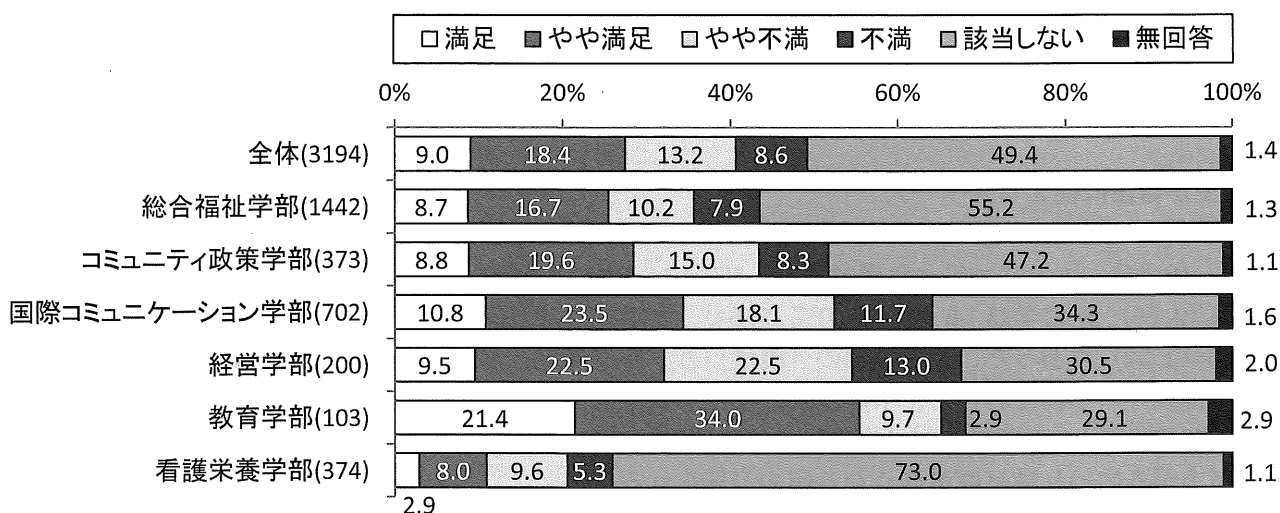
図Ⅱ-6-6-2 学生が自由に使えるスペース



3) グラウンドの使いやすさ

「該当しない」と回答した割合が大学全体で 49.4%、総合福祉学部 55.2%、コミュニティ政策学部 47.2%、国際コミュニケーション学部 34.3%、経営学部 30.5%、教育学部 29.1%、看護栄養学部 73.0% であり、かなりの割合がグラウンドを利用していない状況がうかがえる。教育学部は「満足」21.4%、「やや満足」34.0%と、最も満足度が高い。他の学部は若干のバラツキはあるが、「満足」と「やや満足」の合計が 25.4～34.3%の範囲内にあり、「不満」と「やや不満」を合わせた割合を少し上回っている。満足度スコアは全体で (2.56) で、最も満足度の高いのは教育学部 (3.09) で、最も低いのは看護栄養学部 (2.33) であった。(図Ⅱ-6-6-3)

図Ⅱ-6-6-3 グラウンド(更科・生実町・埼玉・坂戸)の使いやすさ



4) スクールバスの使いやすさ

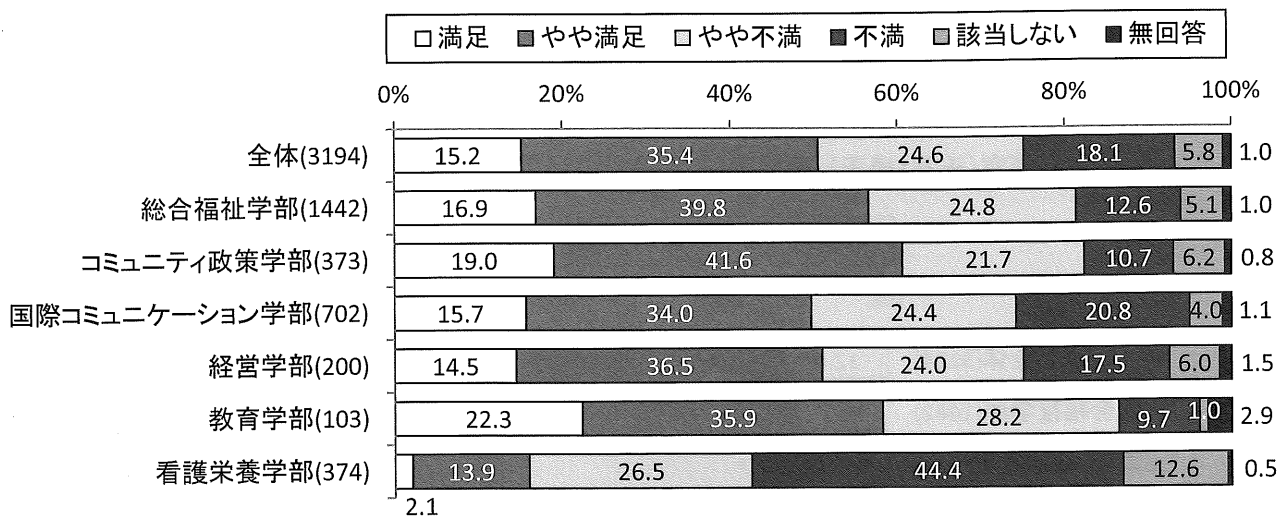
「該当しない」と回答した割合が、大学全体で 5.8%、最高が看護栄養学部の 12.6%、最低が教育学部 1.0%と、どの学部もほとんどの学生がスクールバスを利用している。

満足度の割合が一番高いのは教育学部で、「満足」22.3%、「やや満足」35.9%となった。概ね全学部

の半数以上の学生が、「満足」「やや満足」していることがうかがえる。

尚、看護栄養学部は、「不満」44.4%、「やや不満」26.5%と合わせて7割の学生が不満であり、その原因を分析する必要がある。スコアも看護栄養学部(1.70)と不満度が高く、他の5学部のスコアは(2.47~2.74)の範囲にあり、概ね満足していることがうかがえる。(図Ⅱ-6-6-4)

図Ⅱ-6-6-4 スクールバスの使いやすさ

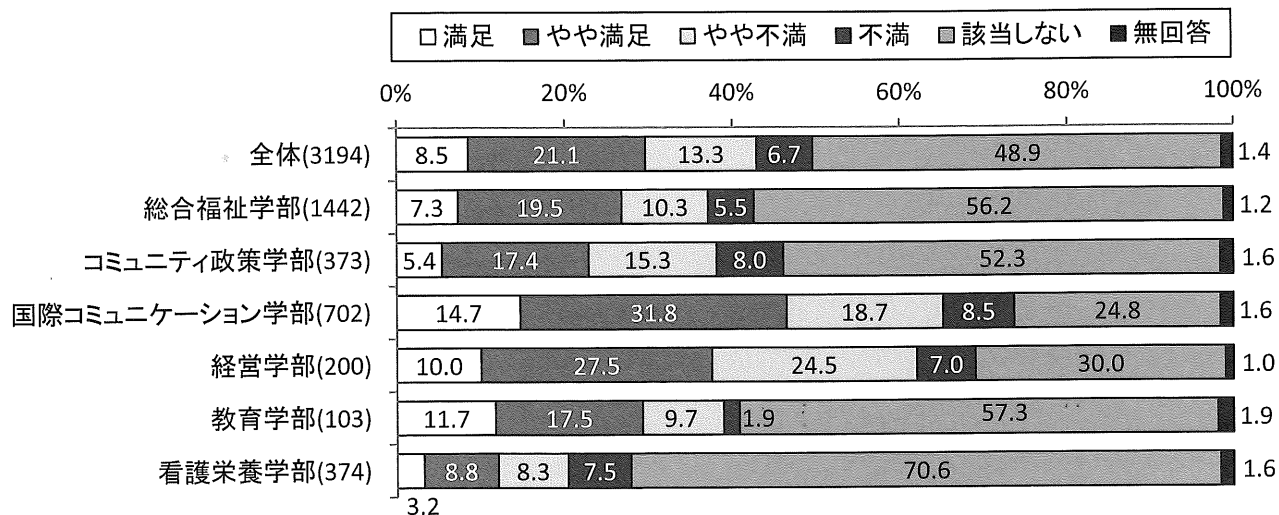


5) 留学・語学研修など海外プログラムの内容

「該当しない」と回答した割合の高い順に、看護栄養学部70.6%、教育学部57.3%、総合福祉学部56.2%、コミュニティ政策学部52.3%で、国際コミュニケーション学部と経営学部以外は利用ニーズが低いといえる。特に、看護栄養学部は、7割の学生が「該当」せずとしているのは注目すべきである。

これを踏まえて、「満足」と「やや満足」はそれぞれ、総合福祉学部7.3%、19.5% (スコア2.67)、コミュニティ政策学部5.4%、17.4% (2.44)、国際コミュニケーション学部14.7%、31.8% (2.71)、経営学部10.0%、27.5% (2.59)、教育学部11.7%、17.5% (2.95)で、コミュニティ政策学部と看護栄養学部以外は、「満足」と「やや満足」の割合が、「不満」と「やや不満」の割合を上回っている。(図Ⅱ-6-6-5)

図Ⅱ-6-6-5 留学・語学研修など海外プログラムの内容



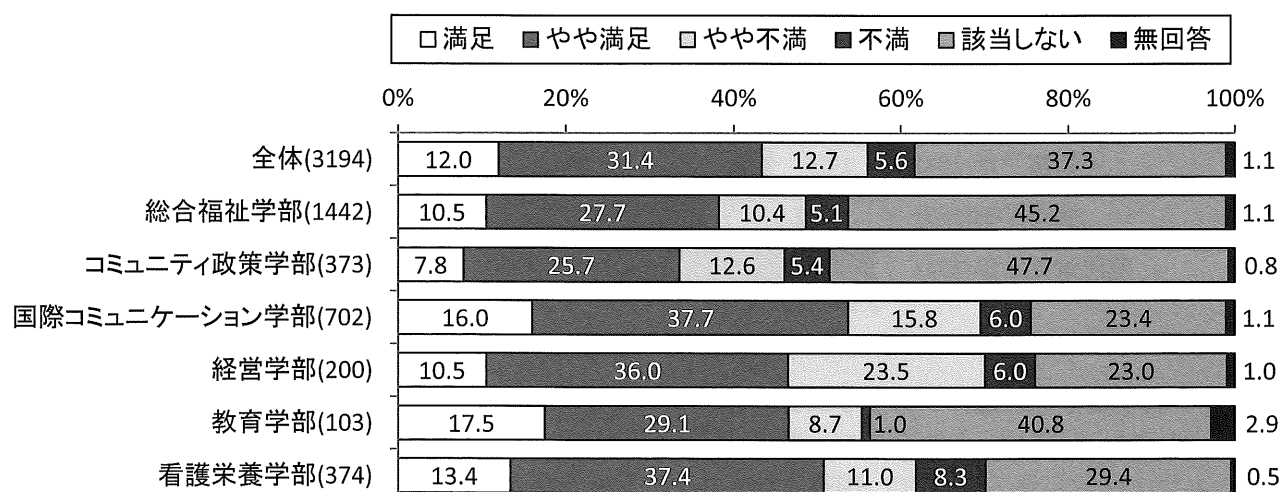
6) 保健相談室・保健室の利用のしやすさ

「該当しない」と回答した割合が高いのは、コミュニティ政策学部 47.7%、総合福祉学部 45.2%、教育学部 40.8%で、国際コミュニケーション学部、経営学部、看護栄養学部と利用頻度の違いが見られる。

これを踏まえて、「満足」と「やや満足」はそれぞれ、総合福祉学部 10.5%、27.7% (スコア 2.81)、コミュニティ政策学部 7.8%、25.7% (2.70)、国際コミュニケーション学部 16.0%、37.7% (2.84)、経営学部 10.5%、36.0% (2.67)、教育学部 17.5%、29.1% (3.12)、看護栄養学部で 13.4%、37.4% (2.80) であり、「不満」と「やや不満」を大きく上回っており満足度が高い。(図Ⅱ-6-6-6)

学年別の満足度を見ると、最高は1年次生 (2.84)、最低は3年次生 (2.77) で、総じて全ての年次生の満足度が高いことがうかがえる。

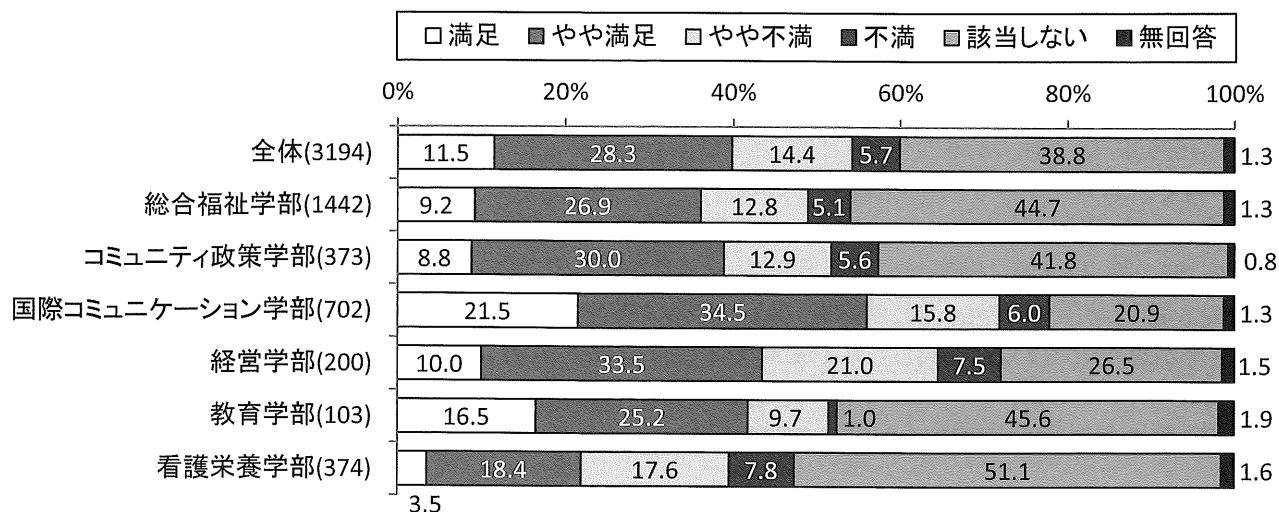
図Ⅱ-6-6-6 保健相談室(千葉・埼玉)・保健室(千葉第2)の利用しやすさ



7) 学生相談室・学生総合支援室の利用のしやすさ

「該当しない」と回答した割合が高い順に、看護栄養学部 51.1%、教育学部 45.6%、総合福祉学部 44.7%、コミュニティ政策学部 41.8%で、国際コミュニケーション学部 20.9%、経営学部 26.9%と比較すると、利用頻度に違いが見られる。これを踏まえて、「満足」と「やや満足」はそれぞれ、総合福祉学部 9.2%、26.9% (2.74)、コミュニティ政策学部 8.8%、30.0% (2.73)、国際コミュニケーション学部 21.5%、34.5% (2.92)、経営学部 10.0%、33.5% (2.64)、教育学部 16.5%、25.2% (3.09) で、「不満」と「やや不満」を合わせた割合を大きく上回っている。尚、看護栄養学部は、「満足」3.5%、「やや満足」18.4%に対して、「不満」7.8%、「やや不満」17.6%で、不満が満足を少し上回っている。(図Ⅱ-6-6-7)

図Ⅱ-6-6-7 学生相談室・学生総合支援室の利用しやすさ

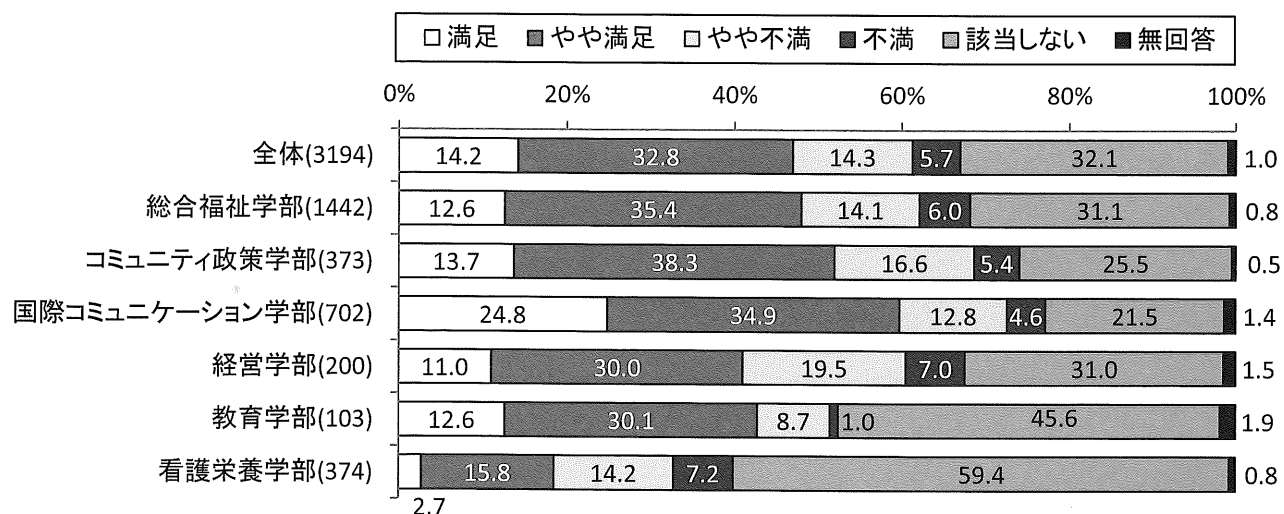


8) キャリア支援センター・室の利用しやすさ

「該当しない」と回答した割合が高いのは看護栄養学部 59.4%、教育学部 45.6%で、総合福祉学部、コミュニティ政策学部、国際コミュニケーション学部、経営学部との利用ニーズに違いが見られる。これを踏まえて「満足」と「やや満足」はそれぞれ、国際コミュニケーション学部 24.8%、34.9%（満足度スコア 3.04）、コミュニティ政策学部 13.7%、38.3%（2.82）で、半数以上の学生が満足し、不満足を大きく上回っている。一方、看護栄養学部は 2.7%、15.8%（2.35）と満足度の割合が低く、「該当しない」の割合が高い。（図Ⅱ-6-6-8）

学年別の満足度割合を見ると、「満足」と「やや満足」はそれぞれ、1年次生 10.1%、28.6%（2.84）、2年次生 9.5%、26.8%（2.73）、3年次生 14.9%、39.9%（2.81）、4年次生 25.0%、39.8%（2.92）で、3・4年次生の高学年ほど満足度の割合が高いのは、就職活動のニーズの違いであることがうかがえる。

図Ⅱ-6-6-8 キャリア支援センター・室の利用しやすさ

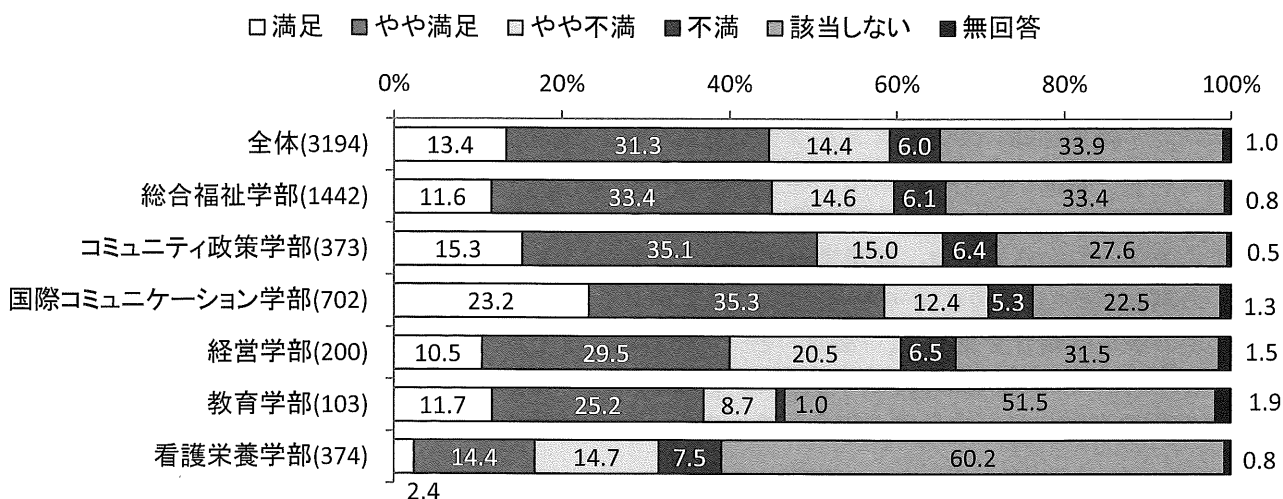


9) キャリア支援センター・室のプログラム・就業イベント

「該当しない」と回答した割合が高い順に、看護栄養学部 60.2%、教育学部 51.5%、総合福祉学部 33.4%、経営学部 31.5%、コミュニティ政策学部 27.6%、国際コミュニケーション学部 22.5%の順で、学部によって参加する割合が異なっている。特に看護栄養学部と教育学部の「該当しない」の割合が高いのは、学部の特性が原因と考えられる。また、学年別の「該当しない」の割合は、1 年次生 48.1% (2.80)、2 年次生 46.9% (2.68)、3 年次生 20.2% (2.81)、4 年次生 11.5% (2.83) と、学年が高くなるにつれ参加頻度が高く、スコアも少しずつ上昇している。

「満足」と「やや満足」はそれぞれ、総合福祉学部 11.6%、33.4% (2.77)、コミュニティ政策学部 15.3%、35.1% (2.82)、国際コミュニケーション学部 23.2%、35.3% (3.00)、経営学部 10.5%、29.5% (2.66)、教育学部 11.7%、25.2% (3.02)、看護栄養学部 2.4%、14.4% (2.30) で、学部により満足度の割合が異なっている。特に、コミュニティ政策学部と国際コミュニケーション学部の満足度の割合が 5 割以上で、「不満」と「やや不満」と合わせた割合に対して 2～3 倍程度、上回っている。一方、看護栄養学部の満足度割合は高くない。(図Ⅱ-6-6-9)

図Ⅱ-6-6-9 キャリア支援センター・室の支援プログラム・就職イベント



第6章 大学の教育環境のまとめ

授業、教員に関する満足度を見てみると、講義科目と演習科目の授業内容および教員の態度については全体としておよそ3分の2の学生が満足していた。学部別では極端な差はないが、専門職養成系の学部の満足の割合が他の学部より若干高い傾向がみられ、コミュニティ政策学部の満足度がやや低い結果であった。オフィス・アワーは「該当しない」と回答した学生が4分の1を占めており、これは教員と話す機会が他にある、制度を知らない、必要を感じない等、様々な理由が考えられるが、教員と学生との貴重な接点でもあり、今後さらに有効な利用に繋げたい。

教室の設備に関する満足度は、全般的に満足の割合が高く、学部間の数値の差も大きくない傾向があった。前回調査に比べ、満足とする学生が4から10ポイント増加しており、この4年間に教室の環境はかなり改善されたように思われる。

事務局の対応については、満足とする学生がやや少ないものの、前回調査の結果より改善されてきている。しかし、看護栄養学部では不満とする学生が多く、学生に強い不満があることがうかがわれ、原因の究明と早急な改善が望まれる。

図書館については、「該当しない」と回答した学生が総合福祉学部で10%、コミュニティ政策学部で24%程度見られた。他の学部でも若干名、「該当しない」を選択した学生がいる。図書館の積極的な利用を促すため、学部ごとに原因と対応を考えるべきであろう。パソコン室の利用時間については、前回の調査と比較しても、満足とする学生の割合が約17ポイント上昇し、「該当しない」学生も少なく、パソコン室の整備が進み、学生の利用状況も充実してきたことがうかがわれる。

食堂については、満足とする学生が全体で半数に満たない。学部、学科が増え、学生数も増加している現状に十分対応しきれていない可能性があるのではないだろうか。特に、看護栄養学部では不満とする学生が約7割と、非常に不満が高く、早急な対策が望まれる。

その他の設備やサービスに関しては、その利用状況や満足度に学部の特性や学年による違いがあり、一概には言えないが、スクールバスについては全体で約半数が満足としており、前回調査よりも改善されていた。しかし、看護栄養学部は7割の学生が不満としており、その原因を分析する必要がある。また、コミュニティ政策学部は就職に関する悩みが多かったが、キャリア支援の利用は決して少なくなく、満足度も全体とそれほど差はなかった。

第7章 全体的な評価

(1) 淑徳大学への評価

大学に対し、およそ6割が満足と評価

「満足」と「やや満足」はそれぞれ、大学全体 13.2%、46.6% (スコア 2.65)、総合福祉学部 14.8%、49.4% (2.73)、コミュニティ政策学部 11.0%、45.0% (2.58)、国際コミュニケーション学部 13.2%、43.7% (2.63)、経営学部 16.5%、37.5% (2.59)、教育学部 18.4%、58.3% (2.98)、看護栄養学部 6.1%、43.9% (2.45) であり、学部によるバラツキはあるが、半数以上の学生が概ね満足していることがうかがえる。特に、満足度の高いのは、総合福祉学部 64.2%と教育学部 76.7%である。

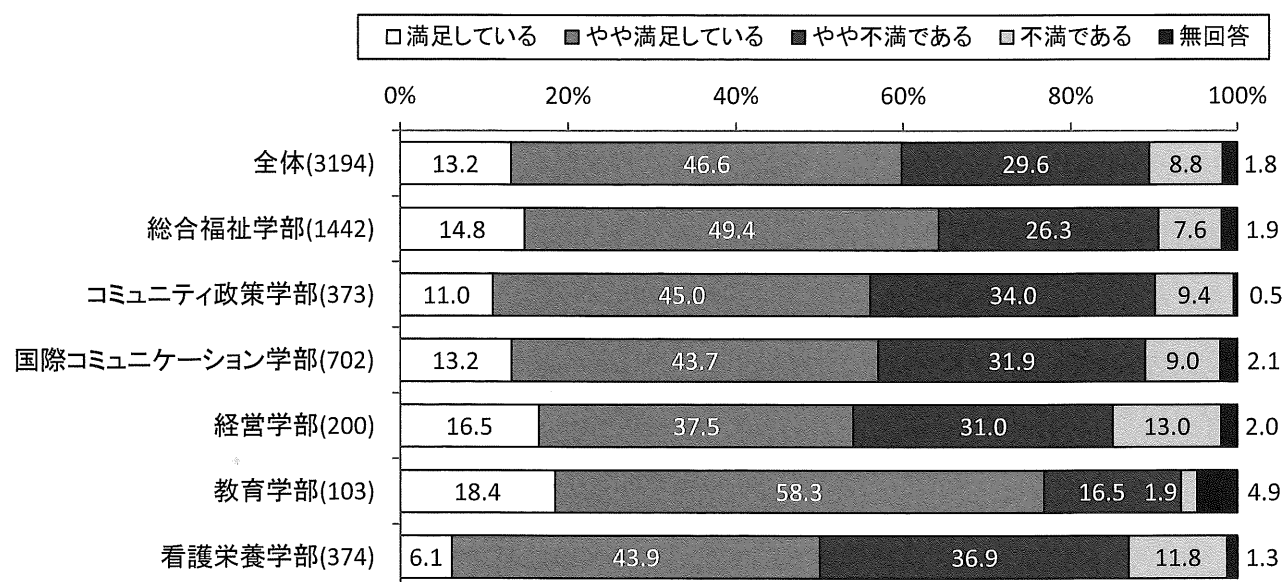
一方、「不満」の割合を見ると、経営学部が 13.0% (経営学科 10.3%、観光経営学科 16.3%)、看護栄養学部が 11.8% (看護学科 7.6%、栄養学科 23.7%) と、他学部が 1.9~9.4%の範囲に対して 10%を超えているところが注目される。(図Ⅱ-7-1-1)

男女別の「満足」と「やや満足」は、男子 14.9%、40.9%、女子 11.9%、50.9%と、半数以上の学生が満足しており、また女子の満足度が男子より少し高い。

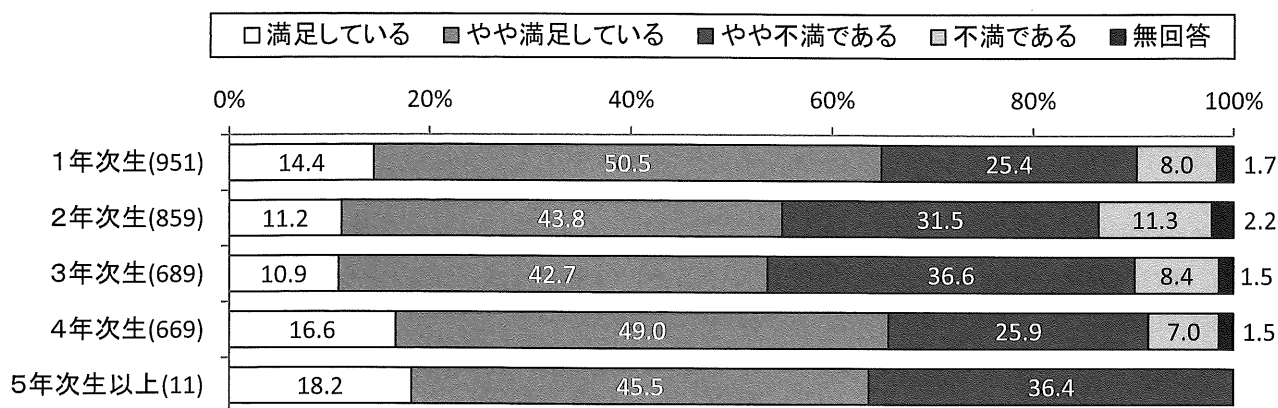
学年別で見ると、学年別の満足度割合を見ると、「満足」と「やや満足」はそれぞれ、1年次生 14.4%、50.5% (スコア 2.73)、2年次生 11.2%、41.3% (2.56)、3年次生 10.9%、42.7% (2.57)、4年次生 16.6%、49.0% (2.76) で、半数以上の学生が満足しており、特に1、4年次生の満足度の割合が高い。(図Ⅱ-7-1-2)

学科別で「満足」と「やや満足」の割合を見ると、こども教育学科が 18.4%、58.3% (2.98) と満足度が最も高く、反対に栄養学科は 2.1%、32.0% (2.13) と最も低かった。(図Ⅱ-7-1-3)

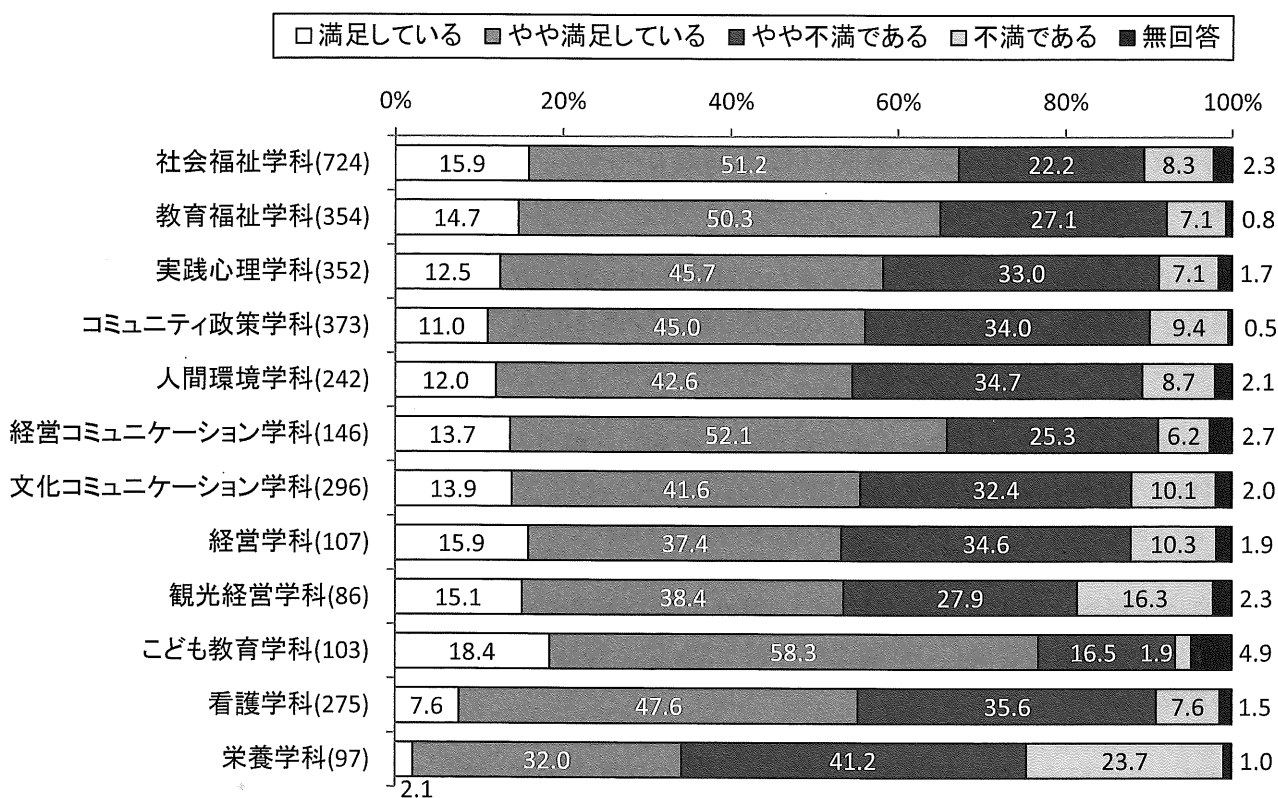
図Ⅱ-7-1-1 あなたは、全体的に淑徳大学をどう評価していますか



図Ⅱ-7-1-2 あなたは、全体的に淑徳大学をどう評価していますか(学年別)



図Ⅱ-7-1-3 あなたは、全体的に淑徳大学をどう評価していますか(学科別)



(2) 淑徳大学の良い点、勧めたい点（自由回答から）

学生からの質問や選択肢に縛られない回答を得るために自由回答形式の設問を設けた。有効回答者数 3,194 人のうち自由回答記入者は、881 人（27.6%）であった。回答者数の学部の内訳は、総合福祉学部 393 人（27.3%）、コミュニティ政策学部 110 人（29.5%）、国際コミュニケーション学部 204 人（29.1%）、経営学部 49 人（24.5%）、教育学部 14 人（13.6%）、看護栄養学部 111 人（29.7%）となっている。

その主な内容は、次の 5 点の大きな柱でまとめることができる。

1 点目は、「建物、備品等の設備面に関すること」についてである。トイレ、食堂、アリーナ、グラウンドがきれいで使用しやすい。また、学内のバリアフリー化が進んでおり、便利である、パソコン、スクールバス、教育教材、喫煙スペースが充実しているという意見もあった。さらに付属機関である図書館や発達臨床教育センター等の利用の利便性の良さも上がっている。

2 点目は、「教育全般に関すること」については、専門教育、海外留学、海外研修、課外学習内容、国家試験対策、少人数教育が充実している。講義が面白い等である。

3 点目は、「教員に関すること」については、教員との距離が近く、相談しやすく、親身になってくれ、人柄がよい。教育熱心で丁寧であり、意欲的である。

4 点目は、「学内での友人に関すること」について、人柄が良い。優しい人が多い。一生付き合う友人がいる。仲良くなれる。先輩が優しい。

5 点目は、「就職に関すること」については、キャリア支援室の対応が良い。キャリア支援が充実している等の意見があった。その他にボランティアの充実を上げている者も多くいた。

(3) 淑徳大学への要望、意見（自由回答から）

学生からの質問や選択肢に縛られない回答を得るために自由回答形式の設問を設けた。有効回答者数 3,194 人のうち自由回答者は、1,299 人（40.7%）であった。「淑徳大学の良い点、勧めたい点」の自由回答者より、「淑徳大学への要望、意見」の回答者の人数の方が多かった。回答者数の学部の内訳は、総合福祉学部 554 人（38.4%）、コミュニティ政策学部 146 人（39.1%）、国際コミュニケーション学部 280 人（39.9%）、経営学部 72 人（36.0%）、教育学部 17 人（16.5%）、看護栄養学部 230 人（61.5%）となっている。特に看護栄養学部栄養学科 78 人（80.4%）の回答者の割合が高かった。

その主な内容は、次の 4 点の大きな柱でまとめることができる。

1 点目は、「建物、備品等の設備面に関すること」についてである。学食のメニューの充実、席の増加、パソコンの台数増加、大学のバスの増加と時間帯の見直し、グラウンド、部室の整備、ATM の設置等が上がっていた。

2 点目に「履修に関すること」として、履修単位の制限の撤廃や授業科目の増加の要望があった。

3 点目に「教職員の態度」の問題点があがっていた。事務職員の各部署での対応の問題や教員の態度に関する問題があがっていた。

4 点目に「その他」として、学費が高いことや情報伝達の課題、学生のマナーの改善等があげられていた。なお、自由記述の集計結果は、各キャンパスで閲覧が可能となっている。

なお、以上の自由回答の結果は、「自由回答報告書」としてまとめ、期間を設けて各キャンパスで閲覧可能とする予定である。

Ⅲ. 「第 6 回淑徳大学学生生活実態調査」 調査票

平成 25 年度 淑徳大学学生生活実態調査

平成 25 年 10 月

この調査は、淑徳大学で学ぶ皆さんが、日頃本学の教育などについてどう考えているか、またどのような学生生活を送っているのかということを明らかにし、その情報を元に今後、皆さんがより良い学生生活を送れるように大学のカリキュラム、設備、奨学金制度、厚生施設などを改善していくことを目的としています。

質問事項は多いですが、すべて調査結果をより有効に分析するために必要なものです。調査の趣旨をご理解の上、是非ご協力をお願いいたします。

回答の方法は設問ごとに示されておりますので、それにしたがって、必ずあなた自身が、自分の考えにもとづいて、回答してください。

回答はすべて無記名となっております。

また回答の結果は、すべて統計的に処理されますので、あなたの回答内容が他の人にもれたり、この回答の結果によってあなたが何らかの不利益を受けたりすることは、絶対にありません。

回答の終わったアンケート用紙は、記入もれがないかもう一度確認した上で、下記の期日と回収方法にしたがって提出してください。

なお、この調査はキャンパスに通学している学部の学生を対象に実施するものです。

淑徳大学

【このアンケートについての問い合わせ先】

千葉キャンパス（代表）	0 4 3 - 2 6 5 - 7 3 3 1
埼玉キャンパス（代表）	0 4 9 - 2 7 4 - 1 5 1 1
千葉第 2 キャンパス・事務部	0 4 3 - 3 0 5 - 1 8 8 1

記

1 回収期日 平成 25 年 10 月 31 日（木）まで

2 回収方法

1) 教員への手渡し

※ 教員の指示に従ってください。

2) 事務局への持参（千葉・千葉第 2 キャンパスで教員に渡せなかった場合）

※ 各キャンパスに備え付けの「アンケート回収ボックス」に投函してください
アンケート回収ボックス設置場所

千葉キャンパス……………5 号館 1 階

千葉第 2 キャンパス…事務局

★ 以下のそれぞれについて、番号で答える設問には、あてはまる番号に○印し、
具体的な記入を求める設問には、必要事項を記入してお答えください。

1. あなたご自身のことについて

F 1 性 別

- 1 男性 2 女性

F 2 現在の学年

- 1 1年次生 2 2年次生 3 3年次生 4 4年次生 5 5年次生以上

F 3 所属学科

千葉キャンパス	埼玉キャンパス	千葉第2キャンパス	その他
1 社会福祉学科	6 人間環境学科	12 看護学科	14 その他
2 教育福祉学科	7 経営コミュニケーション学科	13 栄養学科	(科目等履修生
3 実践心理学科	8 文化コミュニケーション学科		・聴講生など)
4 人間社会学科	9 経営学科		
5 コミュニティ政策学科	10 観光経営学科		
	11 こども教育学科		

F 4 受験した入試の種類

- 1 A O入試 2 推薦入試 3 センター試験利用入試 4 その他()

F 5 淑徳大学を選んだ理由について、あてはまるものをすべて選んでください。

- 1 自分が所属する学科・コースの専門的な勉強をしたかったから
- 2 自分の所属する学科・コース以外の科目も広く勉強できると思ったから
- 3 免許や資格を取得できると思ったから
- 4 将来つきたい仕事に必要な勉強がしたかったから
- 5 実践的・実学的な教育方法に魅力を感じたから
- 6 少人数教育に魅力を感じたから
- 7 自分の勉強したい科目が揃っているから
- 8 伝統や教育方針に魅力を感じたから
- 9 英語の力も身につくと思ったから
- 10 海外留学や海外研修に魅力を感じたから
- 11 サークル活動や課外講座などに魅力を感じたから
- 12 キャンパスの雰囲気、環境や施設、設備などが気に入ったから
- 13 オープンキャンパスに参加し、印象が良かったから
- 14 就職率が高いから
- 15 就職先が良いから
- 16 高校や予備校の先生にすすめられたから
- 17 友人や先輩にすすめられたから
- 18 家族や親戚にすすめられたから
- 19 自分の学力に合っていたから
- 20 自宅から通学できるから
- 21 その他 → 具体的に書いて下さい

F 6 淑徳大学は、あなたにとって

- 1 第1志望だった 2 第2志望だった 3 第3志望以下だった

F 7 現在の住まい

- 1 家族と同居 2 一人暮らし 3 寮 4 その他 ()

F 8 現在のお住まいから大学までの通学時間 (片道)

- 1 30分未満 4 1時間30分～2時間未満
2 30分～1時間未満 5 2時間以上
3 1時間～1時間30分未満

F 9 大学入学後に貸与奨学金を受けたことがありますか

- 1 受けたことがある 2 受けたことはない

↓

以下のF9SQの質問は、F9で「1 受けたことがある」に○印をつけた方のみ回答してください。
それ以外の方はQ1に進んでください。

F 9 S Q 現在も、貸与奨学金を受けていますか

- 1 受けている 2 今は、受けていない

2. あなた自身の学生生活に関することがらについて

Q1 淑徳大学に入学して、あなたは以下のような大学生活ができていますか。

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
a) 専門の勉強ができています	1	2	3	4
b) 自分の将来つきたい仕事にあった勉強ができています	1	2	3	4
c) 免許や資格の取得に必要な勉強ができています	1	2	3	4
d) 趣味やサークル活動など、勉強以外のことができています	1	2	3	4
e) ボランティア活動など社会に役立つことができています	1	2	3	4
f) 海外留学や国際交流など異文化コミュニケーションができています	1	2	3	4
g) 大学内の友人と楽しく交流できています	1	2	3	4

Q2 現在、あなたは学内外の学生団体や組織に所属していますか？あてはまるものをすべて選んでください。

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1 学内のクラブ・サークル | 3 学外の学生団体 |
| 2 クラブ・サークル以外の学内の団体 | 4 <u>所属していない</u> |



以下のQ2SQの質問は、Q2で「4. 所属していない」に○印をつけた方のみ回答してください。

それ以外の方はQ3に進んでください

Q2SQ 現在、あなたが学生団体や組織に入っていない理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

- 1 興味や関心のあるものがなかったから
- 2 自分が期待した成果が得られそうになかったから
- 3 人間関係がわずらわしいと思ったから
- 4 規律にしばられたくなかったから
- 5 時間割がきゅうくつで、時間が取れなかったから
- 6 アルバイトが忙しく、時間が取れなかったから
- 7 帰りの時間が遅くなると思ったから
- 8 自分の時間を大事にしたかったから
- 9 費用がかかるから
- 10 入るタイミングを逃したから
- 11 その他

具体的に書いて下さい

Q3. アルバイトについてお聞きします。現在、あなたは、アルバイトをしていますか。

- 1 している 2 していない



以下のQ3SQ1～Q3SQ4の質問は、Q3で「1. している」に○印をつけた方のみ回答してください。それ以外の方はQ4に進んでください。

Q3SQ1 大学の授業のある期間（4月～7月、9月～1月）の、週あたりの平均アルバイト時間はどれくらいですか。

- 1 10時間未満 2 10時間～19時間 3 20時間～29時間 4 30時間以上

Q3SQ2 現在行っているアルバイトの業種はどれですか。あてはまるものをすべて選んでください。

- 1 飲食店（配膳、洗い場、出前、レジ等）
2 新聞配達（新聞奨学生を含む）
3 小売店・スーパー・ガソリンスタンド等の商店の店員（レジ、販売、清掃等）
4 家庭教師・塾の講師
5 一般企業・学校・塾・病院・研究施設などの事務（データ入力、受付、資料整理等を含む）
6 パチンコ店・ボーリング場・ゲームセンター等の店員（清掃、受付、レジ等）
7 土木作業
8 荷物の運送や配送（運転、作業補助等）
9 工場での作業
10 福祉施設（事務、介護補助含む）
11 警備業務（会社、工場、商店等）
12 テーマパーク・スポーツセンター・遊園地のスタッフ
13 旅行・交通（発券、ガイド、案内業務含む）
14 その他 { 具体的に書いてください

Q3SQ3 アルバイト代は月額でおおよそいくらくらいですか（複数のアルバイトをしている人は合わせた額をお答えください）。

- | | |
|-----------|------------|
| 1 1万円未満 | 4 7～10万円未満 |
| 2 1～4万円未満 | 5 10万円以上 |
| 3 4～7万円未満 | |

Q3SQ4 アルバイト代の主な使い道について、あてはまるものをすべて選んでください。

- | | |
|-------------|--------------------------------|
| 1 学費 | 6 旅行・レジャー |
| 2 生活費 | 7 携帯電話・インターネット代 |
| 3 通学費（定期代等） | 8 交際費 |
| 4 課外活動 | 9 留学 |
| 5 ダブルスクール費 | 10 その他（ ） |

Q 4. 学生生活で悩んでいることがありますか。

1 ある 2 ない



以下のQ 4 S Qの質問は、Q 4で「1 ある」に○印をつけた方のみ回答してください。「2 ない」に○印をつけた方はQ 5に進んでください。

Q 4 S Q 学生生活での悩みについて、あてはまるものをすべて選んでください。

- 1 授業に関係すること（履修の仕方・勉強の仕方・レポートや論文の作成・ゼミの運営，実習・資格など）に関して
- 2 就職活動に関して
- 3 休学・退学に関して
- 4 学習目標（目的・学ぶ目標が見つからないこと）に関して
- 5 将来（進学・将来設計・結婚など）に関して
- 6 経済的な問題（学費・奨学金申請など）に関して
- 7 アルバイトに関して
- 8 自分の性格・心理に関して
- 9 心身の健康状態の問題に関して
- 10 友人関係（恋愛やクラス・サークル内の人間関係も含む）に関して
- 11 教員との関係に関して
- 12 家族との関係に関して
- 13 その他

具体的に書いてください

Q 5 大学にハラスメントの相談窓口があることを知っていますか。

1 知っている 2 知らない

Q 6 あなたの、授業へのとりくみや態度についてお聞きます。

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
a) 事前学習をしている	1	2	3	4
b) 事後学習をしている	1	2	3	4
c) 授業中に私語をする	1	2	3	4
d) 授業中に携帯電話・スマートフォンを操作する	1	2	3	4
e) 授業中に無断で教室をぬけだす	1	2	3	4
f) 授業中によく居眠りをする	1	2	3	4
g) 授業によく遅刻する	1	2	3	4
h) 授業によく欠席する	1	2	3	4
i) 授業中、ノートをきちんととる	1	2	3	4
j) わからないことは教員に質問する	1	2	3	4
k) わからないことは自分で調べる	1	2	3	4
l) 教員の話をよく聞いている	1	2	3	4
m) 提出物のしめきりはきちんと守る	1	2	3	4
n) 試験前に勉強する	1	2	3	4

Q10 あなたは次のようなことについて、大学生活全体を通じて身についたと思いますか。

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
a) 建学の精神（共生の理念）を理解できた	1	2	3	4
b) 図書や雑誌、参考資料にある情報を正しく理解する力がついた	1	2	3	4
c) 自分の知識や考えを文章で論理的に書く力がついた	1	2	3	4
d) パソコンやインターネットを使いこなす力がついた	1	2	3	4
e) 自分の考えをまとめてわかりやすく表現する力がついた	1	2	3	4
f) 相手の状況や考え方を考慮して話をしたり、対応する力がついた	1	2	3	4
g) 現状を分析し、問題点や課題を発見する力がついた	1	2	3	4
h) 筋道を立てて論理的に問題を解決する力がついた	1	2	3	4
i) 計画を立て、目標に向かってリーダーシップをとる力がついた	1	2	3	4
j) 国際的な視野が身についた	1	2	3	4

Q11 あなたは、全体的に自分の学生生活をどう評価していますか。

- | | |
|------------|-----------|
| 1 満足している | 3 やや不満である |
| 2 やや満足している | 4 不満である |

Q 7 あなたの日常生活の習慣や傾向についてお聞きます。

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
a) よく読書をする	1	2	3	4
b) 新聞を毎日読む	1	2	3	4
c) 図書館を利用する	1	2	3	4
d) ネットで調べものをする	1	2	3	4
e) 本で調べものをする	1	2	3	4
f) よくSNSを利用する	1	2	3	4
g) よくゲームをする	1	2	3	4
h) 朝食を毎日食べている	1	2	3	4
i) 定期的に運動している	1	2	3	4
j) 喫煙の習慣がある	1	2	3	4
k) 飲酒の習慣がある	1	2	3	4
l) 食欲がないことがある	1	2	3	4
m) 眠れないことがある	1	2	3	4
n) 何をするのも面倒だと感じることがある	1	2	3	4

Q 8 あなたの友人関係および教職員との関係についてお聞きます。

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
a) 大学で新しい友人がたくさんできた	1	2	3	4
b) 入学前からの友人が大学にいる	1	2	3	4
c) 大学内に、悩み事を相談できる友人がいる	1	2	3	4
d) 大学内に、悩み事を相談できる教職員がいる	1	2	3	4

Q 9 淑徳大学の学生のマナーについてお聞きます。

	マナーがよいと思う	まあよいと思う	あまりよくないと思う	マナーがよくないと思う
a) ゴミの捨て方	1	2	3	4
b) 授業中の私語	1	2	3	4
c) 授業中の携帯電話・スマートフォンの使用	1	2	3	4
d) スクールバスの利用の仕方	1	2	3	4
e) 学内の喫煙に関するマナー	1	2	3	4

3. 大学の教育環境や設備・サービスについて

Q12 本学の教育環境などについてのあなたの満足度をお聞きたいします。

なお、設備やサービスなどに関して、あなたがこれまでに一度も利用していない場合は、「8 該当しない」に○印してください。

	満足	やや満足	やや不満	不満	該当しない
1) 授業科目の種類	1	2	3	4	8
2) 授業の時間割	1	2	3	4	8
3) 履修指導・履修相談のあり方	1	2	3	4	8
4) 講義科目の授業内容	1	2	3	4	8
5) 実技・実験・実習・演習科目の授業内容	1	2	3	4	8
6) 免許・資格関連科目の授業内容	1	2	3	4	8
7) 教員の学生に対する態度	1	2	3	4	8
8) オフィス・アワーの利用しやすさ	1	2	3	4	8
9) 授業者数に対する教室の大きさ	1	2	3	4	8
10) マイクなどの教室の音響設備	1	2	3	4	8
11) プロジェクター・ビデオなどの教室の視聴覚設備	1	2	3	4	8
12) エアコンなどの教室の環境設備	1	2	3	4	8
13) 事務局からの連絡のわかりやすさ	1	2	3	4	8
14) 事務（事務局の仕事）の的確さ	1	2	3	4	8
15) 事務局窓口職員の学生に対する態度	1	2	3	4	8
16) 図書館（室）の蔵書数や蔵書の種類	1	2	3	4	8
17) 図書館（室）の開館時間	1	2	3	4	8
18) 図書館（室）の座席数・設備（パソコン・ビデオ・コピー等）	1	2	3	4	8
19) パソコン室の利用時間	1	2	3	4	8
20) パソコン室のパソコンの台数	1	2	3	4	8
21) 貸し出しのパソコンの利用しやすさ	1	2	3	4	8
22) 食堂の快適さ	1	2	3	4	8
23) 購買・売店の使いやすさ	1	2	3	4	8
24) サークルの部室の使いやすさ	1	2	3	4	8
25) 学生が自由に使えるスペース	1	2	3	4	8
26) グラウンド（更科・生実町・埼玉・坂戸）の使いやすさ	1	2	3	4	8
27) スクールバスの使いやすさ	1	2	3	4	8
28) 留学・語学研修など海外プログラムの内容	1	2	3	4	8
29) 保健相談室（千葉・埼玉）・保健室（千葉第2）の利用しやすさ	1	2	3	4	8
30) 学生相談室・学生総合支援室の利用しやすさ	1	2	3	4	8
31) （総合）キャリア支援センター・室の利用しやすさ	1	2	3	4	8
32) （総合）キャリア支援センター・室の支援プログラム・就職イベント	1	2	3	4	8

Q13 あなたは、全体的に、淑徳大学をどう評価していますか。

- | | |
|------------|-----------|
| 1 満足している | 3 やや不満である |
| 2 やや満足している | 4 不満である |

Q14 淑徳大学について良い点、人に勧めたい点などがあれば、自由にご記入ください。

Q15 淑徳大学について要望や意見があれば、自由にご記入ください。

☐

【ご協力、有り難うございました。】

終わりに

この学生生活実態調査はこれまで4年ごとに実施され、今回は第6回目となりました。今回の学生生活実態調査に回答を寄せていただいた学生は全部で3,194人となり、有効回収率は72.2%と、前回に比べ大幅に上昇しました。回答いただいた多くの学生に感謝申し上げますと共に、学生への調査票の配布と回収に協力してくださいました教職員の皆様に心より御礼申し上げます。

今回の調査では調査票の作成にあたり、全学的に行う調査であるため全学部共通の質問形式としたことや、時代や社会情勢の変化に合わせた設問、建学の精神と今年度の始めに示された大学のヴィジョンに沿った設問、他大学の調査結果と比較できる設問、文部科学省が求める主体的な学修を促す学士課程教育を意識した設問を盛り込む等、いくつかの変更を行いました。執筆にあたっては、項目ごとに見出しをつけ、章ごとにまとめを記載し、グラフを統一する等の工夫を施し、僅かではありますがクロス集計した結果を加えました。

今後の調査に向けては、学生に対する他の調査との違いを明確にし、この調査の目的に照らして学生生活に関する内容をさらに的確に問うものにする、基本的な設問は変更せず、前回調査との比較を可能にすること、他大学との比較を可能にするよう他の大学や組織が行っている調査内容に近い設問を増やすこと等を心掛けるとよいのではないかと考えます。

前回の報告書は記述編と資料編の2分冊でしたが、今回の報告書は記述編のみの刊行とさせていただきます。資料編および自由回答報告書は期間を決めて各学部で学生および教職員に閲覧いただくことにしておりますので、ぜひお目通しいただきますようお願いいたします。この報告書では全学的見地から概要を示すに留まっており、学部別にさらに詳細な分析を試みることは可能です。得られたデータの有効な活用のため、今後、データの管理・活用のシステムを検討したいと考えています。

18歳人口が減少してゆく時代を迎え、魅力ある大学作りに重点をおいて検討することが求められる中、淑徳大学の長所を伸ばし、大学のヴィジョンの実現に向けて今回の実態調査の結果を一人ひとりの教職員、あるいは各学部・学科、各部署で、また全学的なレベルでの改善に役立てていただけると幸いです。

最後に、調査票の作成および報告書の執筆に多大なご尽力をいただいた第6回淑徳大学学生生活実態調査委員会の委員の方々に心より感謝申し上げます。

第6回淑徳大学学生生活実態調査委員会
委員長 河野 洋子
(看護栄養学部 教授)

第6回 淑徳大学学生生活実態調査委員会

委員長	河野 洋子	看護栄養学部教授
副委員長	藤森 雄介	国際コミュニケーション学部准教授
委員	米村 美奈	総合福祉学部教授
	稲垣美加子	総合福祉学部教授
	赤崎 美砂	国際コミュニケーション学部教授
	高松まり子	看護栄養学部准教授
	青柳 涼子	コミュニティ政策学部准教授
	渡邊 誠	経営学部講師
	松原 健司	教育学部教授
	鈴木日出夫	千葉キャンパス 学生サポートセンター 課長
	佐藤 聖子	埼玉キャンパス 学生総合相談支援室
	小島 啓一	千葉第2キャンパス 看護栄養学部事務部 課長
事務局	品田 一帆	千葉キャンパス 大学事務部
	加固いづみ	埼玉キャンパス 総務部 主任
	岩上達一郎	千葉第2キャンパス 看護栄養学部事務部 (H25.9.30まで)
	森 敦	千葉第2キャンパス 看護栄養学部事務部 (H25.10.1より)
	荒木 俊博	千葉キャンパス 大学改革室

第6回 淑徳大学学生生活実態調査報告書

発行 第6回 淑徳大学学生生活実態調査委員会
〒260-8701 千葉市中央区大蔵寺町200
電話 043-265-7331

